

# ナビちゃんがつぶやき (CAD)

「はじめてみよう!CAD(共通・作図編)」  
「はじめてみよう!CAD(外部ファイル編)」の補足です。  
ナビちゃんがつぶやいています。

※解説内容がオプションプログラムの説明である  
場合があります。ご了承ください。



ナビちゃんのつばやき  
(CAD)

01	入力専用ライセンスの制限事項・解除方法	1
02	CADを単独起動するには?	2
	①修復セットアップして、[建設CAD]のショートカットを作成する	2
	②「CCad.EXE」のショートカットを作成する	4
	③武蔵ファイルをダブルクリックする	5
03	画面やデータの色を変更するには?	6
	画面の色を[設定]-[システムカラー設定]で変更する	6
	データの色を[設定]-[表示モード]-[表示色]で変更する	7
04	フリーページについて	9
05	DXF/DWGの図面読み込み時のQ&A	11
	①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合	11
	②レイアウト空間を読み込む場合	15
	③モデル空間をフリーページへ読み込む場合	16
	④モデル空間を用紙ページへ読み込む場合	18
	⑤モデル空間しかなく用紙系1/1になっている場合	19
	⑥不要なデータがある場合	20
	⑦複数図面がある場合	21
06	JWC/JWWの図面読み込み時のQ&A	24
	①不要なデータがある場合	24
	②複数図面がある場合	25
07	DXF/DWGファイルの読み込み・図面配置設定	27
	DXF/DWGファイルの変換に関する設定	27
	DXF/DWGファイルの読み込み設定	28
	DXF/DWGファイルの図面配置設定	29
08	JWC/JWWファイルの読み込み・図面配置設定	34
	JWC/JWWファイルの読み込み設定	34
	JWC/JWWファイルの図面配置設定	35
09	SXFファイルの読み込み設定	36
	SXFファイルの読み込み設定	36
10	DXF/DWG読み込みの基本情報	37
11	エクスプローラーからファイルを取り込むには?	38
12	印刷に関するQ&A	40
	①線種毎に作図ピッチを変更する	40
	②モノクロ印刷する	41
	③赤書き印刷する	41
	④印刷時の線幅を変更する	42
	⑤A1図面をA3で印刷したいときは・・・	42
	⑥任意にページを選択して印刷する	43
	⑦必要範囲のみ印刷する	44

13	外部ファイルの保存方法	45
	①1ページ毎、外部ファイル(SFC/P21)に保存する	45
	②1ページ毎、外部ファイル(DWG/DXF/JWW/JWC)に保存する	47
	③複数ページを一括して外部ファイル(SFC/P21)に保存する	48
	④複数ページを一括して外部ファイル(DWG/DXF)に保存する	49
	⑤図面を画像に変換して出力する	50
	⑥図面をPDFに変換して出力する	51
14	武蔵ファイルの保存先について	52
15	図面(別の武蔵ファイル)を合成するには?	54
16	ヘルプメニューに関するQ&A	57
	①各種資料(各種資料を表示する)	57
	②FCコンシェルジュ(FCコンシェルジュを利用する)	58
	③武蔵.TV(武蔵.TVを利用する)	58
17	シンボルに関するQ&A	59
	①登録したシンボルを配置する	59
	②補正倍率、左右反転、上下反転について	61
18	ラスタに関するQ&A	62
	①画像の種類	62
	②カラーラスタ・モノクロラスタの違い、ラスタデータの色について	62
	③配置方法	63
	④配置後の変更について	65
19	寸法線の詳細設定について	66
20	丸めについて	67
	①設定した丸めを書き込む	67
	②書き込んだ丸めを読み込む	68
21	Excelデータの読み込み・書き込みについて	69
	①Excelのデータに変換する	69
	②Excelのデータを読み込む	70
22	画像・色塗りデータの上下表示の変更は?	71
23	CADから縮尺設定した時のQ&A	72
24	縦横異縮尺について	73
25	赤書きの設定について	75
26	変形(寸法訂正)について	76



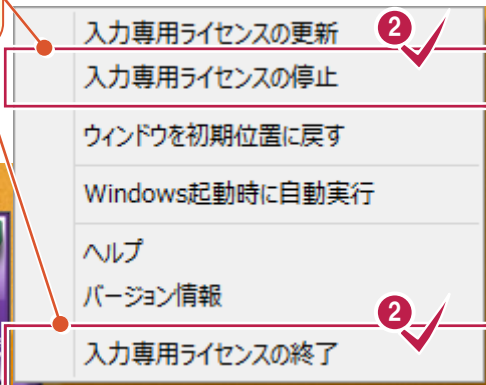


# 01 入力専用ライセンスの制限事項・解除方法

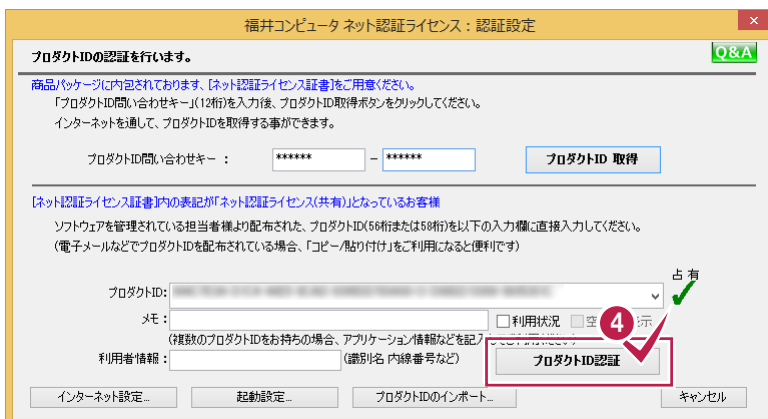
入力専用ライセンスでは各種データの入力や保存は可能ですが、成果物の印刷や出力などが行えません。以下の手順で入力ライセンスを「停止」または「終了」した後、ネット認証ライセンスの認証やUSBプロテクトの装着を行って、プログラムを再起動する必要があります。

1 まず、データを保存して、プログラムを終了します。

入力専用ライセンスを「停止」または「終了」します。



3 プログラムを再起動します。



5 データを開き、成果物の印刷や出力を行います。

1 まず、データを保存して、プログラムを終了します。

2 デスクトップの左下の[入力専用ライセンス]のアイコンでマウスの右ボタンを押して、ポップアップメニューの[入力専用ライセンスの停止]または[入力専用ライセンスの終了]をクリックします。

3 プログラムを再起動します。

4 [プロダクトID認証]をクリックします。

「USB」プロテクトをお使いの方は



「SNS-Wプロテクト」の場合はUSBプロテクトを装着してから、プログラムを再起動してください。「SNS-LAN-Xプロテクト」の場合は、そのままプログラムを再起動してください。

5 データを開き、成果物の印刷や出力を行います。



## 02 CADを単独起動するには？

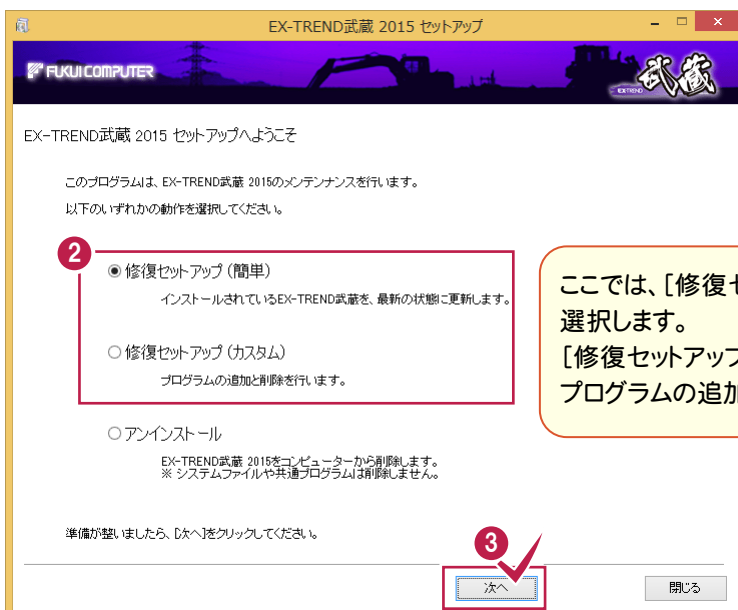
以下の3つの方法があります。

- ①修復セットアップして、[建設CAD]のショートカットを作成する
- ②「CCAD.EXE」のショートカットを作成する
- ③「MSSファイル」をダブルクリックする

### ①修復セットアップして、[建設CAD]のショートカットを作成する



- 1 INSTALL DVD-ROMの  
[一括インストール]をクリックします。

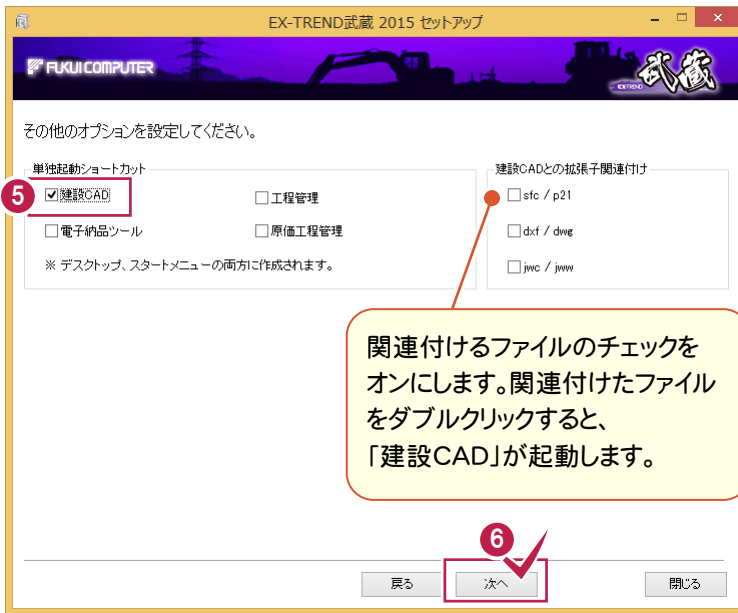


- 2 [修復セットアップ(簡単セットアップ)]  
または[修復セットアップ(カスタムセットアップ)]を選択します。
- 3 [次へ]をクリックします。

ここでは、[修復セットアップ(簡単)]を選択します。  
[修復セットアップ(カスタマイズ)]ではプログラムの追加と削除が行えます。



4 確認画面で[次へ]をクリックします。



7 内容を確認して[インストール]をクリックします。



8 プログラムのインストールが開始されます。終了すると確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックします。



デスクトップに[建設CAD]のショートカットが作成されます。

4 確認画面で[次へ]をクリックします。

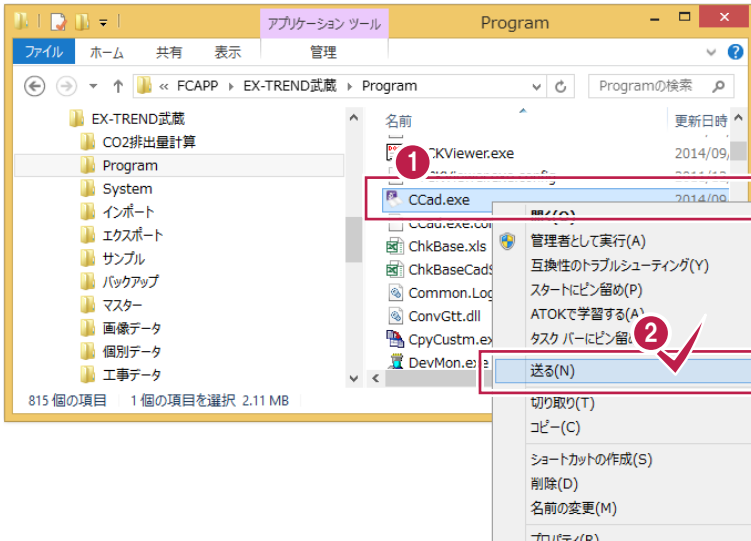
5 [その他のオプションを設定してください]の画面で、[建設CAD]のチェックをオンにします。

6 [次へ]をクリックします。

7 内容を確認して、[セットアップ開始]をクリックします。

8 プログラムのインストールが終了すると、確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

## ②「CCad.EXE」のショートカットを作成する



1 「FCAPP¥EX-TREND武蔵¥Program」フォルダー内の「CCad.EXE」でマウスの右ボタンを押します。

2 [送る]をクリックします。

3 [デスクトップ(ショートカットを作成)]をクリックします。



4 作成された「CCad.EXE-ショートカット」でマウスの右ボタンを押します。

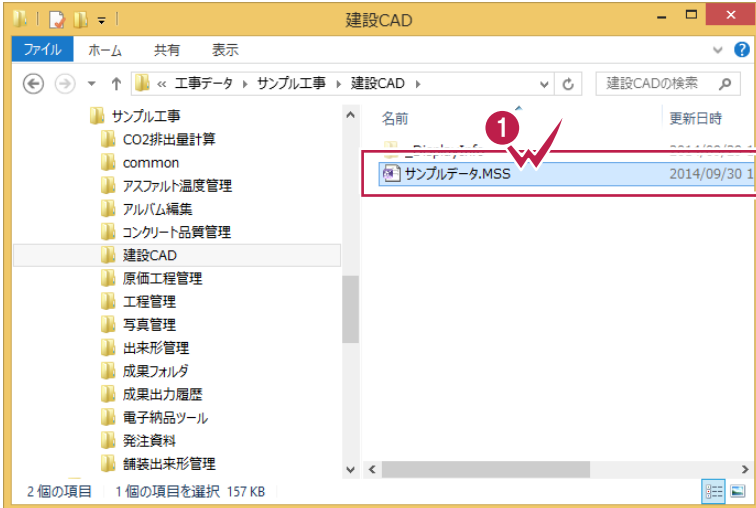
5 [名前の変更]をクリックします。



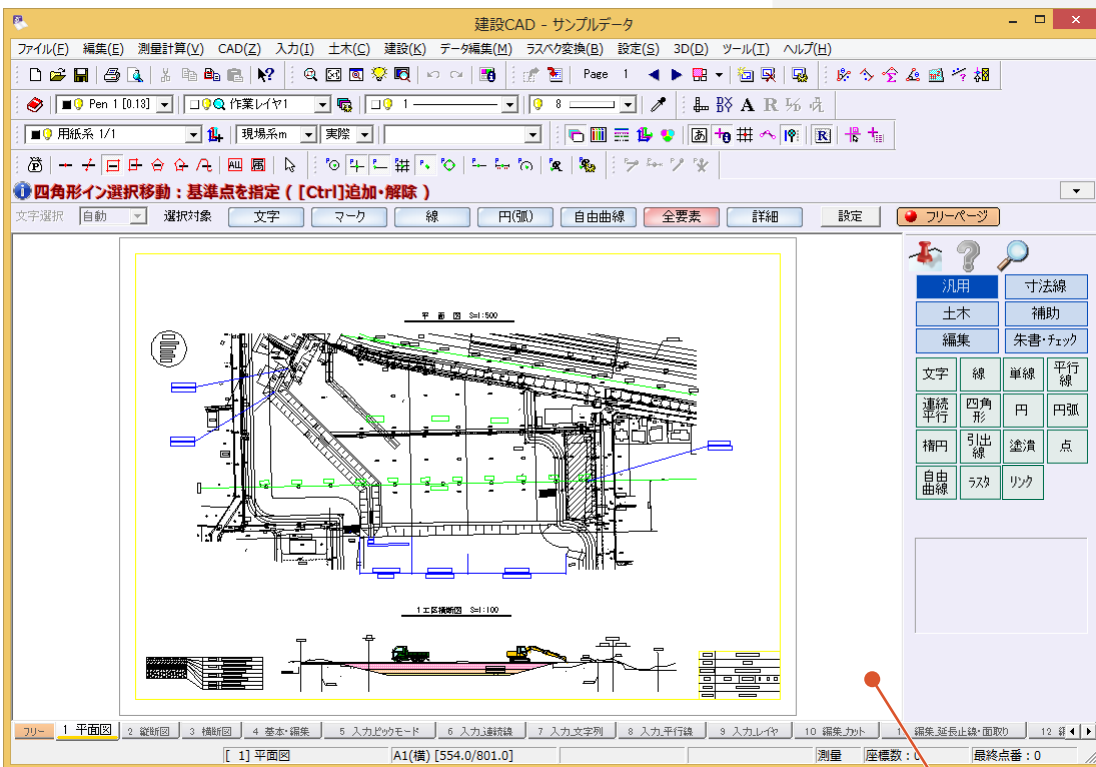
6 名前を「建設CAD」に変更します。



### ③武蔵ファイルをダブルクリックする



1 「武蔵ファイル」をダブルクリックします。



[建設CAD]が起動して、ダブルクリックした武蔵ファイルが開きます。

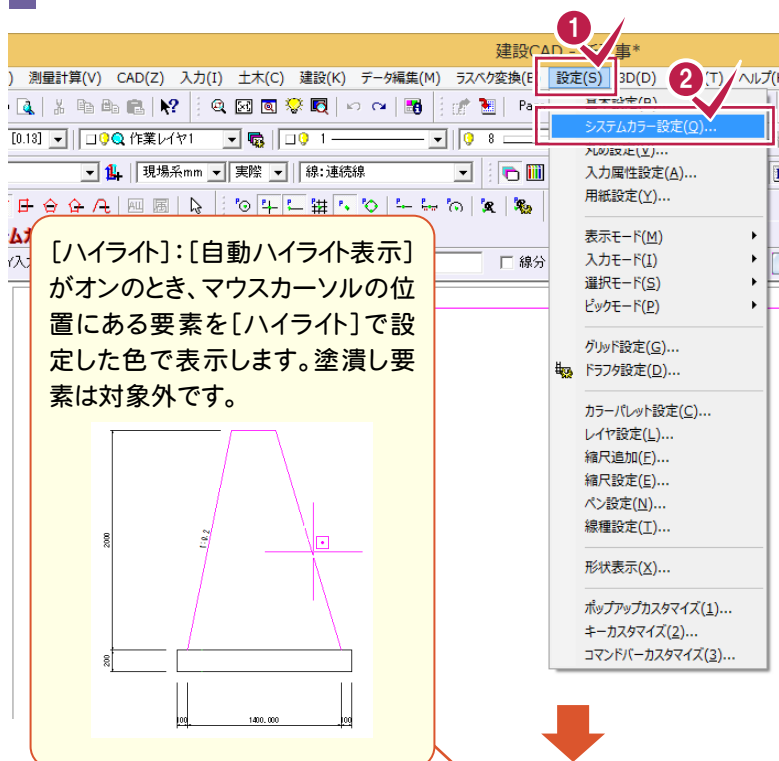


## 03 画面やデータの色を変更するには？

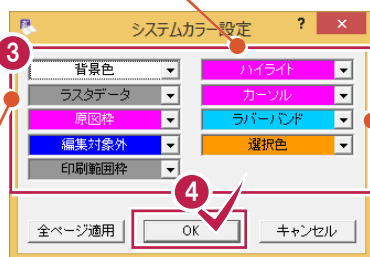
背景色などの画面の色は、[設定]－[システムカラー設定]で変更します。

データの色は、[設定]－[表示モード]－[表示色：レイヤ] [表示色：ペン] [表示色：線種] [表示色：縮尺] [表示色：カラー]で変更します。

### 画面の色を[設定]－[システムカラー設定]で変更する



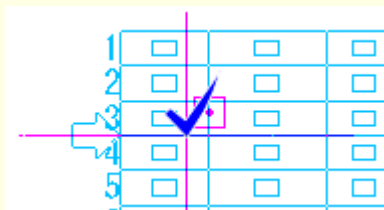
- 1 [設定]をクリックします。
- 2 [システムカラー設定]をクリックします。



- 3 背景色、ラスタデータ、原図枠、編集対象外、印刷範囲枠、ハイライト、カーソル、ラバーバンド、選択色の色を変更します。
- 4 [OK]をクリックします。

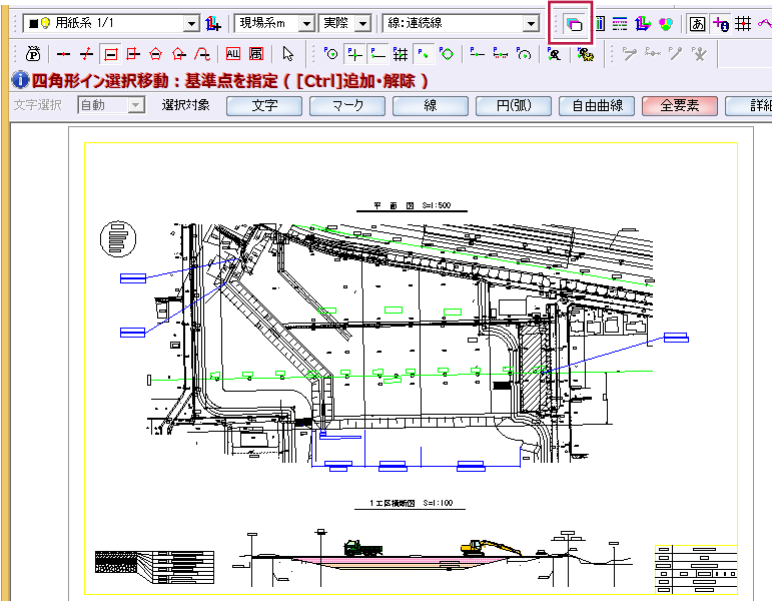
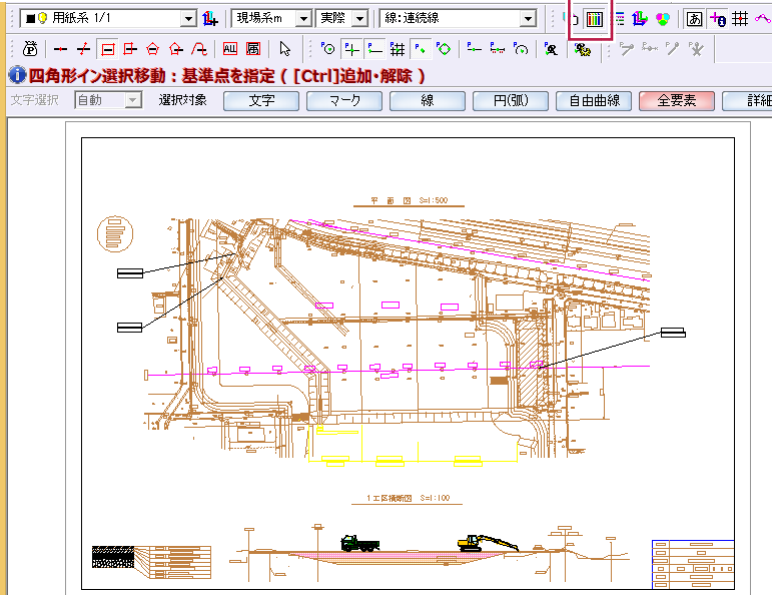
[ラスタデータ]: [ラスタデータ]で設定した色はモノクロラスタのみ適用されます。  
[背景色]と同じ色に設定すると、ラスタデータが見えなくなります。

[ラバーバンド]: マウスマウスの指定したポイントから移動すると、選択されている要素の移動形状を[ラバーバンド]で設定した色で表示します。



## データの色を[設定]-[表示モード]-[表示色]で変更する

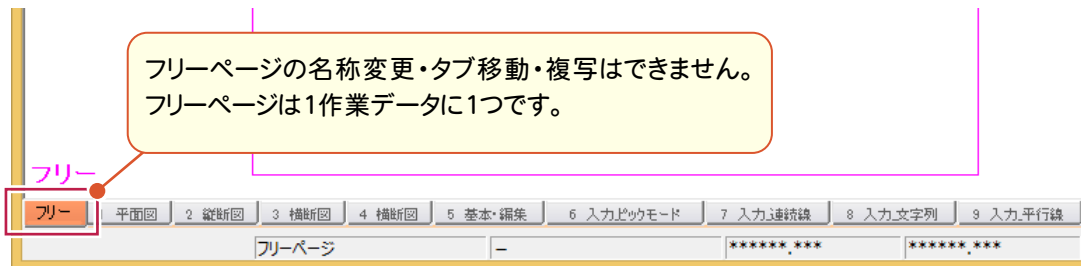


名称	内容
①表示色:レイヤ	<p>レイヤ別に設定した色で表示します。 レイヤの色は、[設定]-[レイヤ設定]で設定します。</p> 
②表示色:ペン	<p>ペン No.別に設定した色で表示します。 ペンの色は、[設定]-[ペン設定]で設定します。</p> 

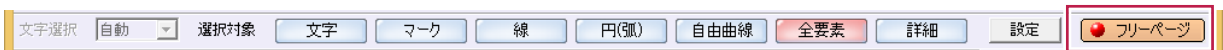
名称	内容
③表示色:線種	<p>線種別に設定した色で表示します。 線種の色は、[設定]－[線種設定]で設定します。</p> 
④表示色:縮尺	<p>縮尺別に設定した色で表示します。 縮尺の色は、[設定]－[縮尺設定]で設定します。</p> 
⑤表示色:カラー	<p>属性のカラーで設定した色で表示します。 カラーは、[設定]－[カラーパレット設定]で設定します。 外部ファイル(DWG/DXF形式、JWC/JWW形式、SXF(p21・sfc)のファイル)は、 カラー属性で変換されます。</p> 

# 04 フリーページについて

ページタブバーの[フリー]タブをクリックすると、フリーページを表示することができます。  
フリーページでは、用紙枠を意識せずに作業を行うことができます。



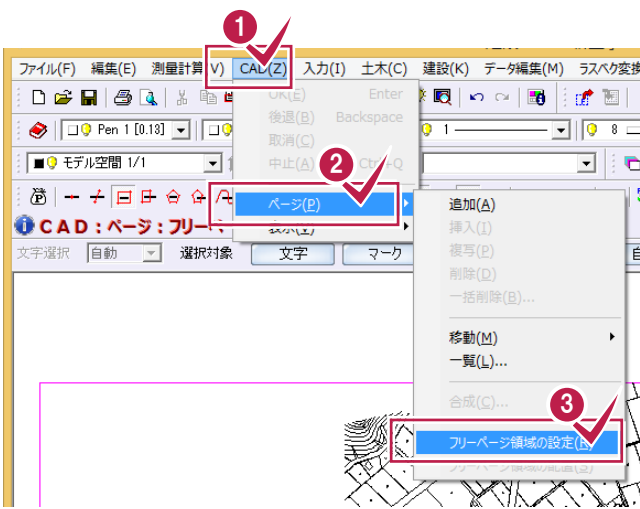
フリーページの表示・非表示は、インプットバーの[フリーページ]で切り替えできます。  
(フリーページでは表示されません。)



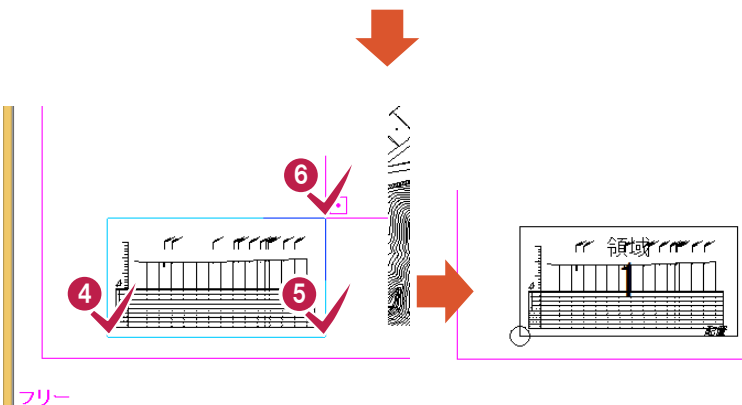
**Check**

DXF/DWGのモデル空間をフリーページに読み込むことができます。  
レイアウトのビューポートは、フリーページの配置領域設定として反映されます。  
操作方法は「05 DXF/DWGの図面読み込み時のQ&A」の「①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合」(P.11)  
「③モデル空間をフリーページに読み込む場合」(P.16)を参照してください。

フリーページの[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の設定]で配置領域を設定できます。

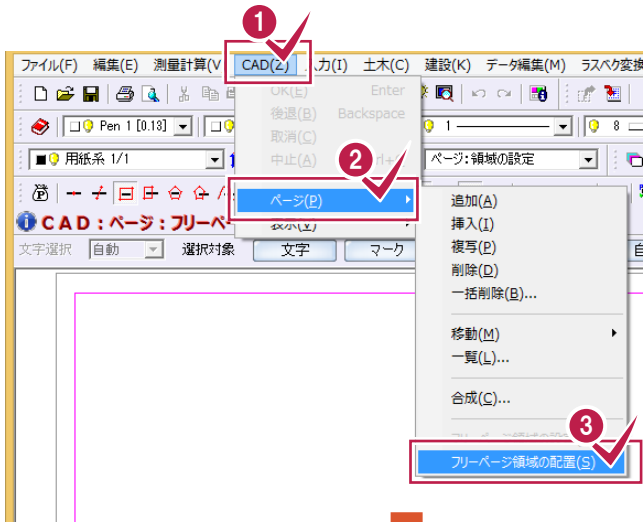


- 1 フリーページの[CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の設定]をクリックします。
- 4 5 6 領域の左下、右下、高さを指定します。



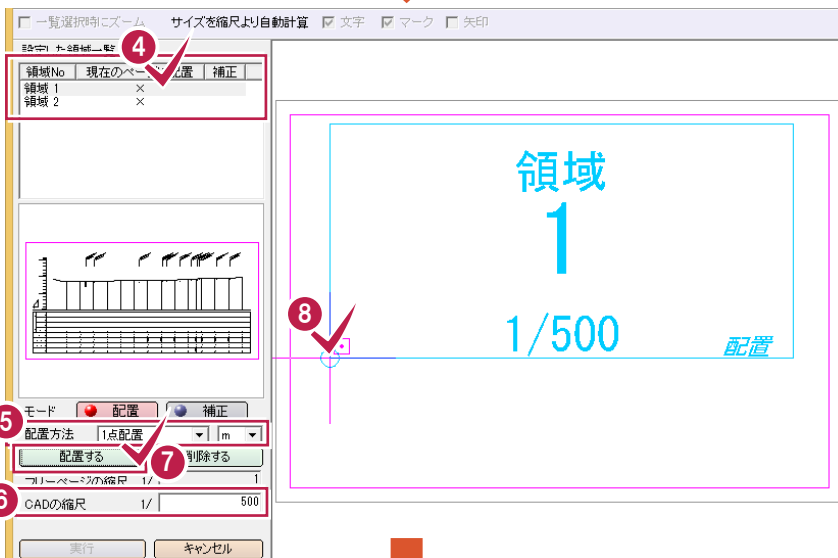
配置領域を追加・編集・削除できます。

用紙ページの[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の配置]で、フリーページで設定した領域を配置できます。

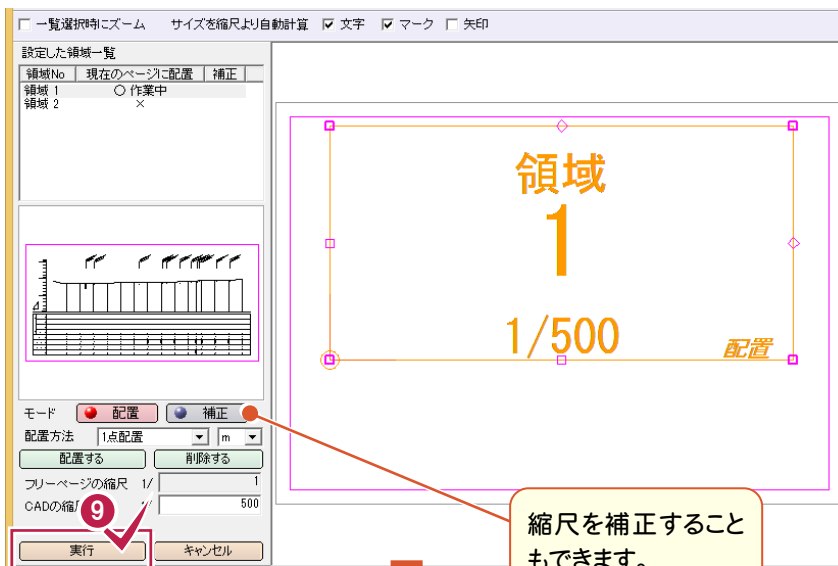


- 1 用紙ページの[CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の配置]をクリックします。

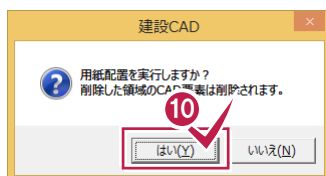
- 4 配置する領域をクリックします。
- 5 配置方法を選択します。
- 6 CADの縮尺を入力します。
- 7 [配置する]をクリックします。
- 8 配置位置をクリックします。



- 9 同様に別の領域も配置できます。配置を終了したら、[実行]をクリックします。



- 10 確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。





## 05 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A

以下のよくある図面パターンの読み込みを解説します。

- ①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合
- ②レイアウト空間を読み込む場合
- ③モデル空間をフリーページに読み込む場合
- ④モデル空間を用紙ページに読み込む場合
- ⑤モデル空間しかなく、用紙系 1/1 になっている場合
- ⑥不要なデータがある場合
- ⑥複数図面がある場合

メモ

### モデル空間とレイアウト空間の違いは

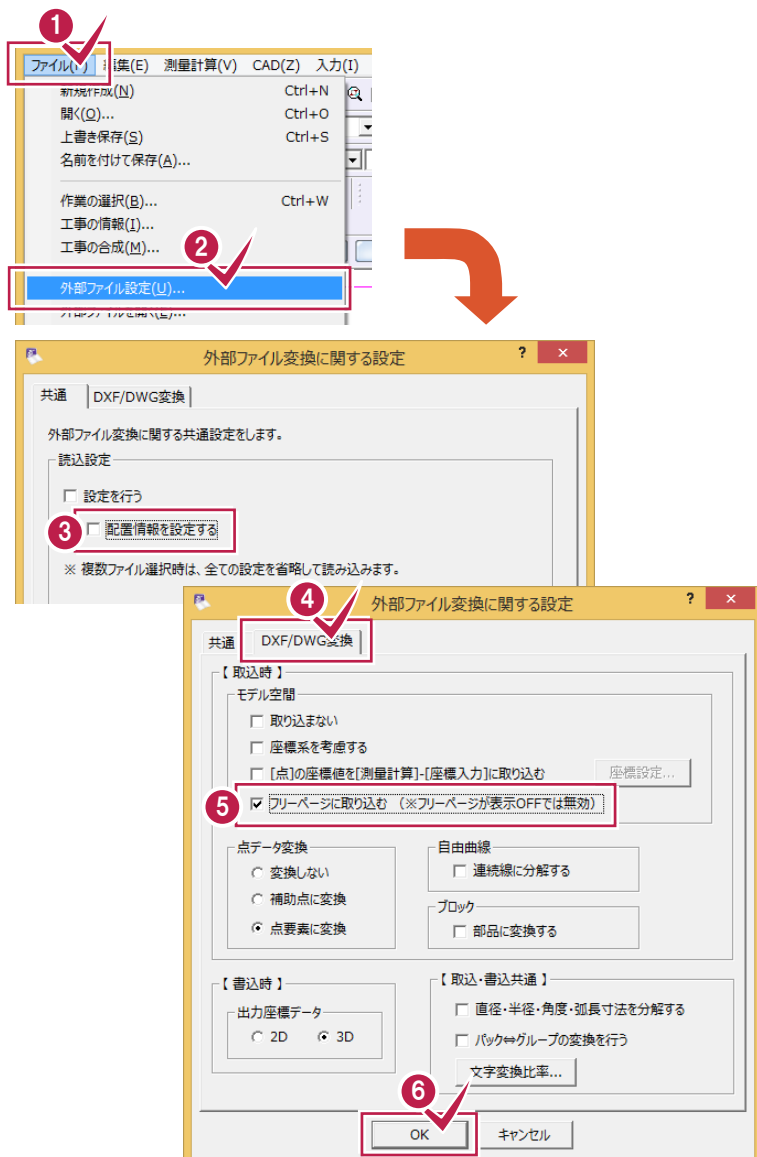
- モデル空間・実寸  
実際の大きさ(実寸)で素面を描く空間で、縮尺の概念がありません。
- レイアウト空間・用紙サイズ  
モデル空間で描かれた図面をビューポートという縮尺にはめ込んで配置したものです。

詳細は「10 DXF/DWG 読み込みの基本情報」(P.37)を参照してください。

※読み込み・図面配置設定については、「07 DXF・DWGデータの読み込み・図面配置設定」(P.27)を参照してください。

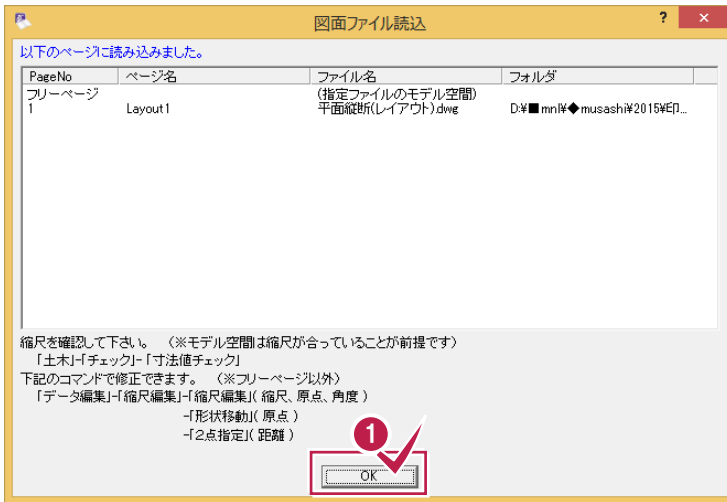
### ①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合

[ファイル] - [外部ファイルの設定]で読み込み時の設定を変更します。



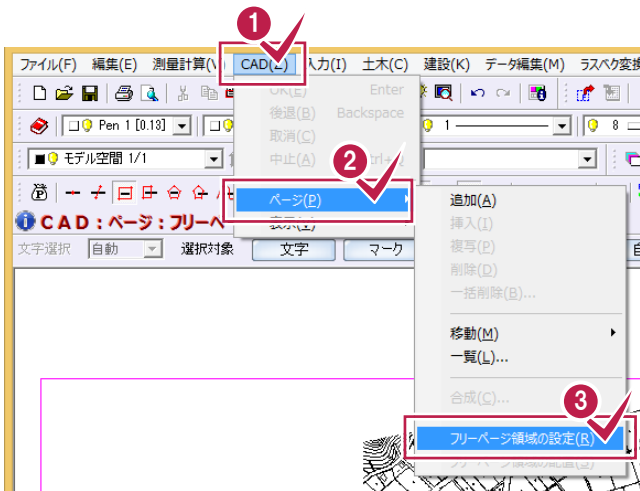
- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 [配置情報を設定する]のチェックをオフにします。
- 4 [DXF/DWG変換]タブをクリックします。
- 5 [フリーページに取り込む]のチェックをオンにします。
- 6 [OK]をクリックします。

[ファイル]－[外部ファイルを開く]で図面を開き、モデル空間をフリーページ、レイアウト空間を用紙ページに読み込みます。



- 1 読み込みが完了すると確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

フリーページにはモデル空間のビューポートが領域として読み込まれます。  
[CAD]－[ページ]－[フリーページ領域の設定]でフリーページの領域を追加・削除できます。



- 1 [CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の設定]をクリックします。



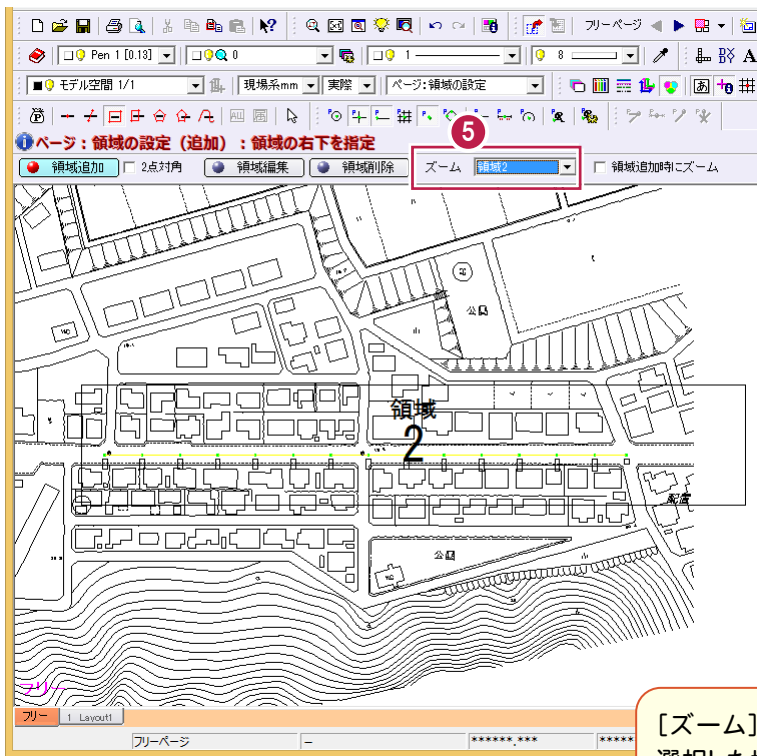
設定されている領域が表示されます。





4 ズームで領域(画面例では「領域1」)を選択すると、領域が画面全体に表示されます。

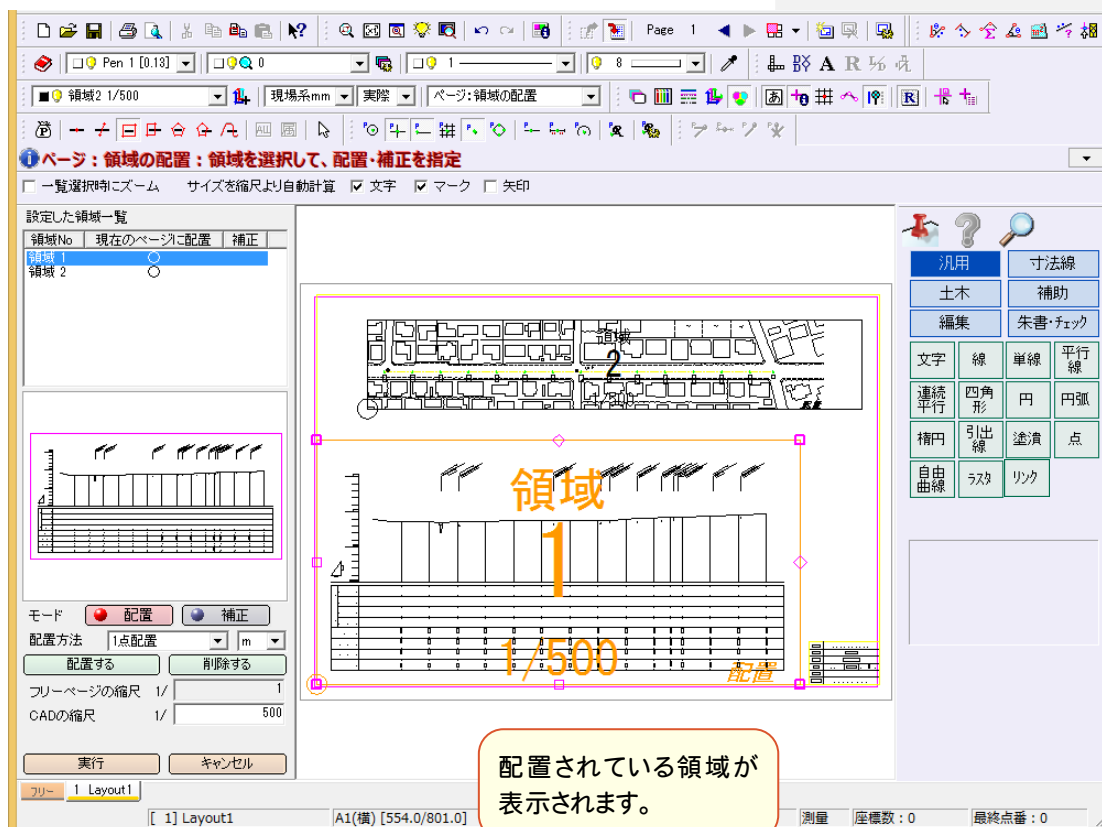
[ズーム]で「領域1」を選択した場合



5 ズームで領域(画面例では「領域2」)を選択すると、領域が画面全体に表示されます。

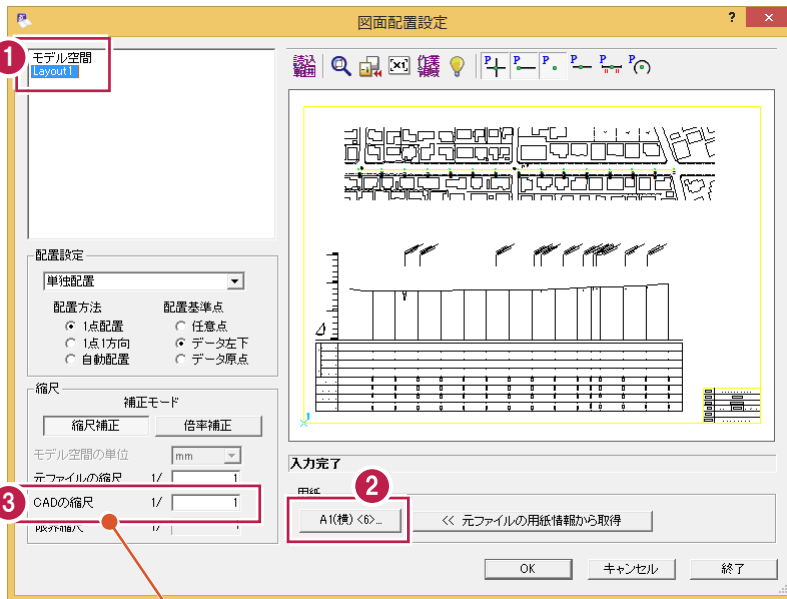
[ズーム]で「領域2」を選択した場合

用紙ページにはレイアウトのビューポートが領域として配置されます。  
[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の配置]でフリーページの領域を配置できます。

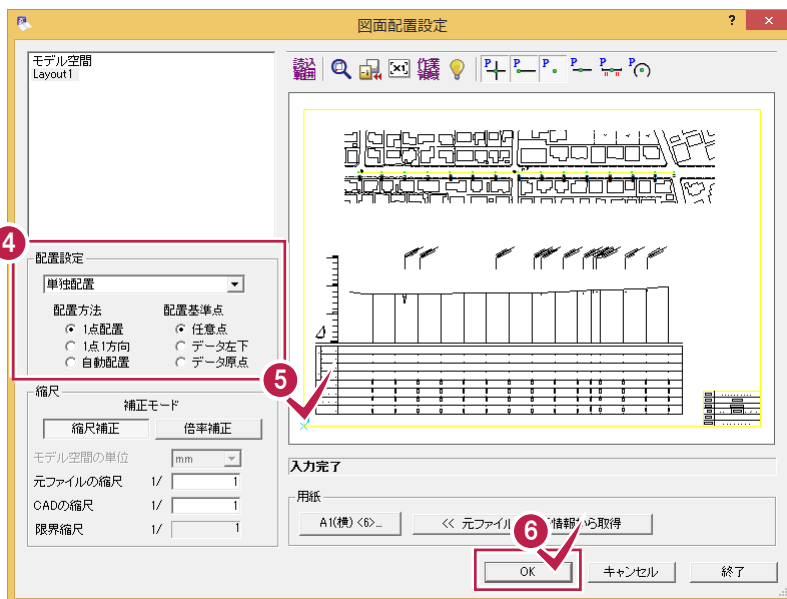


## ②レイアウト空間を読み込む場合

[ファイル]—[外部ファイルの設定]で「配置情報を設定する」をオンに戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。

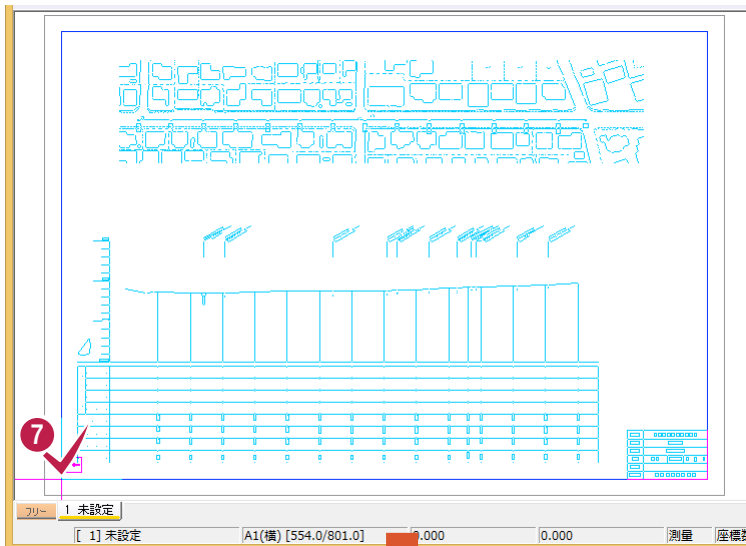


※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
**この図面はレイアウト空間でA1(横)の用紙サイズで描かれた図面**ということになります。

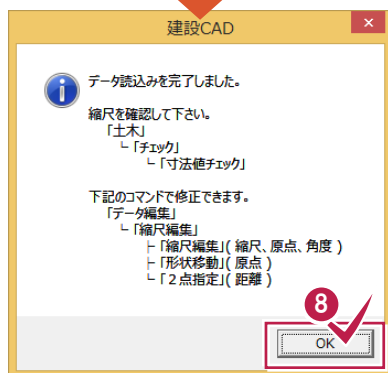


- 1 レイアウト空間を選択します。
- 2 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。
- 3 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。

- 4 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 5 基準点をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。



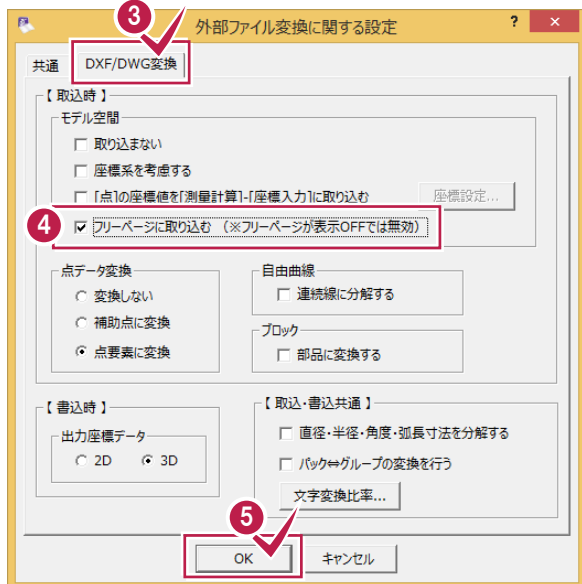
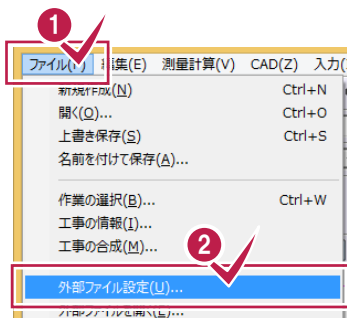
- 7 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



- 8 [OK]をクリックします。

### ③モデル空間をフリーページへ読み込む場合

[ファイル]—[外部ファイルの設定]で読み込み時の設定を変更します。

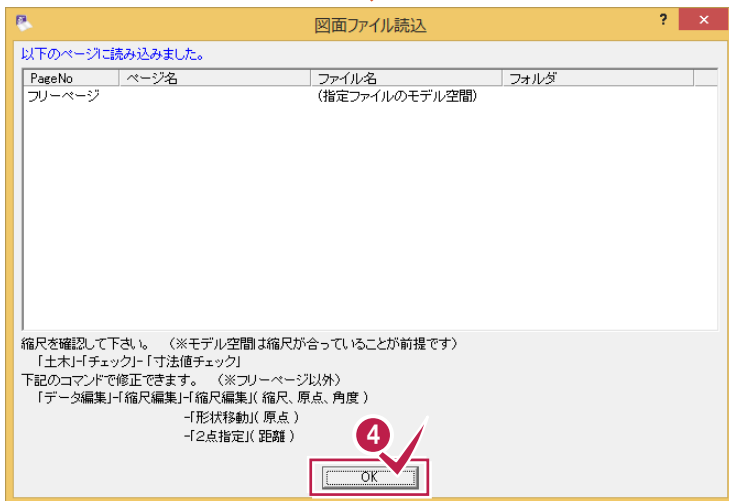


- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 [DXF/DWG変換]タブをクリックします。
- 4 [フリーページに取り込む]のチェックをオンにします。
- 5 [OK]をクリックします。

[ファイル]-[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



- 1 モデル空間を選択します。
- 2 [縮尺原点]で[既存縮尺]を選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

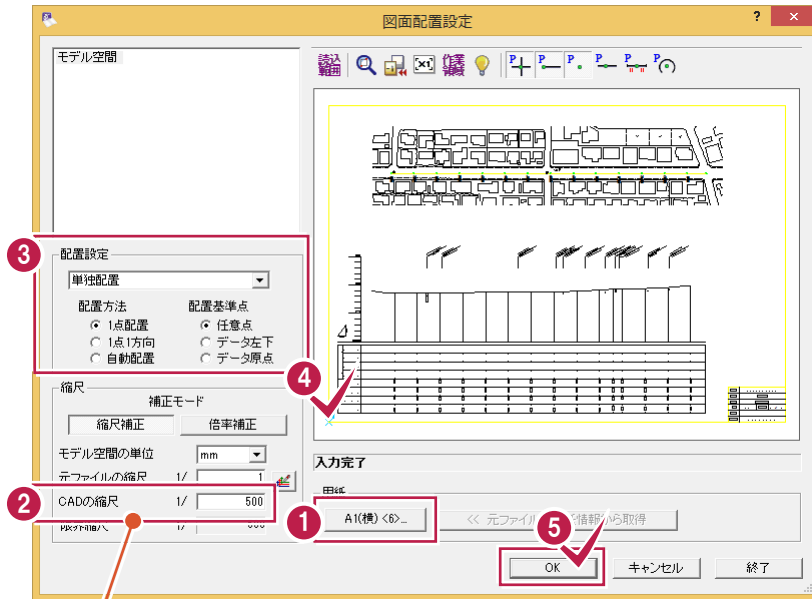


- 4 [OK]をクリックします。

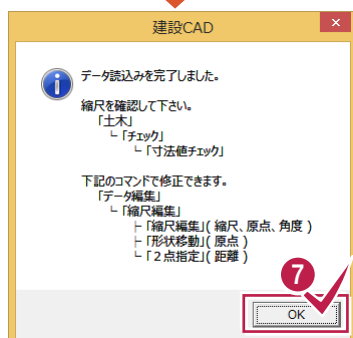
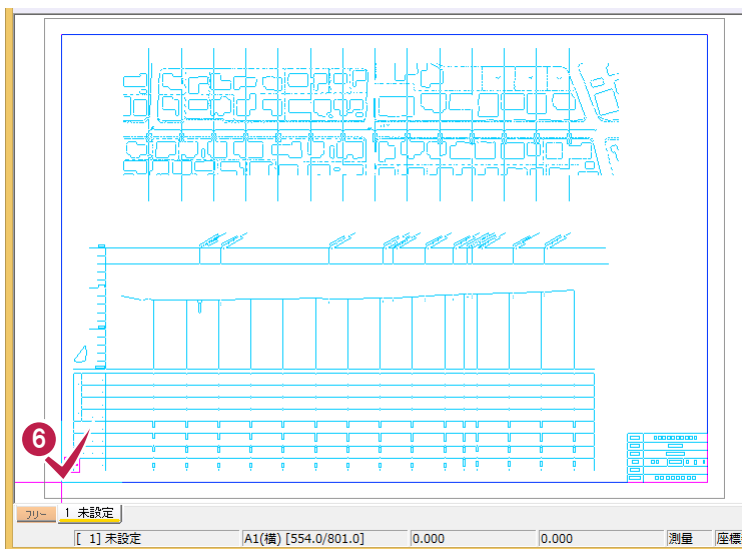


## ④モデル空間を用紙ページへ読み込む場合

[ファイル]—[外部ファイルの設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/500となるので、  
この図面はモデル空間に実寸で描かれた図面ということになります。



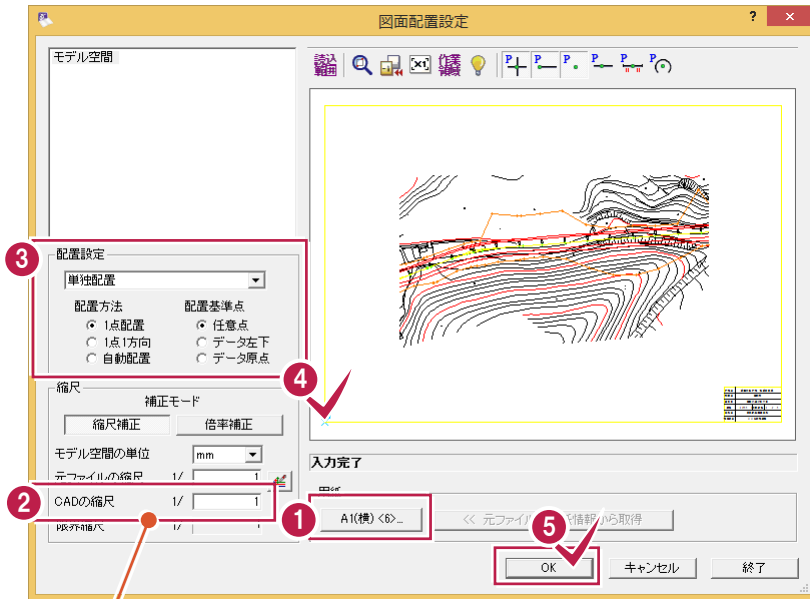
- 1 用紙のボタンをクリックして、用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]を設定します。
- 2 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。
- 3 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 4 基準点をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

- 6 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。

- 7 [OK]をクリックします。

## ⑤モデル空間しかなく用紙系1/1になっている場合

[ファイル]ー[外部ファイルの設定]を初期状態に戻して、[ファイル]ー[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



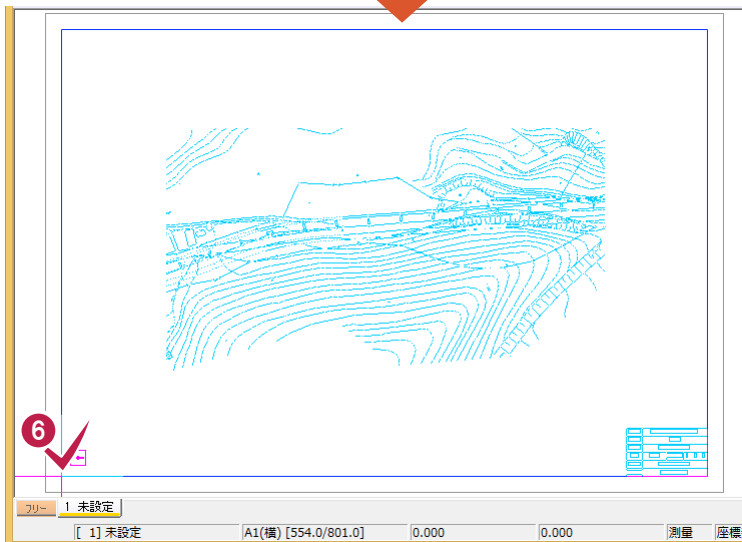
- 1 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。
- 2 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。
- 3 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 4 基準点をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面は**モデル空間でA1(横)の用紙サイズ**  
になっている図面ということになります。

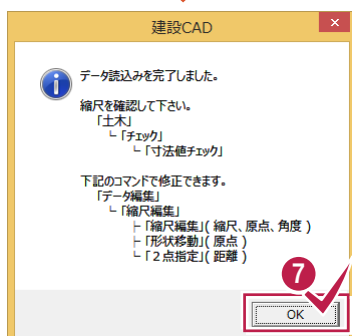
メモ

### モデル空間で用紙系1/1になっている図面とは

AutoCADで作図する場合、モデル空間では基本的に実寸で描かれています。その後、武蔵など他社メーカーCADとやり取りする際にDXF/DWGに変換しますが、AutoCAD以外のCADにはモデル空間がないため、図面を用紙系1/1に変換して読み込みます。一度用紙系1/1になってしまった図面をDXF/DWGに変換すると、モデル空間が用紙系1/1になった図面ができます。



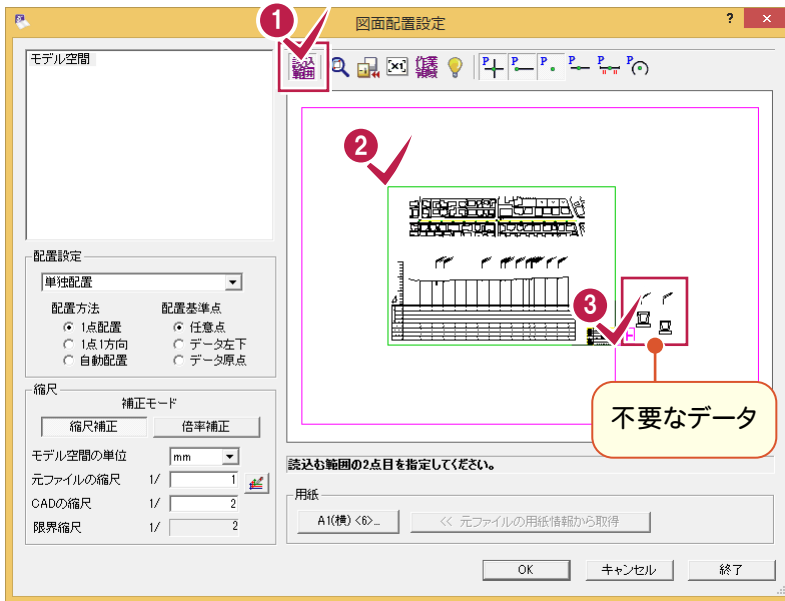
- 6 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



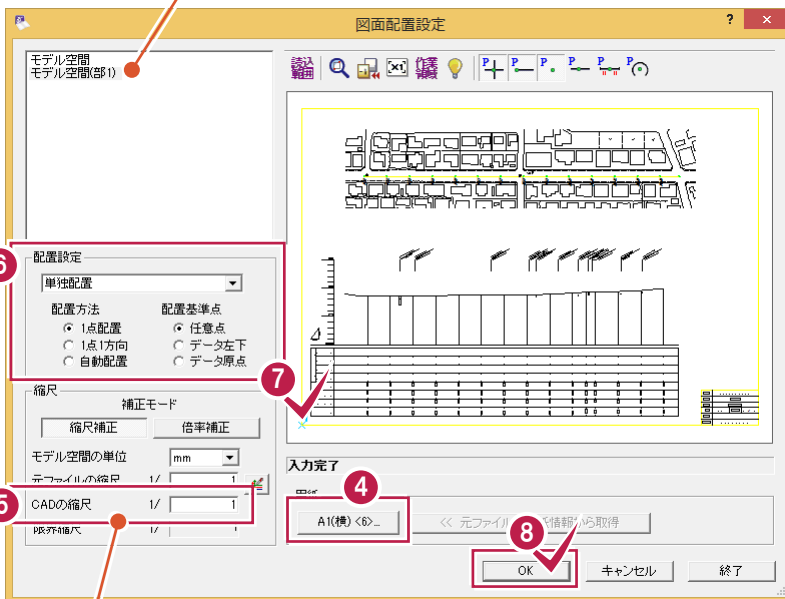
- 7 [OK]をクリックします。

## ⑥ 不要なデータがある場合

[ファイル]－[外部ファイルの設定]を初期状態に戻して、[ファイル]－[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



[読み込み範囲]で指定したモデル空間(部)が追加されます。



※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面はモデル空間でA1(横)の用紙サイズになっている図面ということになります。

1 [読み込み範囲]をクリックします。

2 3

読み込む図面の範囲を指定します。

4 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

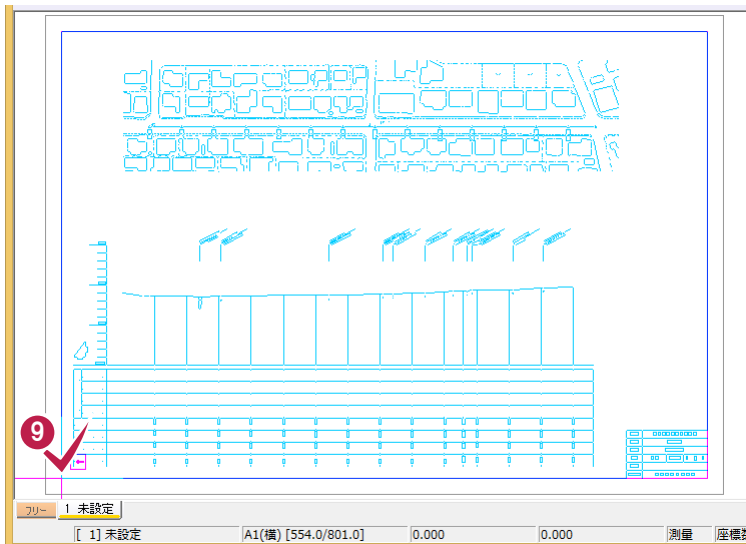
5 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。

6 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。

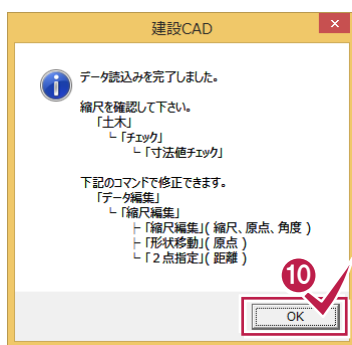
7 基準点をクリックします。

8 [OK]をクリックします。





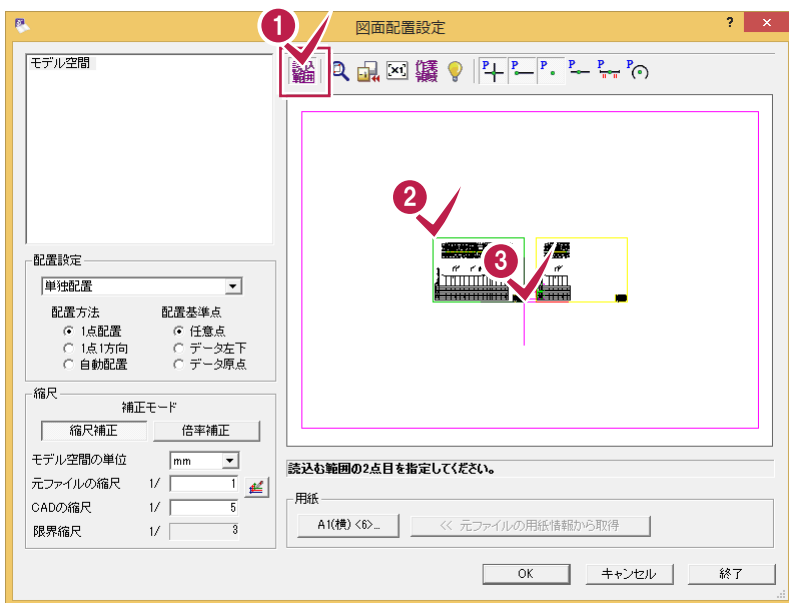
9 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



10 [OK]をクリックします。

## ⑦複数図面がある場合

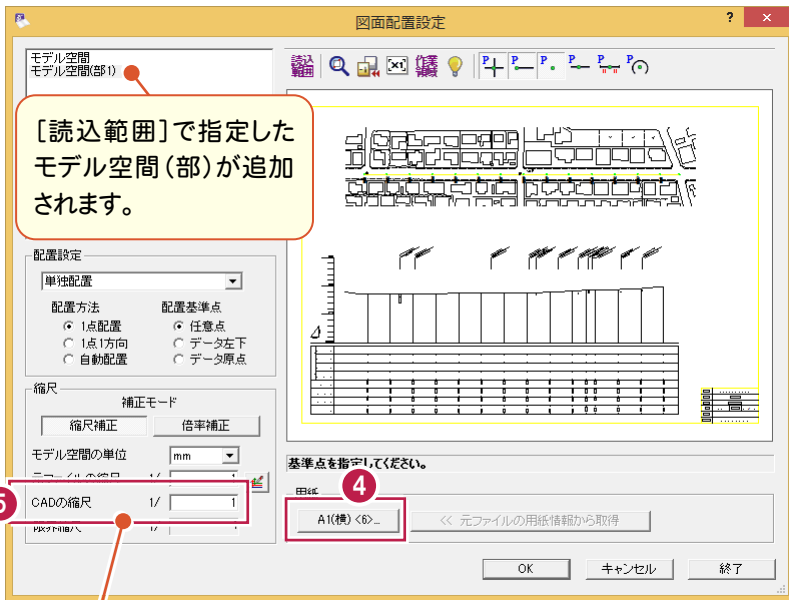
[ファイル]—[外部ファイルの設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



1 [読み込み範囲]をクリックします。

2 3  
1つ目の図面の範囲を指定します。



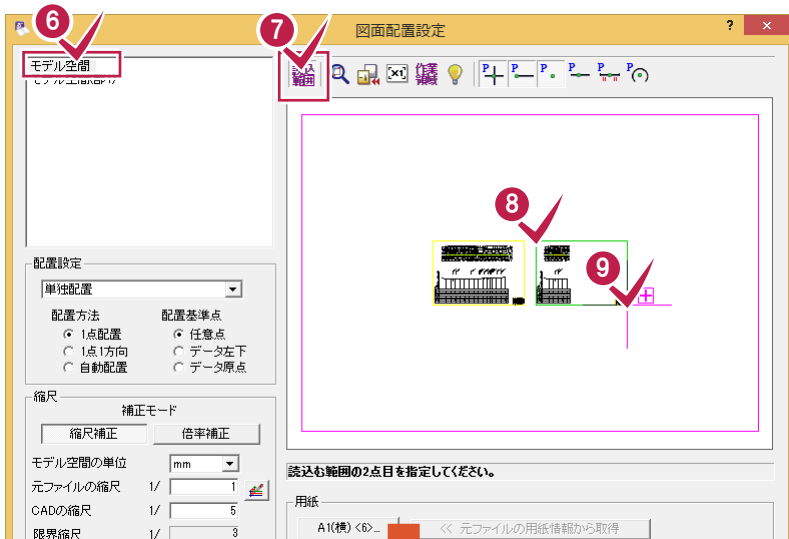


[読み込み範囲]で指定したモデル空間(部)が追加されます。

5 CADの縮尺 1/ 1

4 A1(横)<6>

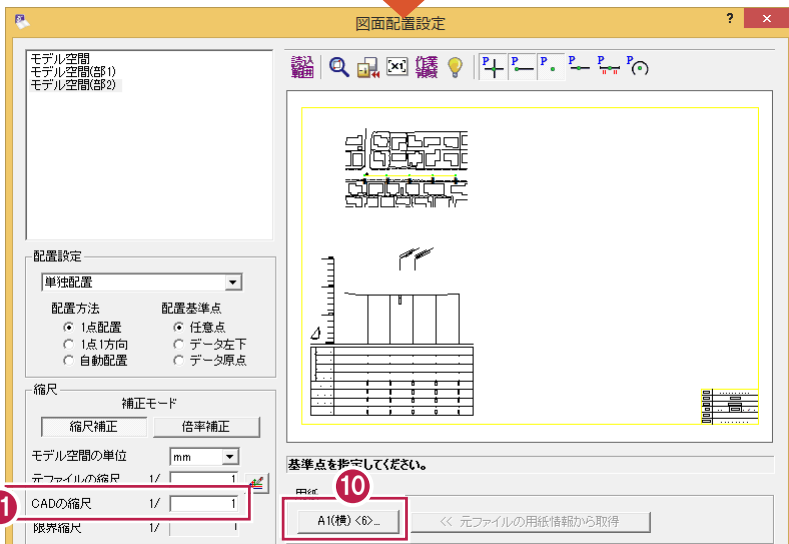
※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
 [元ファイルの縮尺]: 1/1  
 [CADの縮尺]: 1/1となるので、  
 この図面はモデル空間でA1(横)の用紙サイズになっている図面ということになります。



6 「モデル空間」をクリックします。

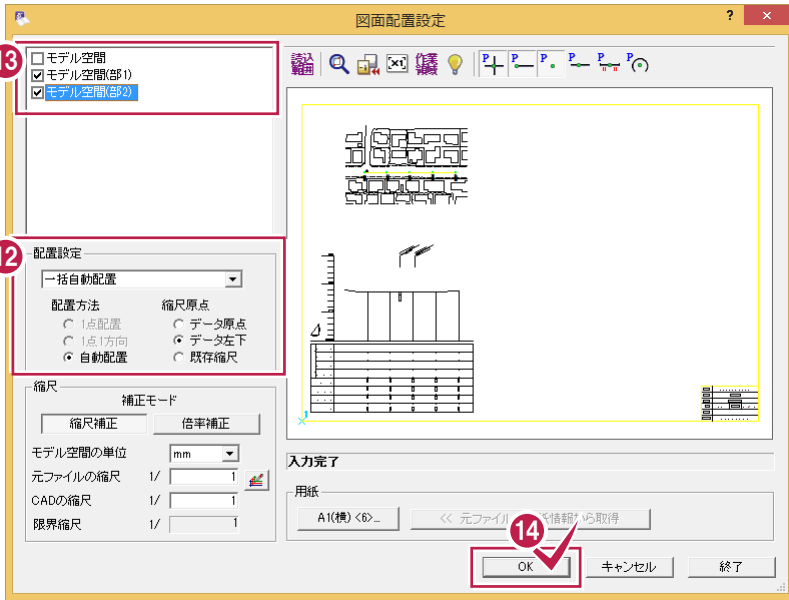
7 [読み込み範囲]をクリックします。

8 9  
2つ目の図面の範囲を指定します。

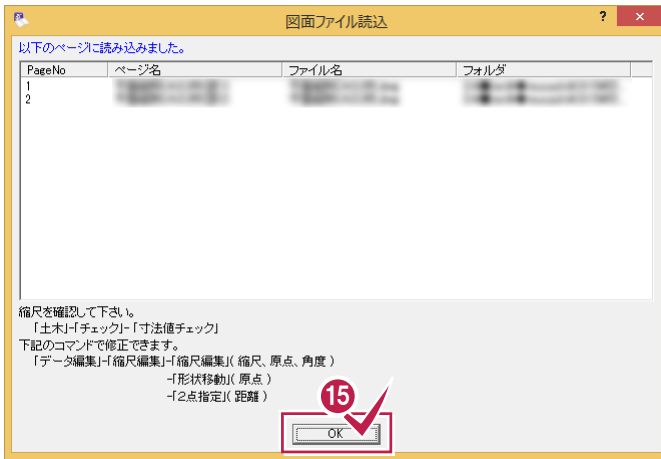


10 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

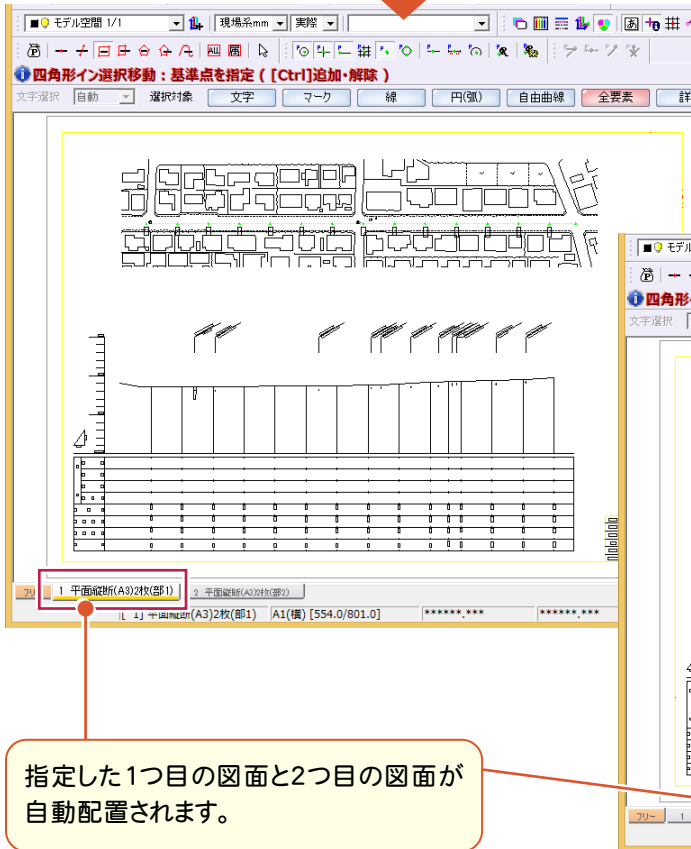
11 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。



- 12 「一括自動配置」を選択して、[縮尺原点]で「データ左下」をクリックします。
- 13 配置する図面のチェックをオンにします。
- 14 [OK]をクリックします。



- 15 読み込まれたページなどを確認して、[OK]をクリックします。



指定した1つ目の図面と2つ目の図面が自動配置されます。



# 06

# JWC/JWWの図面読み込み時のQ&A

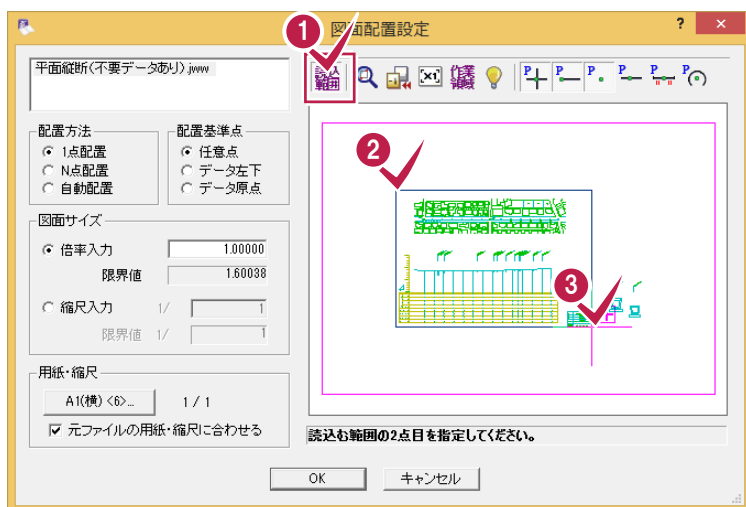
以下のよくある図面パターンを読み込みを解説します。

- ①不要なデータがある場合
- ②複数図面がある場合

※読み込み・図面配置設定については、「08 JWC・JWWの読み込み・図面配置設定」(P.34)を参照してください。

## ①不要なデータがある場合

[ファイル]-[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。

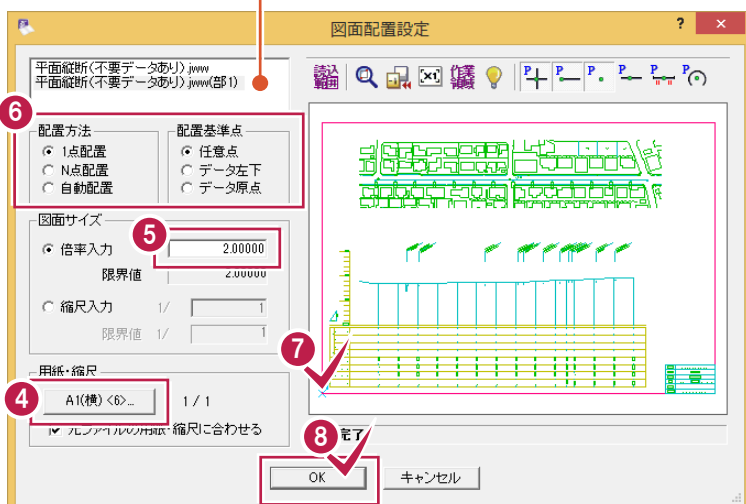


1 [読み込み範囲]をクリックします。

2 3

読み込む図面の範囲を指定します。

[読み込み範囲]で指定した図面(部)が追加されます。



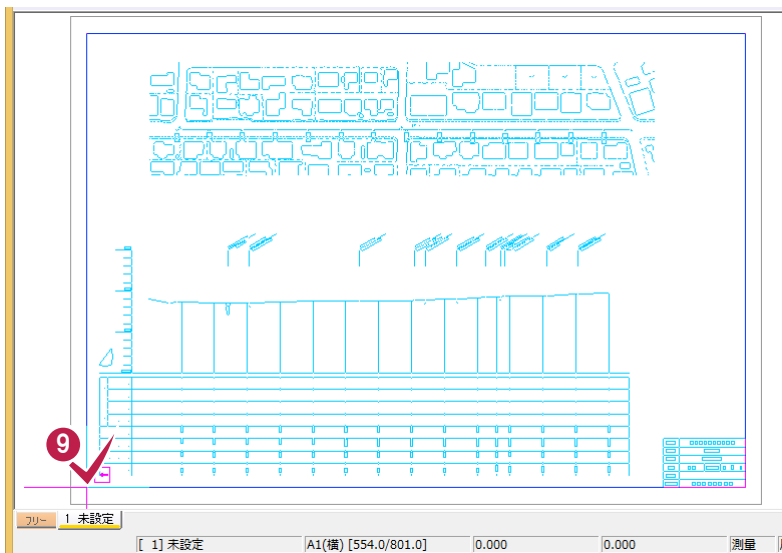
4 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

5 限界値を参照して、ここでは[倍率入力]に「2」と入力します。

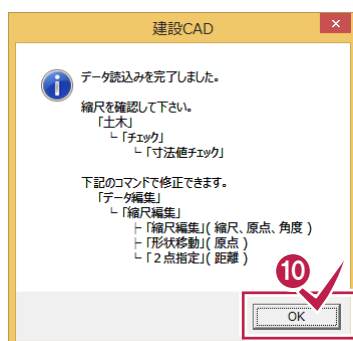
6 [配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。

7 基準点をクリックします。

8 [OK]をクリックします。



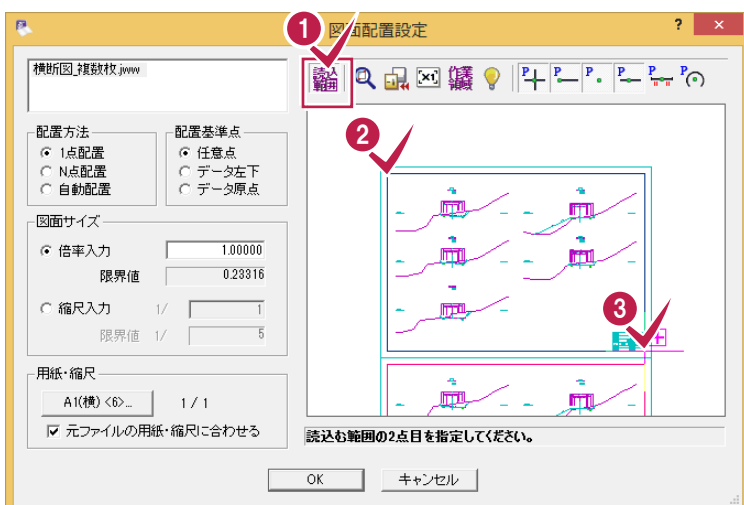
9 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



10 [OK]をクリックします。

## ②複数図面がある場合

[ファイル]-[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



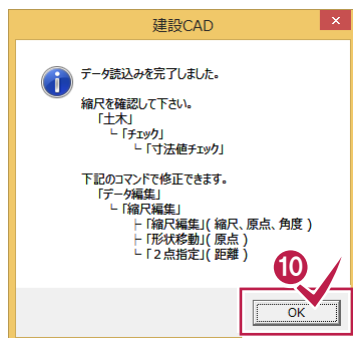
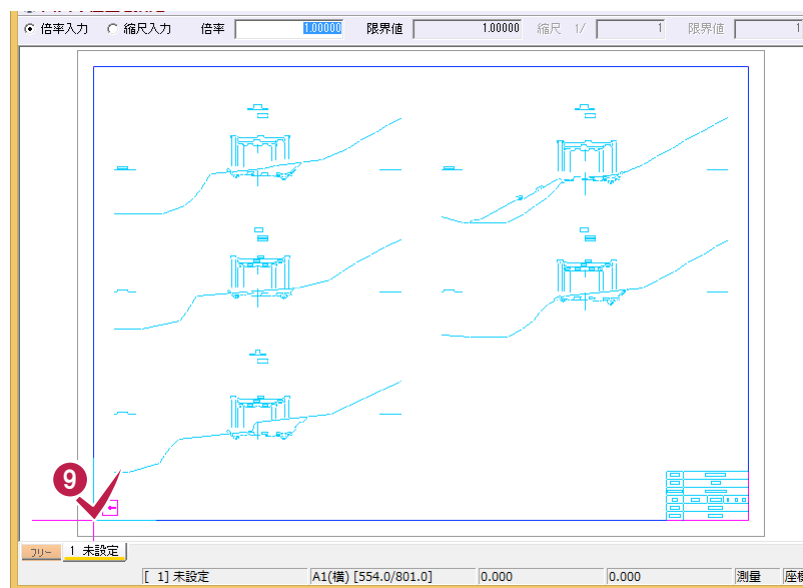
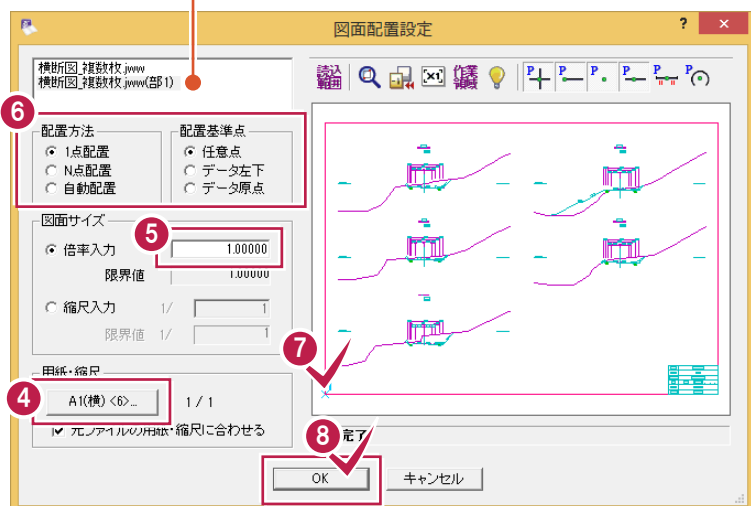
1 [読み込み範囲]をクリックします。

2 3

読み込む図面の範囲を指定します。



[読込範囲]で指定した図面(部)が追加されます。



- 4 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。
- 5 限界値を参照して、ここでは[倍率入力]に「1」と入力します。
- 6 [配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 7 基準点をクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。

- 9 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。

- 10 [OK]をクリックします。

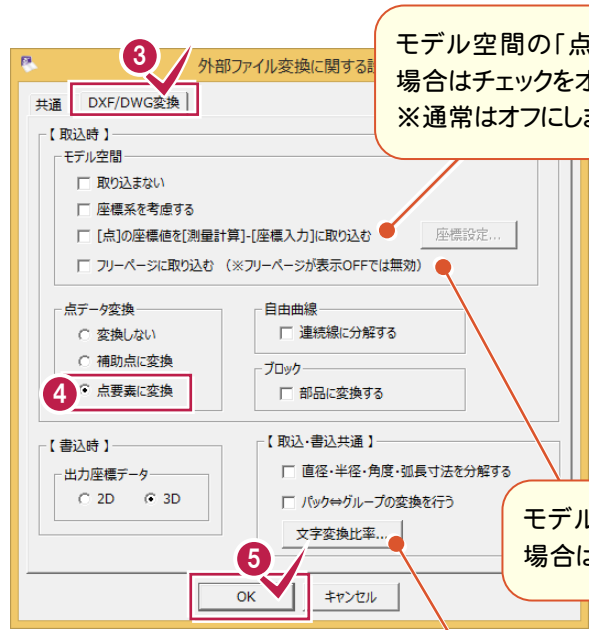
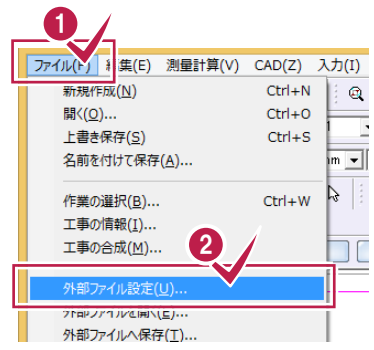


# 07 DXF/DWG ファイルの読み込み・図面配置設定

DXF・DWGファイルの変換に関する設定、読み込み・図面配置設定の詳細を解説します。

## DXF/DWGファイルの変換に関する設定

[ファイル]ー[外部ファイル設定]の[DXF/DWG変換]タブで、DXF/DWGファイルの変換に関する設定を行います。



モデル空間の「点」を座標登録する場合はチェックをオンにします。  
※通常はオフにします。

モデル空間をフリーページに取り込む場合はチェックをオンにします。

文字サイズの比率を変えることができます。  
・TureTypeフォント→Windowsで通常使われているフォント  
・ベクトルフォント→AutoCADでよく使われているフォント  
※武蔵に取り込むときは、FCフォントに変換されます。

- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 [DXF/DWG 変換]タブをクリックします。
- 4 [点要素に変換]を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

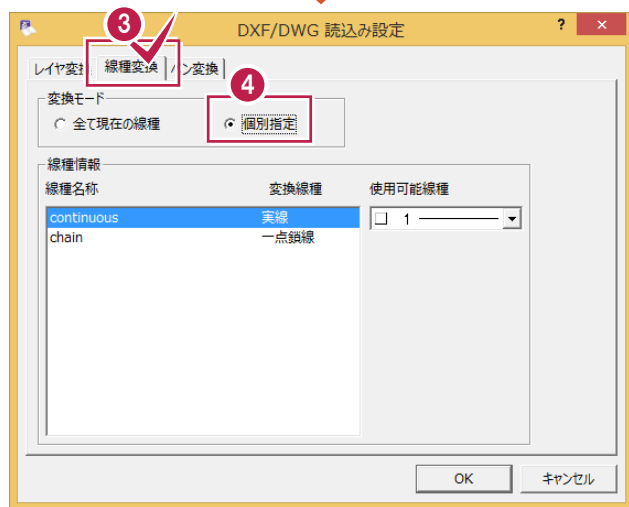
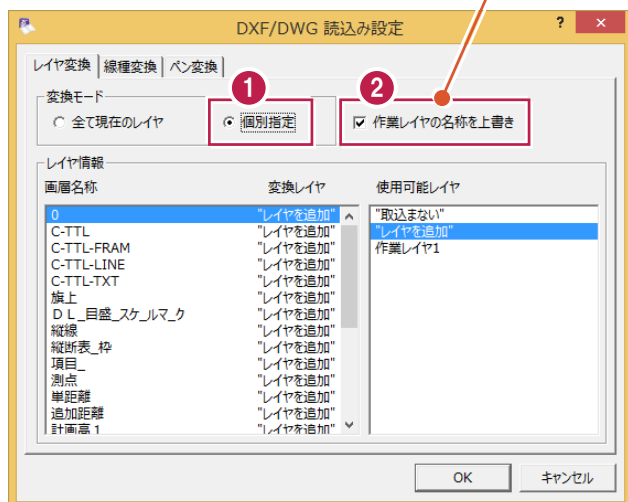
**メモ** モデル空間、レイアウト、ビューポートとは  
詳細は「10 DXF/DWG 読み込みの基本情報」(P.37)を参照してください。

## DXF/DWGファイルの読み込み設定

[DXF/DWG読み込み設定]でDXF/DWGファイルの読み込み時の設定を行います。

ただし、DXF/DWGファイル読み込み時に[DXF/DWG読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、[ファイル]-[外部ファイルの設定]の[共通]タブで[設定を行う]のチェックをオンにした場合です。(初期値は、オフです。)

チェックをオンにすると、画層名称で作業レイヤの名称を上書きできます。



- 1 [個別指定]を選択します。
- 2 [作業レイヤの名称を上書き]のチェックをオンにします。  
元ファイルで定義された画層を、武蔵ではどのレイヤに割り当てるかを決めます。  
※[製図基準テンプレート設定]を行った場合は、[レイヤ変換]タブが表示されません。

- 3 [線種変換]タブをクリックします。

- 4 [個別指定]を選択します。  
元ファイルで定義された線種を、武蔵ではどの線種に割り当てるかを決めます。  
「点線のはずのデータが実線として取り込まれた」などの症状が出た場合は、ここを確認してみましょう。

- 5 [ペン変換]タブをクリックします。

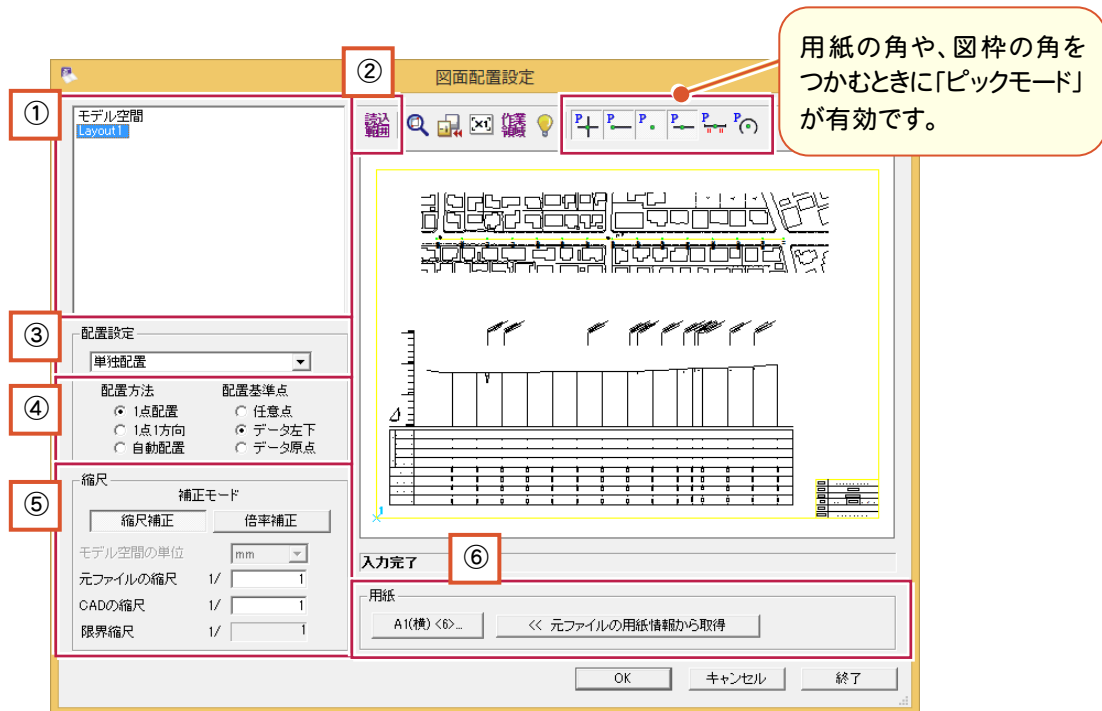
- 6 [線種]を選択します。  
※データによっては[個別指定]にした方がよい場合があります。

- 7 [OK]をクリックします。



## DXF/DWGファイルの図面配置設定

[図面配置設定]で、図面の配置方法、縮尺などを設定します。



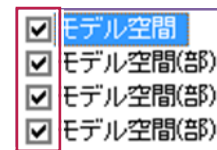
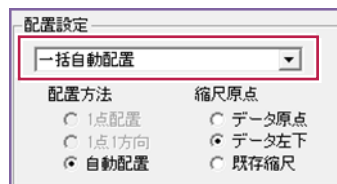
メモ

モデル空間、レイアウト、ビューポートとは

詳細は「10 DXF/DWG 読み込みの基本情報」(P.37)を参照してください。

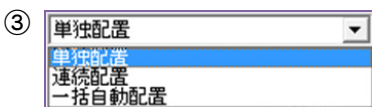
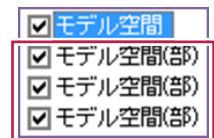


取り込むレイアウト・モデル空間、あるいは読み込み範囲を選択します。配置設定で「一括自動配置」が選択されている場合は、チェックボックスが表示されます。一括配置する図面のチェックをオンにします。



② 読み込み範囲

複数枚データがある場合、または範囲外に不要なデータがある場合、読み込み範囲を指定します。  
※[読み込み範囲]を指定した図面は“(部)”が付加されます。  
操作は、「05 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A」(P.11)を参照してください。



配置を選択します。

[単独配置]: 選択したモデル空間またはレイアウトを配置してコマンドを終了します。

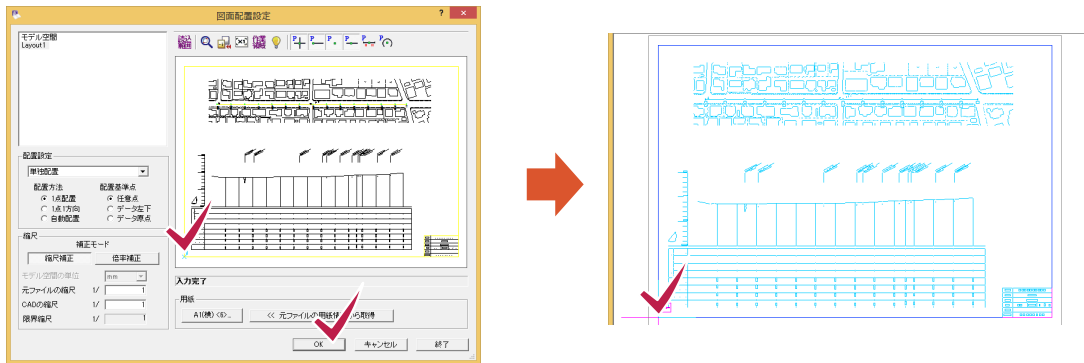
[連続配置]: 選択したモデル空間またはレイアウトを配置後、このダイアログに戻り連続配置します。ページを追加して、別ページへの配置も可能です。

[一括自動配置]: チェックをオンにしたモデル空間またはレイアウトを自動配置します。レイアウト 1、レイアウト 2...の順で、新規ページを追加して配置します。

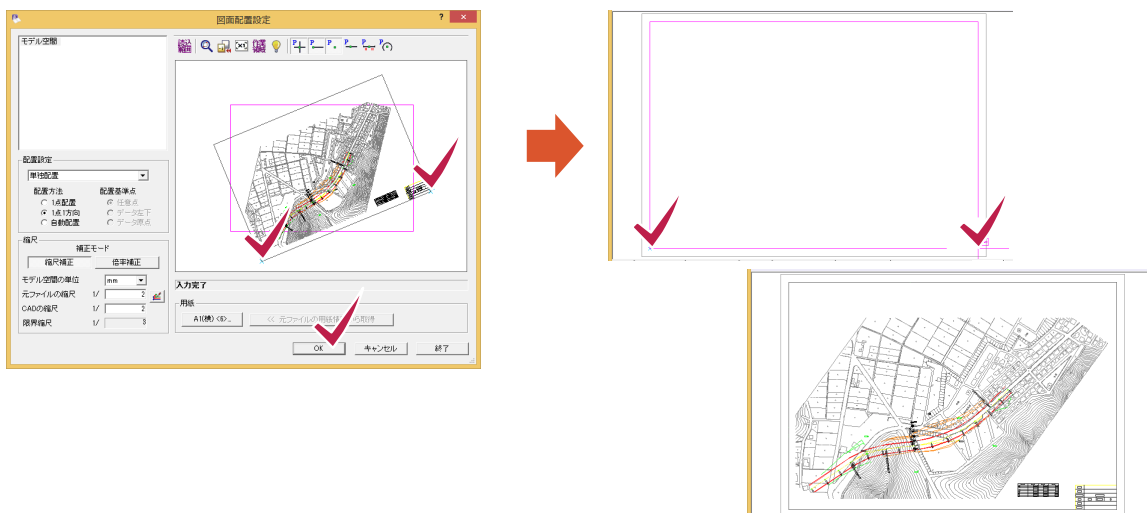
④ 配置方法 配置基準点 配置方法、配置基準点を選択します。

- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 1点配置 | <input checked="" type="radio"/> 任意点 |
| <input type="radio"/> 1点1方向           | <input type="radio"/> データ左下          |
| <input type="radio"/> 自動配置            | <input type="radio"/> データ原点          |

[1点配置]: [配置基準点]で配置基準点1点の指定方法を選択します。



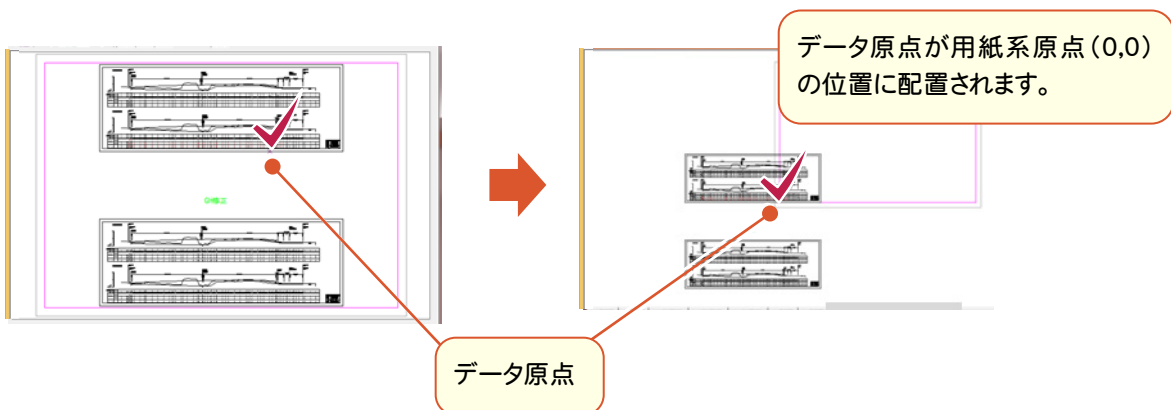
[1点1方向]: 図面に回転をかけて配置する場合に選択します。[配置基準点]で回転の中心となる基準点、2点目のクリックで回転方向をクリックします。



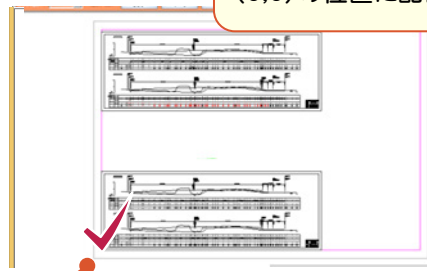
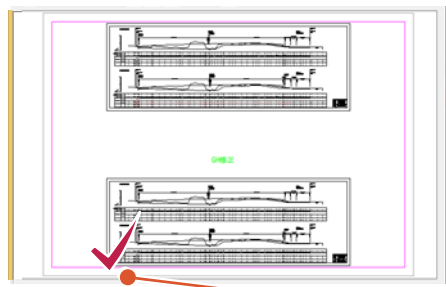
[自動配置]: [モデル空間の図面を選択した場合]は、[縮尺原点]で配置基準点を設定します。用紙系原点(0,0)の位置にデータ原点・データ左下がくるように配置、あるいは既存縮尺にデータを配置します。

[レイアウトの図面を選択した場合]は、印刷範囲枠(灰色線)左下の位置にレイアウトの用紙左下の位置がくるように配置します。

【モデル空間を選択】+縮尺原点: データ原点



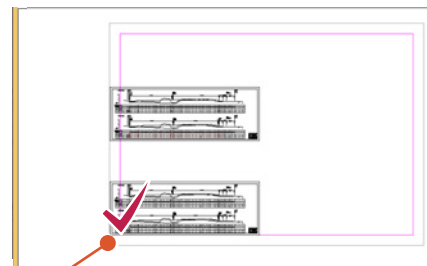
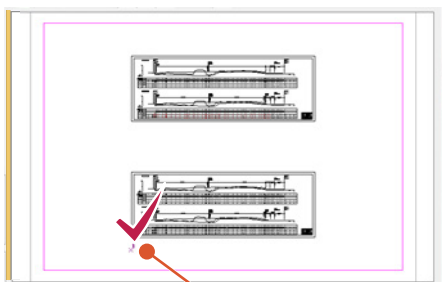
【モデル空間を選択】+縮尺原点:データ左下



データ左下点が用紙系原点 (0,0) の位置に配置されます。

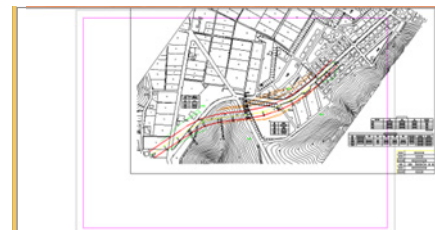
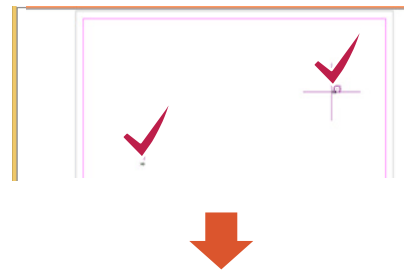
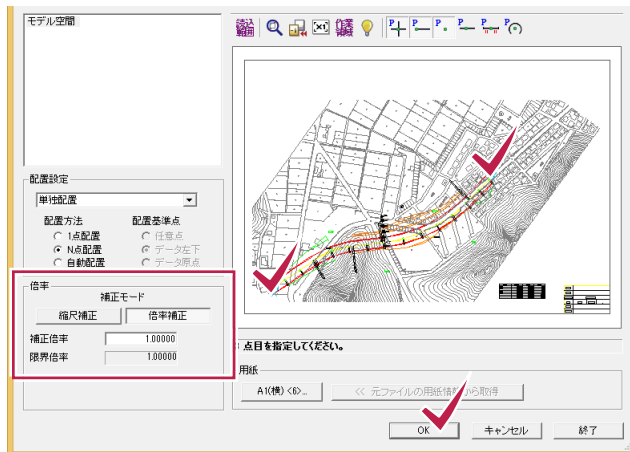
データ左下

【レイアウト空間を選択】+縮尺原点:選択不可



レイアウトの用紙左下が印刷範囲枠の左下の位置に配置されます。縮尺原点の設定は無効になります。

【N点配置】:補正モードが[倍率補正]の場合に有効になります。



図面上で2点以上をクリックし、CAD上のN点に合わせて配置します。  
 例えば(例1)CAD上に座標プロットを2点以上配置しておき、読み込んだ図面で座標プロットと同じ点を指定して合わせて配置します。  
 (例2)読み込んだ図面に寸法線などがあった場合に、あらかじめCAD上に寸法線と同じ長さの線を入力しておき、N点配置で寸法線の端2点と、CAD上の線の端2点を合わせて配置します。

⑤ 縮尺 補正モード 補正モードで「縮尺補正」または「倍率補正」を選択して、縮尺または倍率を設定します。

### 縮尺補正の場合(レイアウト)

レイアウトが存在する場合、縮尺は「1/1」でOKです。



### 縮尺補正の場合(モデル空間)

モデル空間の単位「mm」、元ファイルの用紙サイズを設定すると、CADの縮尺が「〇〇分の1」のように設定されます。

[縮尺計測]で図面内の寸法を参考にして縮尺を求めることもできます。



### 倍率補正の場合

元図面を1としたとき、現在設定されている用紙サイズに収まる倍率(限界倍率)を考慮して、補正倍率を設定して読み込みます。

元図面が実寸でなく、印刷サイズで作成された図面の場合は「1」でOKです。

⑥ 用紙

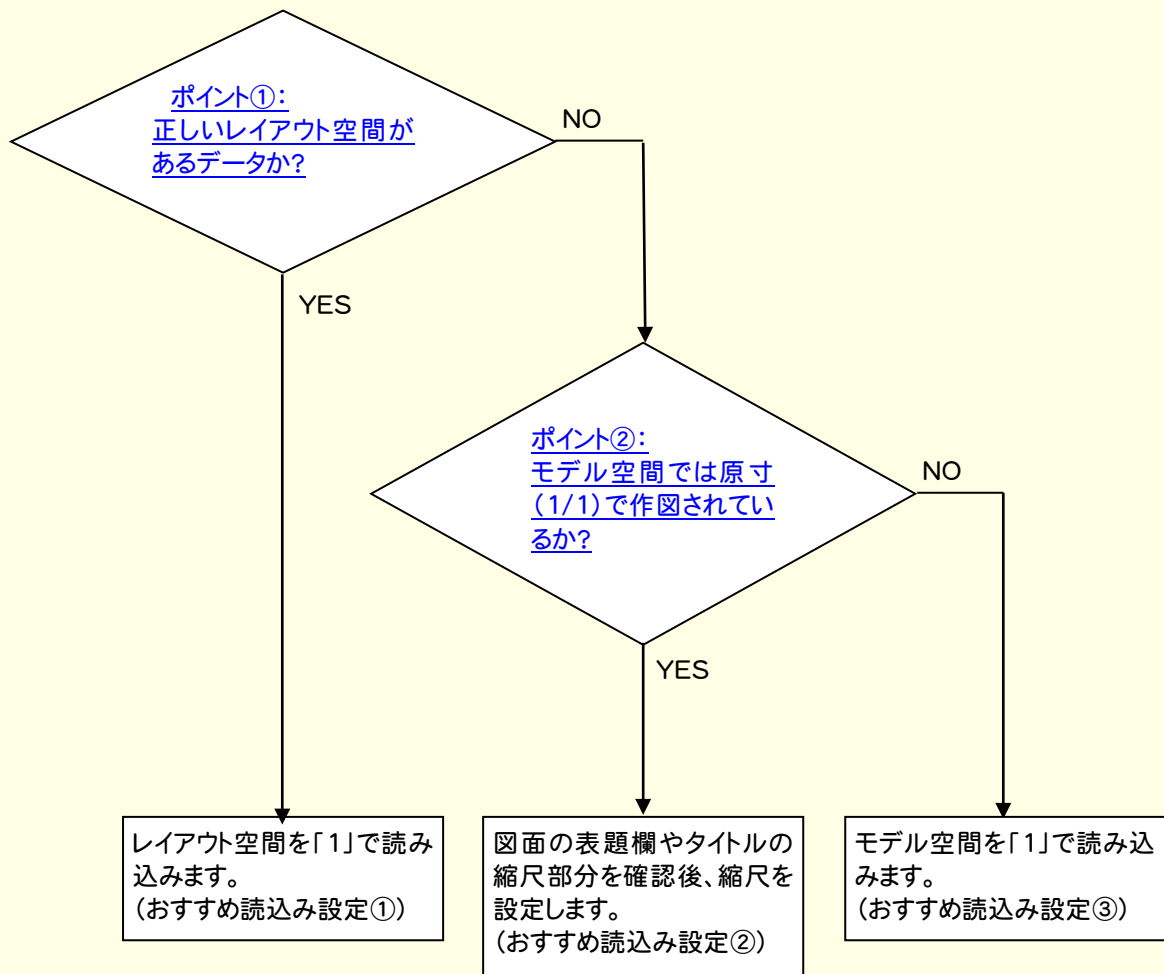
[用紙設定]ボタン: ボタン名称が現在設定されている用紙になります。ボタンをクリックして表示される[用紙設定]ダイアログで用紙を選択します。

[元ファイルの用紙情報から取得]ボタン: モデル空間の図面を選択した場合は、この設定は無効です。

レイアウトの図面を選択した場合、レイアウト情報から取得したサイズから用紙設定に登録してあるサイズ(用紙サイズ+オフセット)が同一である用紙を取得するときは、ボタンをクリックします。レイアウト情報から取得したサイズと用紙設定に登録してあるサイズと合うものがない場合は無効です。

**DXF/DWGデータの読み込みのポイント**

DXF/DWGデータは作成するソフトウェア、作成する人によってデータ形式が異なります。



おすすめの読み込み設定  
(縮尺補正の場合)

	元ファイルの縮尺	CADの縮尺
①レイアウト	1	1
②モデル空間(印刷サイズ)	1/*	1/*
③モデル空間(実寸)	1	1/*



# 08

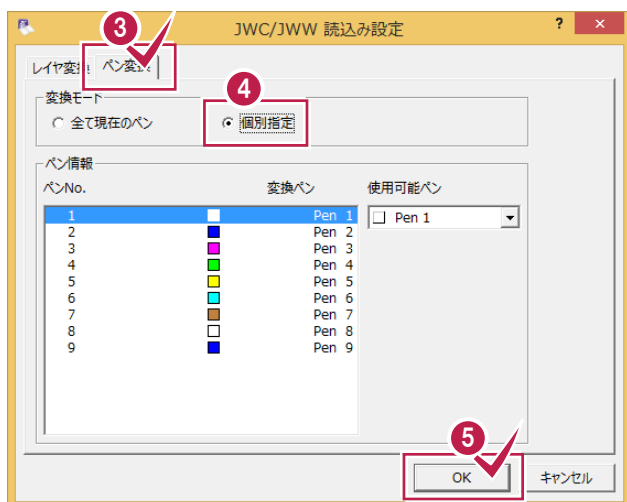
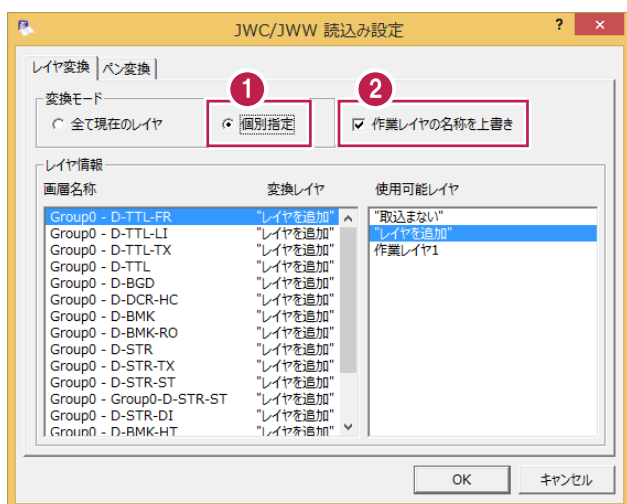
# JWC/JWW ファイルの読み込み・図面配置設定

JWC・JWWファイルの読み込み・図面配置設定の詳細を解説します。

## JWC/JWWファイルの読み込み設定

[JWC/JWW読み込み設定]でJWC/JWWファイルの読み込み時の設定を行います。

ただし、JWC/JWWファイル読み込み時に[JWC/JWW読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、  
[ファイル]-[外部ファイルの設定]の[共通]タブで[設定を行う]のチェックをオンにした場合(初期値はオフ)です。



1 [レイヤ変換]タブで、[個別指定]を選択します。

2 [作業レイヤの名称を上書き]のチェックをオンにします。  
元ファイルで定義された画層を、武蔵ではどのレイヤに割り当てるかを決めます。

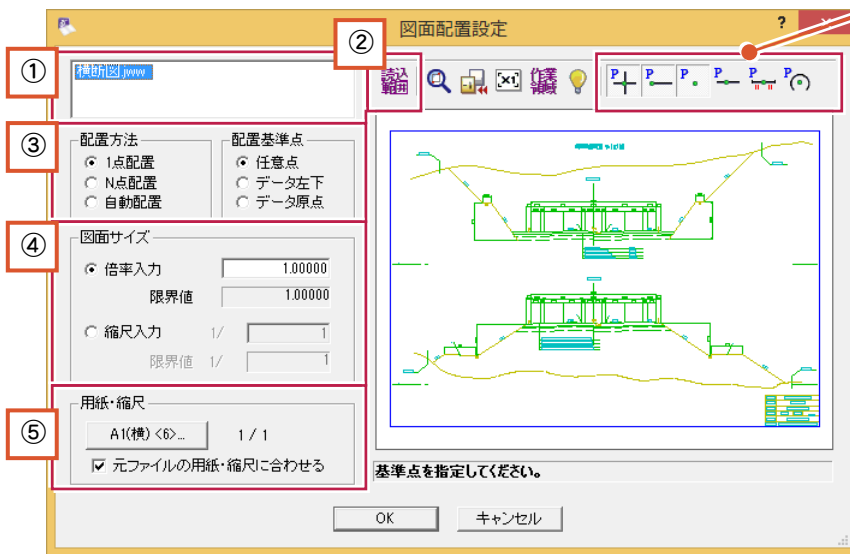
3 [ペン変換]タブをクリックします。

4 [個別指定]を選択します。  
元ファイルで定義されたペンNoを、武蔵ではどのペンNoに割り当てるかを決めます。

5 [OK]をクリックします。

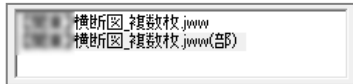
## JWC/JWWファイルの図面配置設定

[図面配置設定]で、図面の配置方法、縮尺などを設定します。

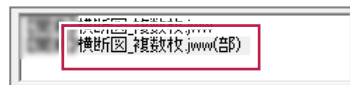


用紙の角や、図枠の角をつかむときに「ピックモード」が有効です。

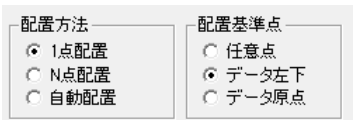
① 取り込む図面、あるいは読み込み範囲を選択します。



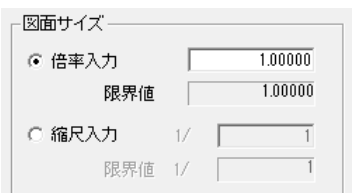
② 複数枚データがある場合、または範囲外に不要なデータがある場合、読み込み範囲を指定します。  
※[読み込み範囲]を指定した図面は“(部)”が付加されます。  
操作は、「06 JWC/JWWの図面読み込み時のQ&A」(P.24)を参照してください。



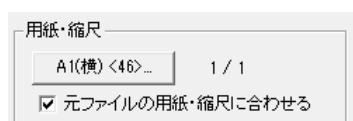
③ 配置を選択します。  
[単独配置]: [配置基準点]で配置基準点 1 点の指定方法を選択します。  
[N 点配置]: [イメージ]で配置基準点を設定します。補正倍率も N 点から自動算出します。  
[自動配置]: 用紙系原点(0,0)の位置にデータ左下の位置がくるように配置します。



④ 図面サイズを設定します。  
[1 点配置]の場合は、配置時にインプットバーでも設定可能です。  
[倍率入力]: 図面サイズに対して倍率補正を適用してサイズ補正します。限界値(用紙サイズに対する限界倍率)を目安に図面に配置する倍率を入力します。  
[縮尺入力]: 図面サイズに対して縮尺補正を適用してサイズ補正します。限界値を目安に縮尺を入力します。



⑤ [用紙設定]ボタン: ボタン名称が、現在表示している用紙になります。ボタンをクリックして表示される[用紙設定]ダイアログで、用紙を選択します。  
[縮尺][元ファイルの用紙・縮尺に合わせる]チェックボックス: 元ファイルの縮尺情報から取得した縮尺を表示します。[元ファイルの用紙・縮尺に合わせる]のチェックがオンのときは、表示されている縮尺が要素の縮尺になります。オフのときは、この表示に関係なく、[入力属性設定]で設定した縮尺が要素の縮尺になります。





## 09

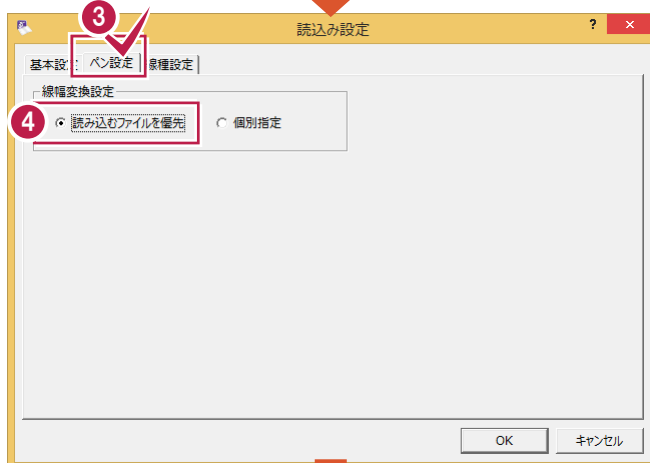
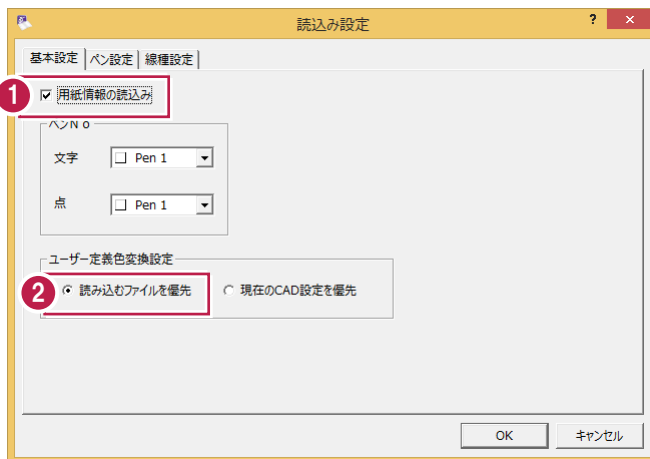
# SXFファイルの読み込み設定

SXFファイルの読み込み設定の詳細を解説します。

## SXFファイルの読み込み設定

[読み込み設定]でSXFファイルの読み込み時の設定を行います。

ただし、SXFファイル読み込み時に[読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、[ファイル]–[外部ファイルの設定]の[共通]タブで[設定を行う]のチェックをオンにした場合(初期値はオフ)です。



1 [基本設定]タブで[用紙情報の読み込み]のチェックをオンにします。

2 [ユーザー定義色変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

3 [ペン設定]タブをクリックします。

4 [線種変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

5 [線種設定]タブをクリックします。

6 [ユーザー定義線種変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

7 [OK]をクリックします。





# 10 DXF/DWG 読み込みの基本情報

「モデル空間」「レイアウト」「ビューポート」について説明します。

「モデル空間」は実際の大きさ(実寸)で、図面を描く空間で縮尺の概念がありません。

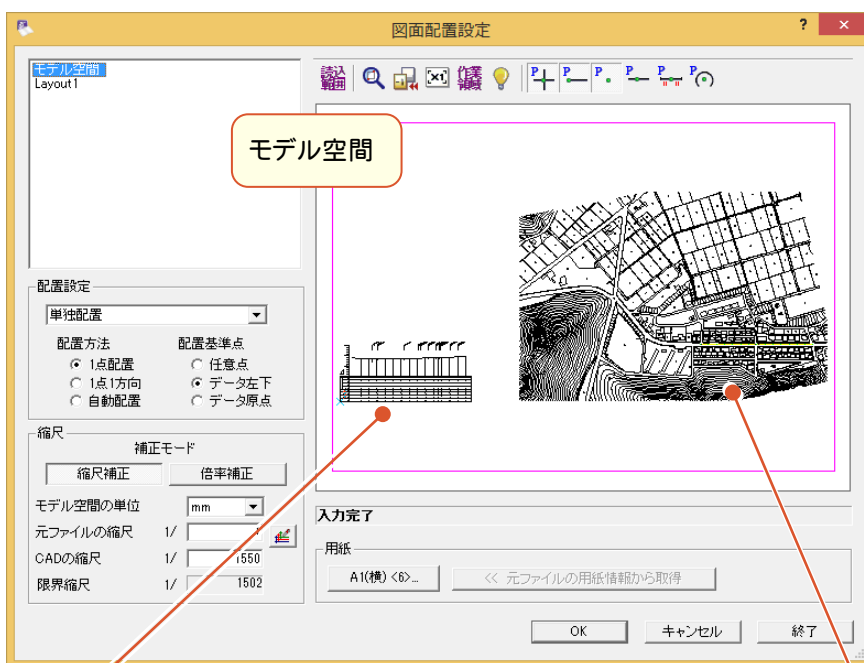
「ペーパー空間」と呼ばれる作業環境で、そのモデルの「レイアウト」を作成できます。

「ビューポート」とは、モデル空間の実寸の図面をレイアウトに持っていくために縮尺をセットした窓枠みたいなものです。

レイアウトでは複数のビューポートをセットできますが、縦横異縮尺は、できません。

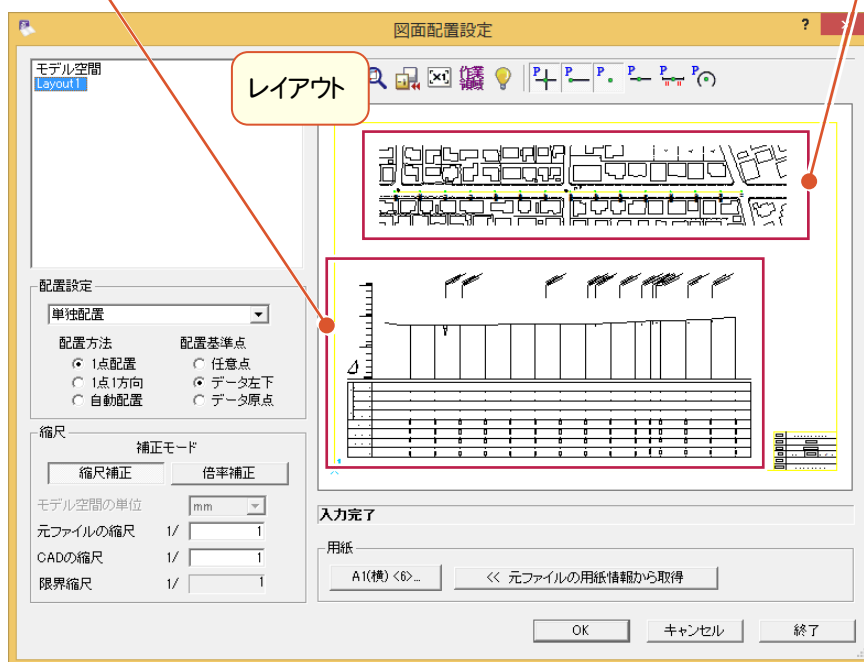
武蔵では、モデル空間をフリーページに、ビューポートを領域として読み込むことができます。

※「05 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A」の「①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合」(P.11)を参照してください。



1つ目の「ビューポート」

2つ目の「ビューポート」



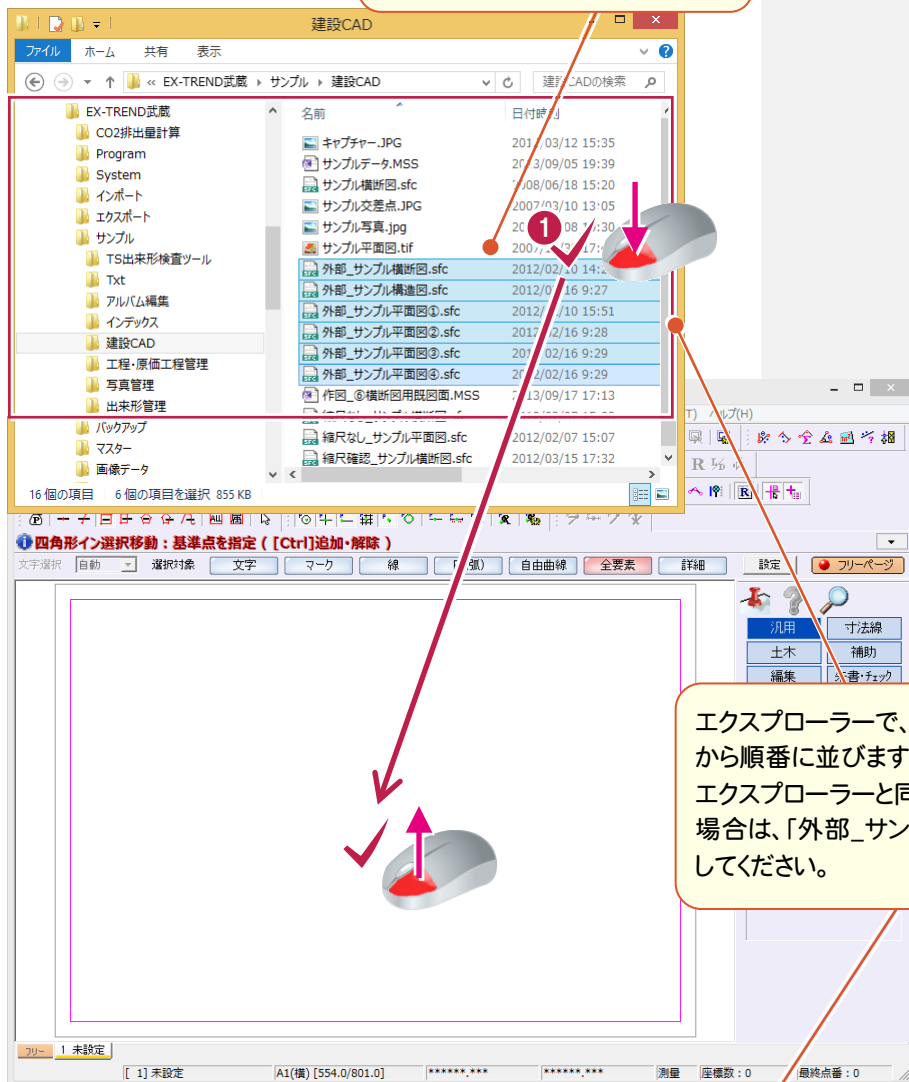


# 11 エクスプローラーからファイルを取り込むには?

エクスプローラーからファイルをドラッグ&ドロップして、取り込むことができます。

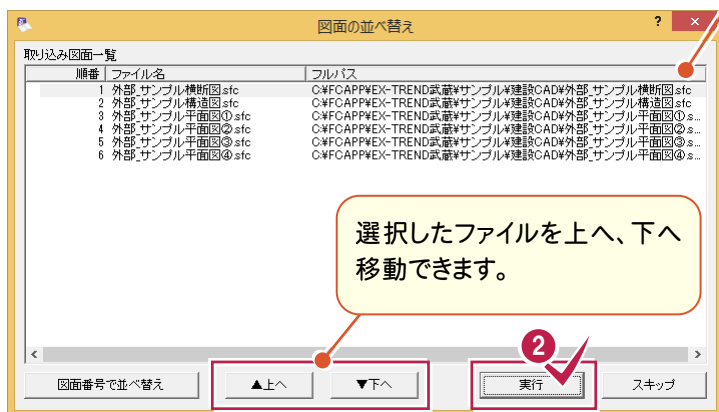
Shiftキー、Ctrlキーを押しながら  
ファイルをクリックすると、複数  
選択できます。

1 ファイルを選択して、CAD画面までドラッグ&  
ドロップします。

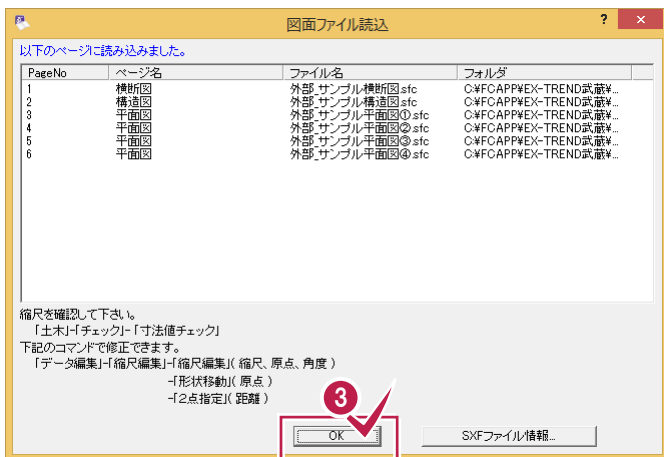


エクスプローラーで、ドラッグしているファイル  
から順番に並びます。  
エクスプローラーと同じ順番で取り込みたい  
場合は、「外部\_サンプル横断面.sfc」をドラッグ  
してください。

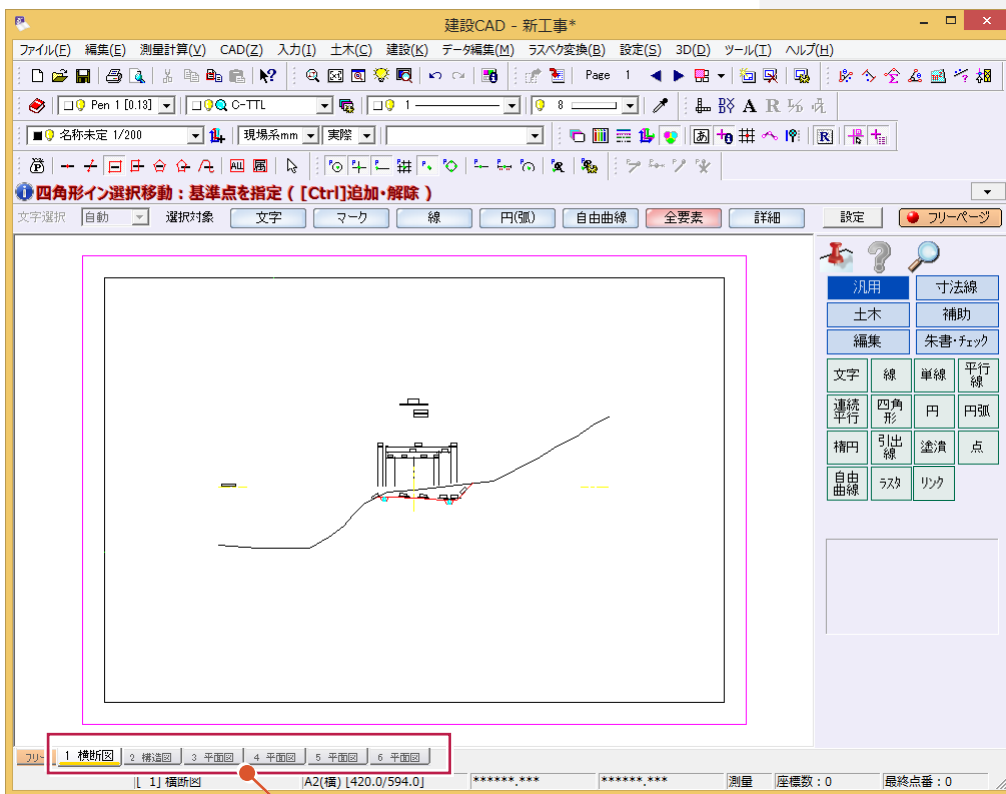
2 [実行]をクリックします。



選択したファイルを上へ、下へ  
移動できます。



3 [OK]をクリックします。



選択した図面が一括して読み込まれます。



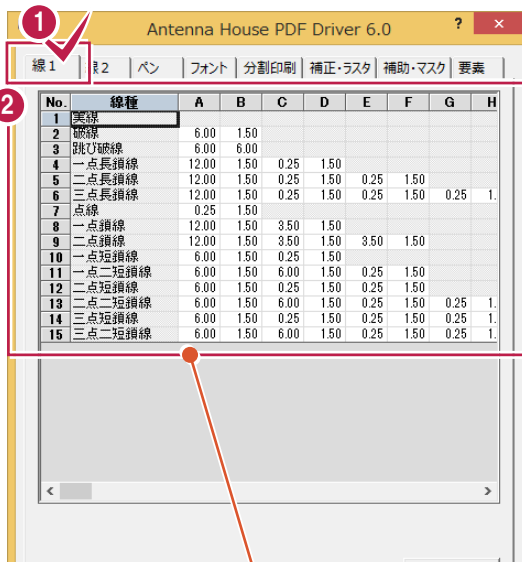
## 12 印刷に関するQ&A

印刷に関する以下の操作を解説します。

- ①線種毎に作図ピッチを変更する
- ②モノクロ印刷する
- ③赤書き印刷する
- ④印刷時の線幅を変更する
- ⑤A1図面をA3で印刷したいときは・・・
- ⑥任意にページを選択して印刷する
- ⑦必要範囲のみ印刷する

### ①線種毎に作図ピッチを変更する

CADで表示されている線種と印刷した線種がイメージ通りでないときは、[出力設定]の[線1]タブで、線種毎のピッチを変更してみてください。



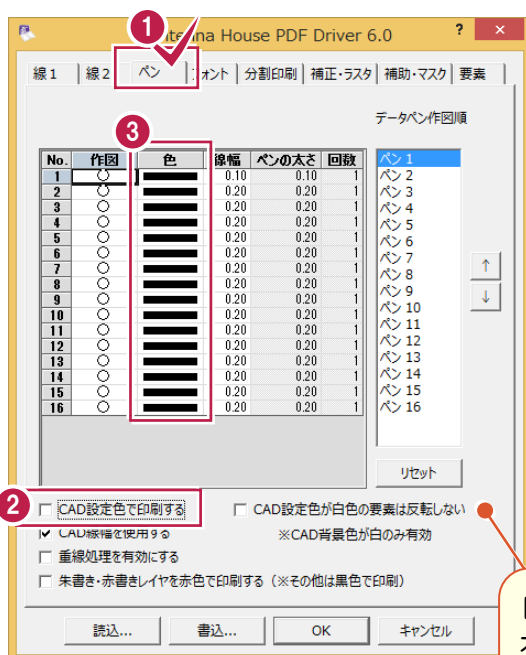
- 1 [線1]タブをクリックします。
- 2 線種毎に作図ピッチを変更します。

線種に対する設定可能な間隔が表示されています。

点線	
破線	— — — — —
跳び破線	— — — — —
1点長鎖線	— — — — —
1点鎖線	— — — — —
1点短鎖線	A B C D A
2点長鎖線	— — — — —
2点鎖線	— — — — —
2点短鎖線	A B C D E F A
3点長鎖線	— — — — —
3点短鎖線	A B C D E F G H A
1点2短鎖線	A B C D E F A
2点2短鎖線	A B C D E F G H A
3点2短鎖線	A B C D E F G H I J A

## ②モノクロ印刷する

[出力設定]の[ペン]タブで設定します。

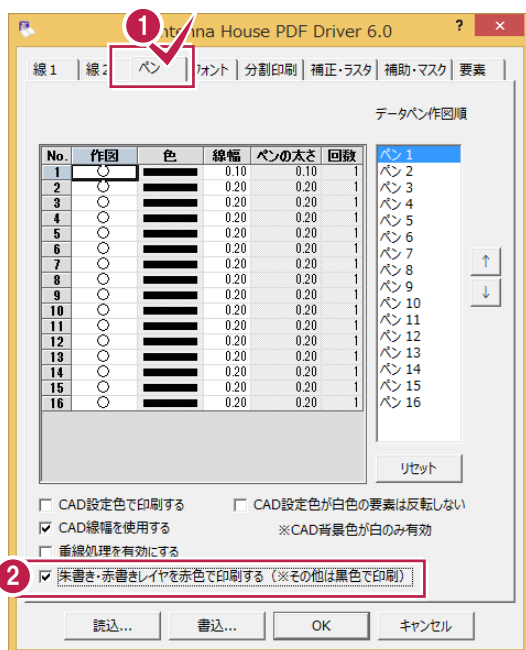


- 1 [ペン]タブをクリックします。
- 2 [CAD設定色で印刷する]のチェックをオフにします。
- 3 [色]セルですべて黒にします。

[CAD設定色が白色の要素は反転しない]のチェックをオンにすると、CADの背景色が白色の場合に何も印刷されない(もしくは一部図面が消えてしまう)場合があります。  
何も印刷されない(もしくは一部図面が消えてしまう)場合は、このチェックをオフにしてください。

## ③赤書き印刷する

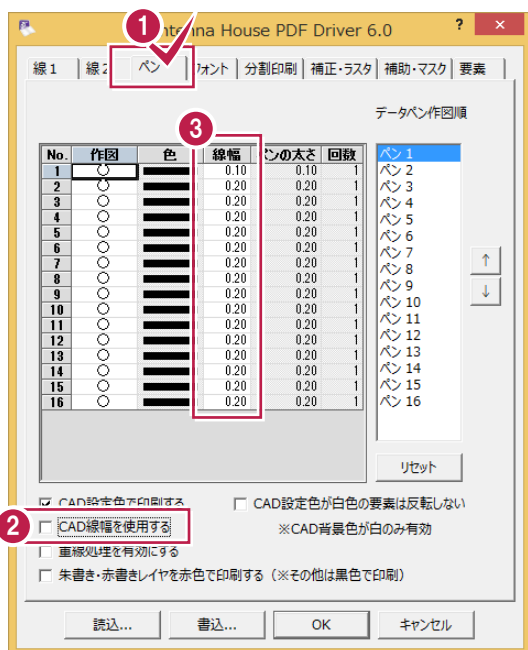
[出力設定]の[ペン]タブで設定します。



- 1 [ペン]タブをクリックします。
- 2 [朱書き][赤書き]で作成した要素など、固定レイヤの朱書き・赤書きの要素を赤色で印刷し、その他の要素を黒色で印刷する場合は、[朱書き・赤書きレイヤを赤色で印刷する(※その他は黒色で印刷)]のチェックをオンにします。

## ④印刷時の線幅を変更する

[出力設定]の[ペン]タブで設定します。



- 1 [ペン]タブをクリックします。
- 2 [CAD線幅を使用する]のチェックをオフにします。
- 3 [線幅]セルで印刷時の線幅を設定します。

## ⑤A1図面をA3で印刷したいときは・・・

[出力設定]の[補正・ラスタ]タブで設定します。

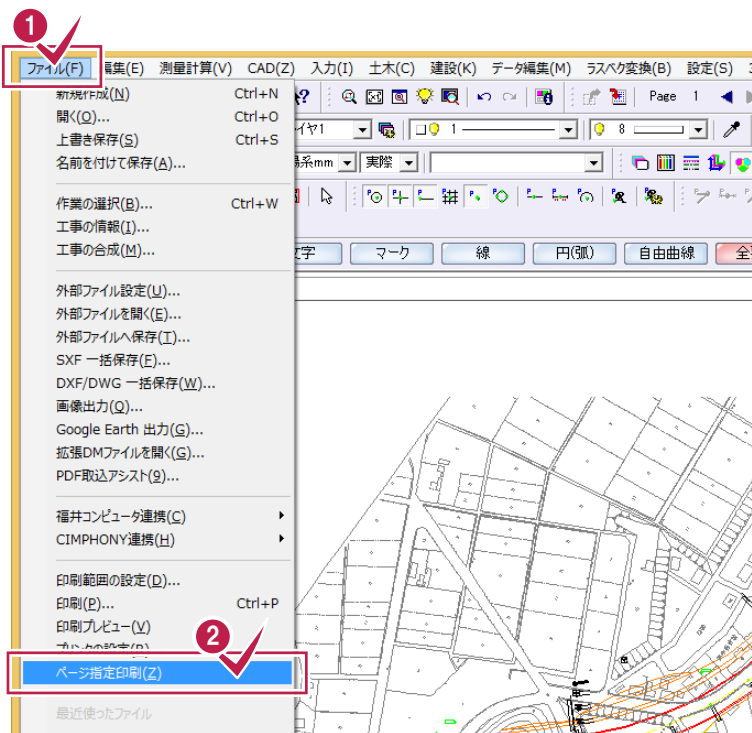


- 1 [補正・ラスタ]タブをクリックします。
- 2 [固定倍率]をクリックして、倍率を選択します。

[用紙サイズから自動計算]の場合は、プリンタドライバの用紙サイズから自動設定されます。

## ⑥任意にページを選択して印刷する

[ファイル]—[ページ指定印刷]で印刷するページを選択して印刷します。



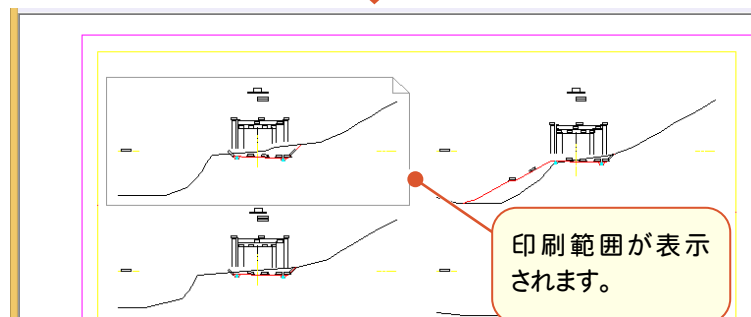
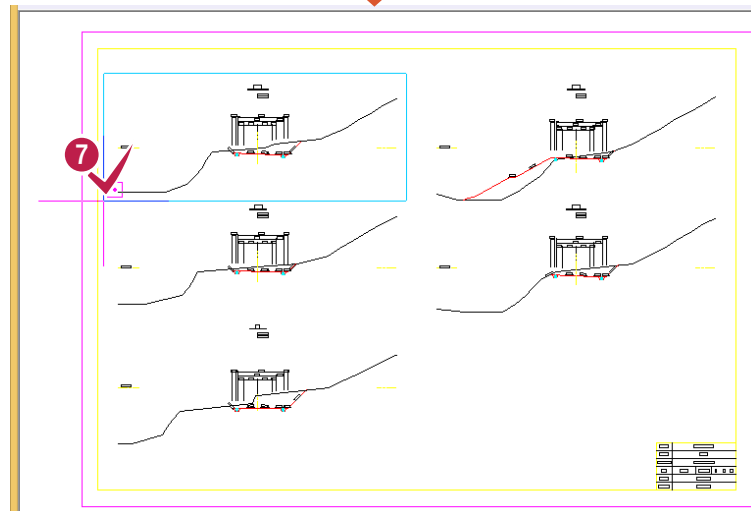
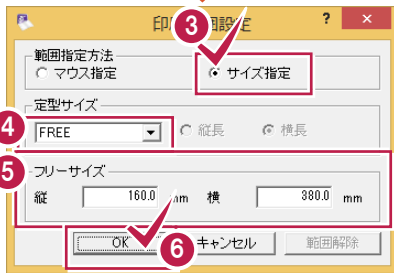
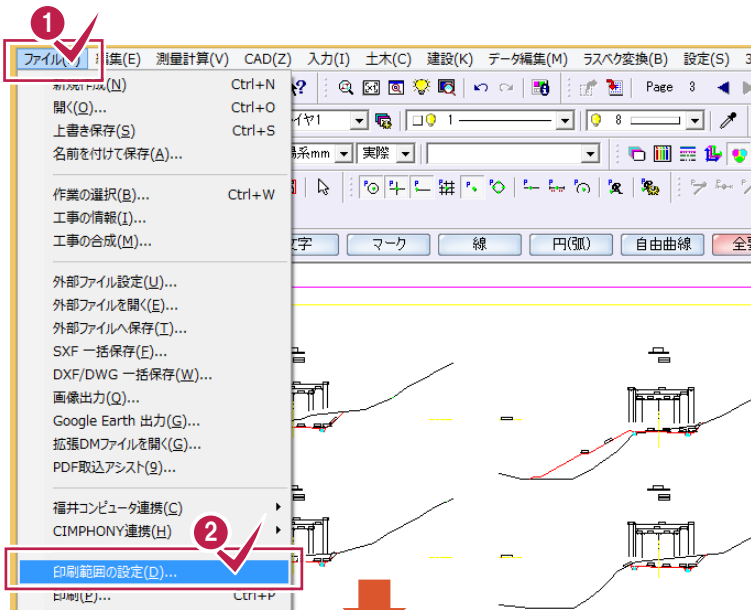
- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [ページ指定印刷]をクリックします。



- 3 印刷するページのチェックをオンにします。
- 4 [OK]をクリックします。

## ⑦必要範囲のみ印刷する

[ファイル]—[印刷範囲の設定]で印刷する範囲を設定して印刷します。



- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [印刷範囲の設定]をクリックします。
- 3 [サイズ指定]をクリックします。
- 4 「FREE」を選択します。
- 5 縦、横のサイズを入力します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 印刷範囲の左下をクリックします。





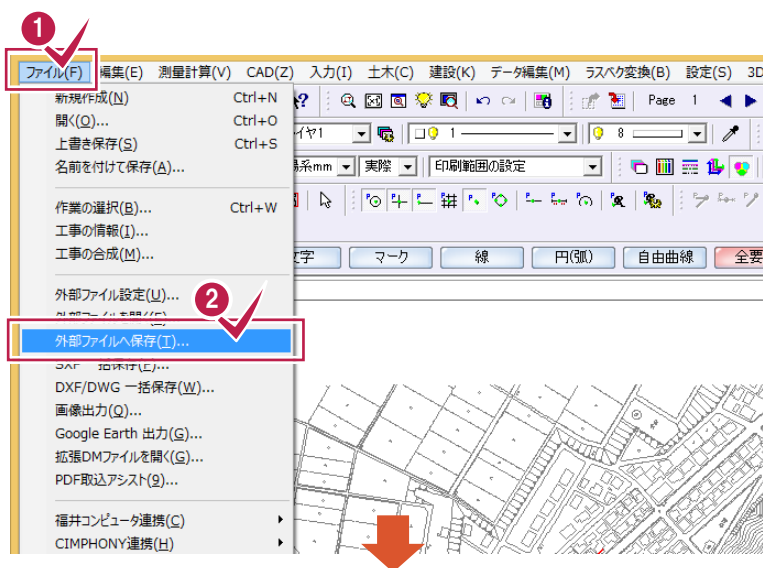
## 13 外部ファイルの保存方法

武蔵オリジナルファイル(MSSファイル)以外に、以下のデータ形式に変換して保存できます。

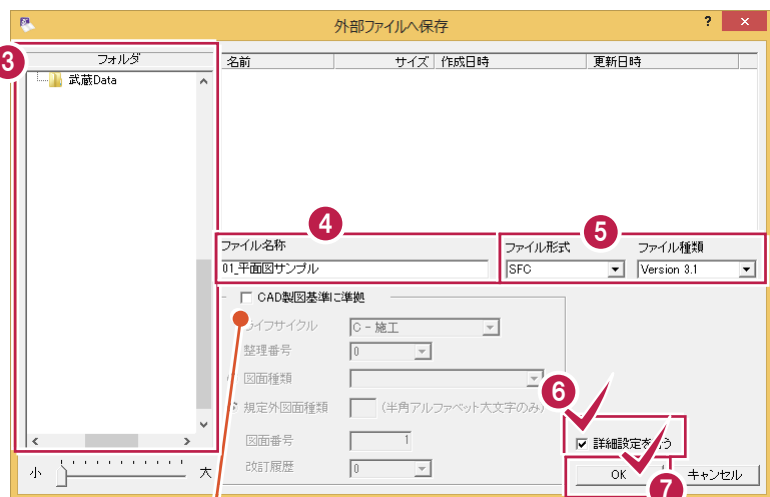
- ① 1ページ毎、外部ファイル(SFC/P21)に保存する
- ② 1ページ毎、外部ファイル(DWG/DXF/JWW/JWC)に保存する
- ③ 複数ページを一括して外部ファイル(SFC/P21)に保存する
- ④ 複数ページを一括して外部ファイル(DWG/DXF)に保存する
- ⑤ 図面を画像に変換して出力する
- ⑥ 図面をPDFに変換して出力する

### ① 1ページ毎、外部ファイル(SFC/P21)に保存する

[ファイル] - [外部ファイルへ保存]で、1ページ毎、外部ファイル(SFC/P21)に保存します。

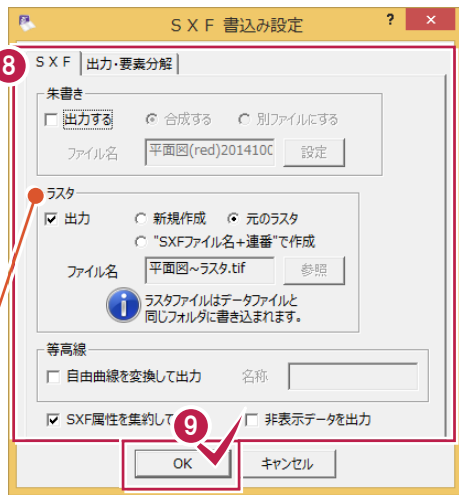


- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイルへ保存]をクリックします。



- 3 保存先のフォルダを選択します。
- 4 ファイル名を入力します。
- 5 保存ファイルの形式、種類を選択します。
- 6 [詳細設定を行う]のチェックをオンにします。
- 7 [OK]をクリックします。

[CAD製図基準に準拠]のチェックをオンにして、条件を設定すると、CAD製図基準に準拠した名称を自動命名します。



8 ラスタなどの詳細設定を行います。

9 [OK]をクリックします。

[ラスタ]: 図面に配置したラスタデータを出力する場合に、チェックをオンにします。ラスタファイルの出力先はSXFファイルと同一フォルダになります。

[新規作成]は改めてラスタファイルを作成します。読み込んだラスタファイルへの上書きも可能です。

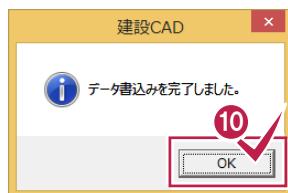
[元のラスタ]は変更が加えられていないラスタデータが対象です。読み込んだラスタファイルを出力先へコピーします。ただし、ファイル形式によっては出力形式に変換がかかります。元のラスタファイルへの上書きはできません。

["SXFファイル名+連番"で作成]はラスタファイル名を「SXFファイル名+連番(1から始まる連番で、実際に配置されているラスタデータ数までカウント)」にします。同一ラスタデータを複数配置してある場合も複数出力します。

ラスタの出力形式は、バージョンによって異なります。

Ver.	出力ラスタデータ	出力形式
Ver2	モノクロ(白黒の2値)のラスタ	TIFF (G4)
Ver3	全てのラスタデータ	モノクロ: TIFF (G4) カラー: JPG

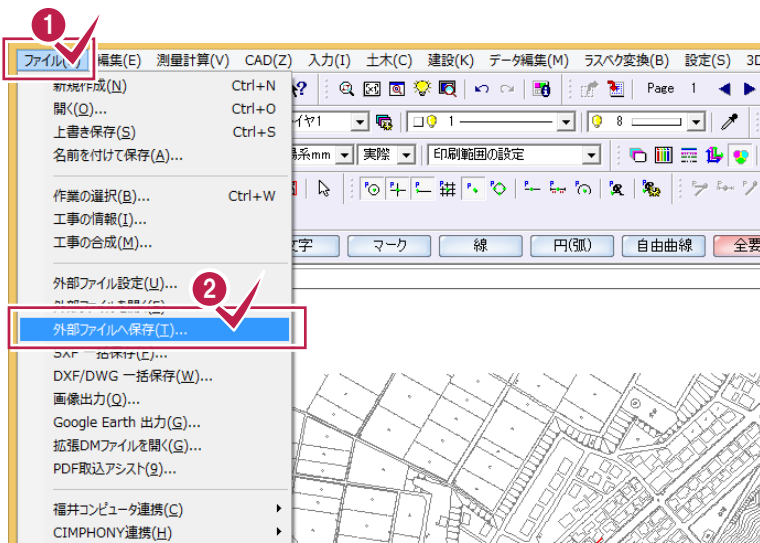
[非表示データを出力]: レイヤ設定・縮尺設定・ペン設定で非表示のデータも出力する場合は、チェックをオンにします。オフにして出力しない場合、非表示のデータと共に該当レイヤも出力しません。



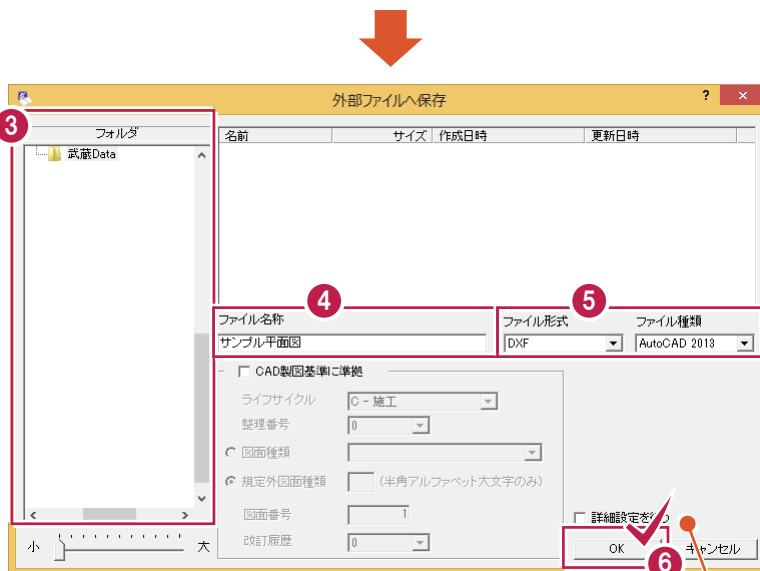
10 [OK]をクリックします。

## ② 1ページ毎、外部ファイル(DWG/DXF/JWW/JWC)に保存する

[ファイル]－[外部ファイルへ保存]で、1ページ毎、外部ファイル(DWG/DXF/JWW/JWC)に保存します。

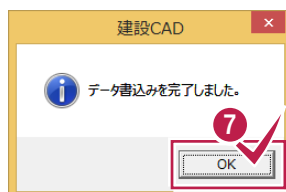


- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイルへ保存]をクリックします。



- 3 保存先のフォルダーを選択します。
- 4 ファイル名を入力します。
- 5 保存ファイルの形式、種類を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

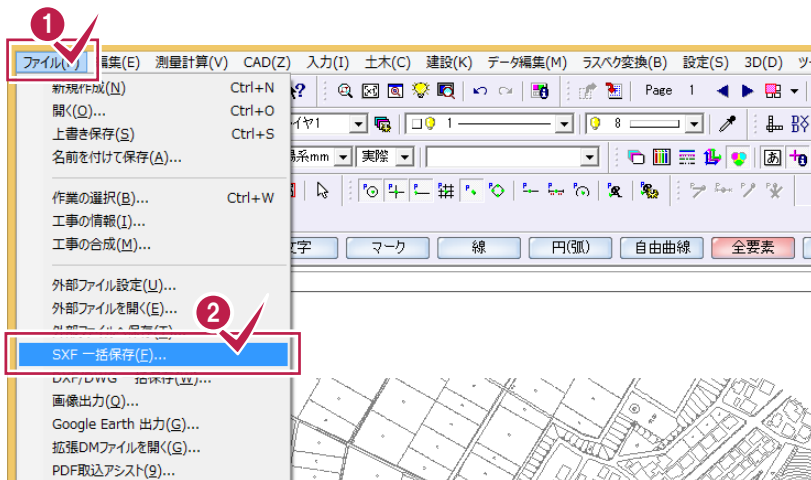
[詳細設定を行う]のチェックをオンにすると、[OK]をクリックした後、詳細設定の画面が表示されます。



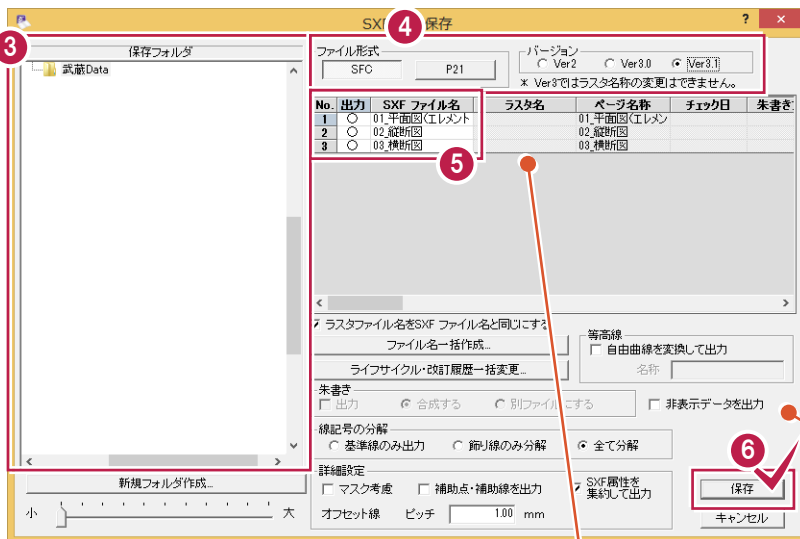
- 7 [OK]をクリックします。

### ③複数ページを一括して外部ファイル(SFC/P21)に保存する

[ファイル]—[SXF一括保存]で、複数ファイルを一括して外部ファイル(SFC/P21)に保存します。

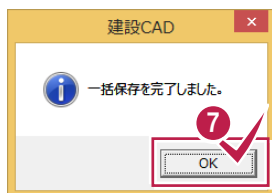


- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [SXF一括保存]をクリックします。



- 3 保存先フォルダを選択します。
- 4 ファイル形式、バージョンを選択します。
- 5 出力対象ページの[出力]を「」にして、ファイル名を設定します。
- 6 [保存]をクリックします。

レイヤ設定・縮尺設定・ペン設定で非表示のデータも出力する場合は、チェックをオンにします。オフにして出力しない場合、非表示のデータと共に該当レイヤも出力しません。



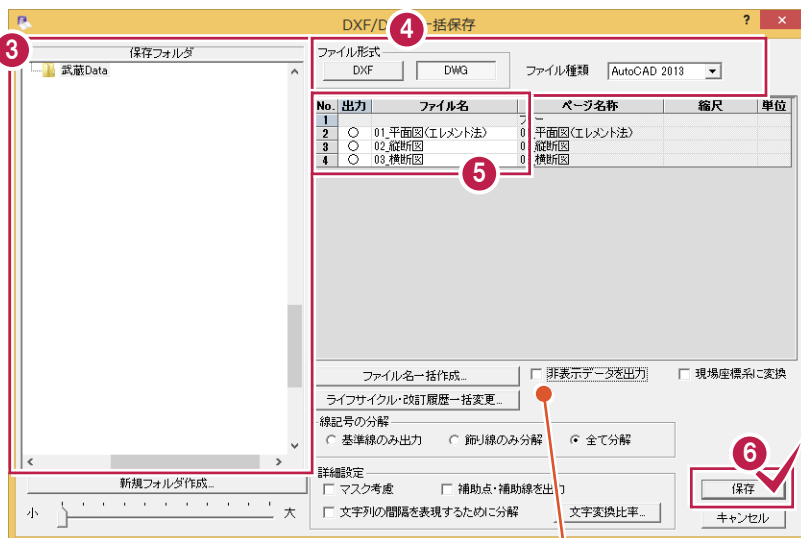
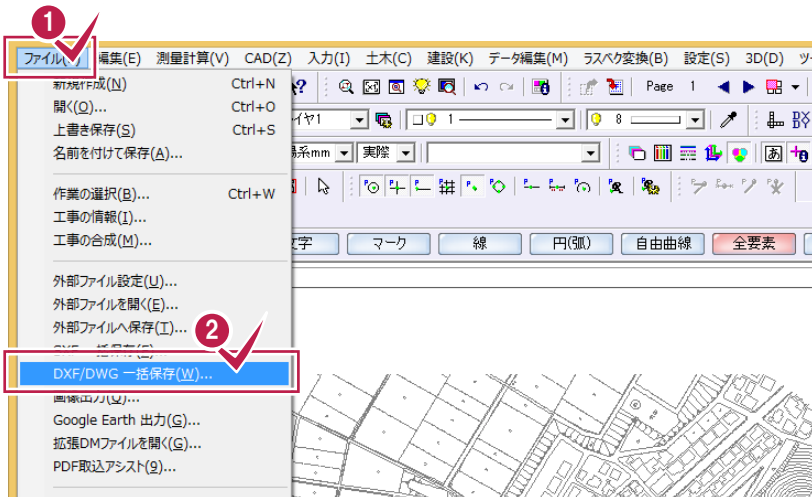
- 7 [OK]をクリックします。

[ラスタ名]: [Ver2]  
ラスタデータが変更されていない場合、出力ファイル名の変更はありません。ラスタデータに変更が加えられている場合、ここで設定したラスタ名が出力ファイル名に適用されます。複数のラスタデータが配置されている場合、一番背面に配置したモノクロラスタデータを出力します。

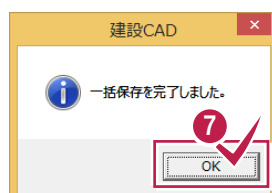
[Ver3]  
ラスタデータに変更が加えられていない場合出力ファイル名の変更はありません。ラスタデータに変更が加えられている場合、「SXFファイル名~ラスタ+連番(1から始まる連番で、実際に配置されているラスタデータ数までカウント)」になります。同一ラスタデータを複数配置している場合も複数出力します。

## ④複数ページを一括して外部ファイル(DWG/DXF)に保存する

[ファイル]—[DXF/DWG一括保存]で、複数ファイルを一括して外部ファイル(DWG/DXF)に保存します。

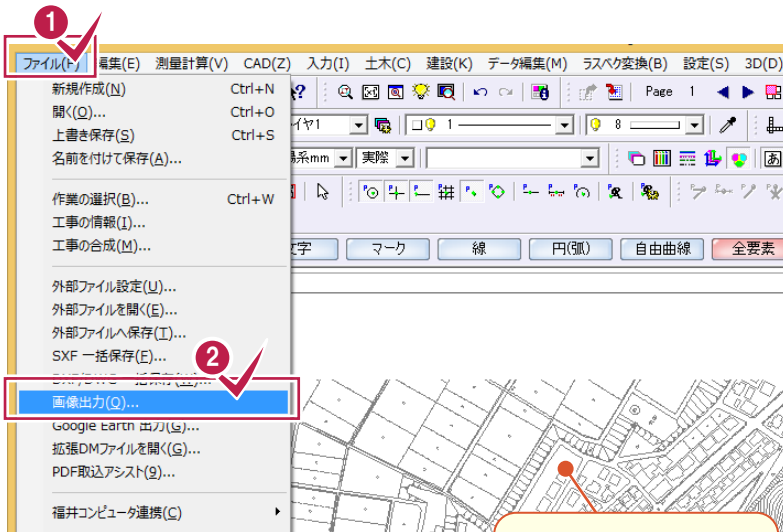


レイヤ設定・縮尺設定・ペン設定で非表示のデータも出力する場合は、チェックをオンにします。オフにして出力しない場合、非表示のデータと共に該当レイヤも出力しません。

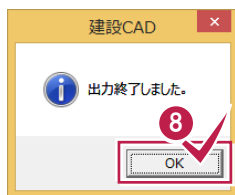
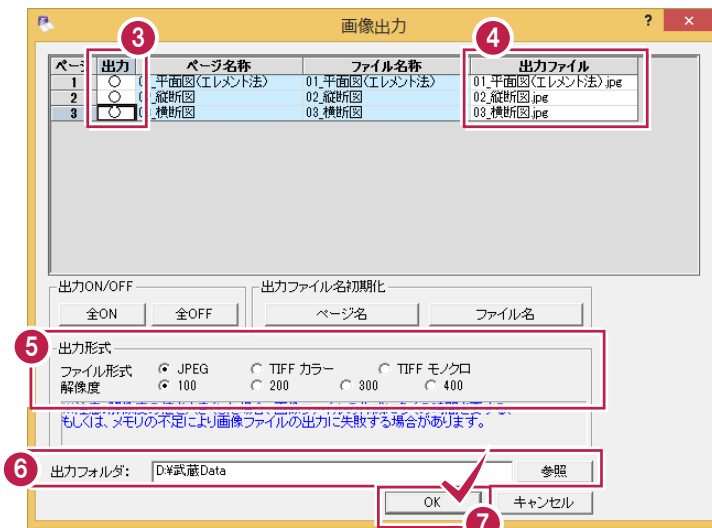


## ⑤ 図面を画像に変換して出力する

[ファイル]－[画像出力]で、図面を画像に変換して出力します。



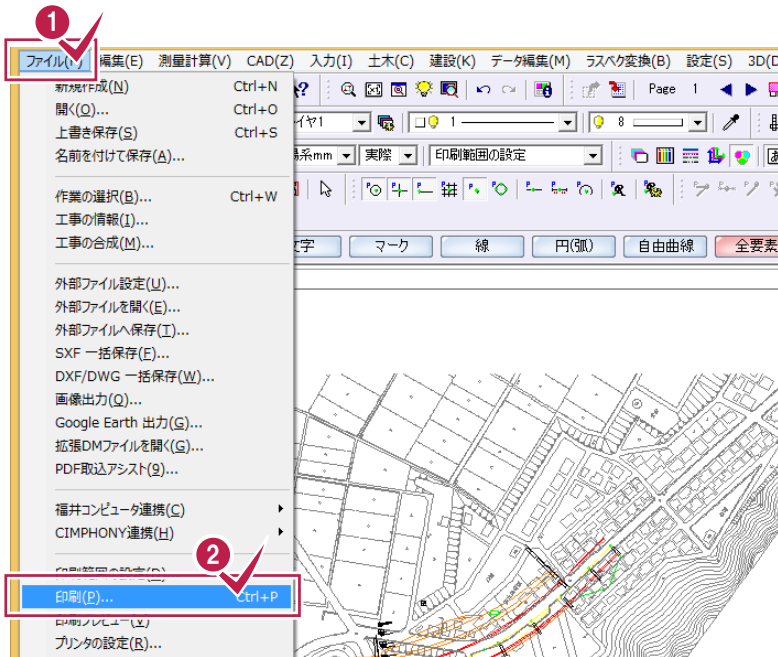
背景色が黒の場合は、  
真っ黒になるので注意  
してください。



- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [画像出力]をクリックします。
- 3 画像変換対象ファイルの[出力]を「○」にします。
- 4 [出力ファイル]にファイル名を入力します。
- 5 ファイル形式と解像度を選択します。
- 6 出力フォルダーを設定します。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。

## ⑥ 図面をPDFに変換して出力する

[ファイル]－[印刷]で、図面をPDFに変換して出力します。



1 [ファイル]をクリックします。

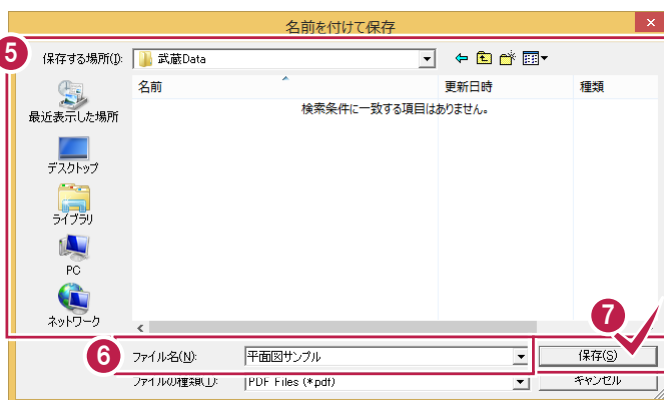
2 [印刷]をクリックします。



3 [プリンタ名]で「Antenna House PDF Driver」を選択します。

4 [OK]をクリックします。

用紙サイズや印刷の向きを変更できます。



5 保存する場所を選択します。

6 ファイル名を入力します。

7 [保存]をクリックします。



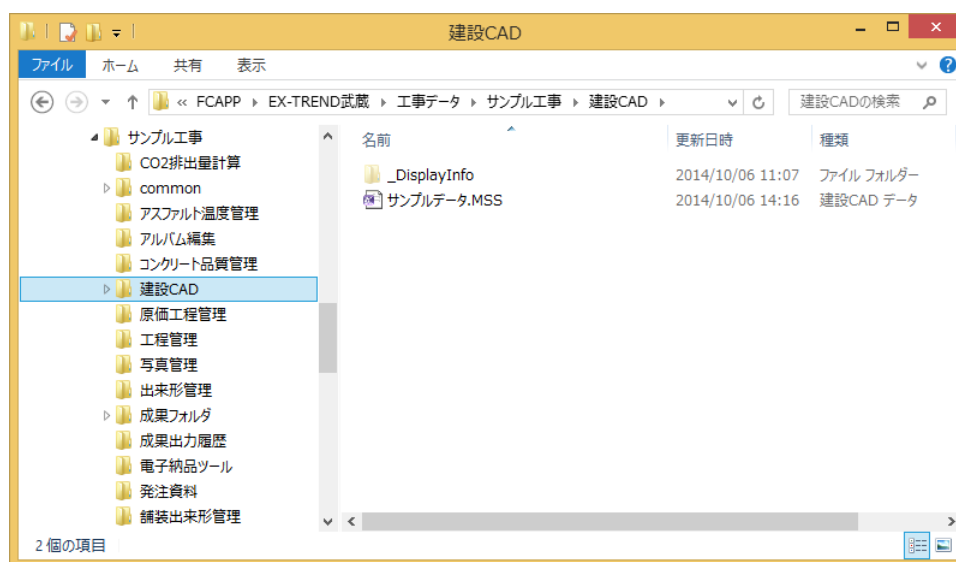
## 14 武蔵ファイルの保存先について

武蔵ファイルの保存先は、インデックスから起動した場合と、単独起動した場合で異なります。

### 【インデックスから起動した場合】

「¥FcApp¥EX-TREND武蔵¥工事データ¥工事名¥建設CAD」フォルダーになります。

(インデックスから起動した場合の保存先は、インデックスの[ツール]-[パスの設定]の[工事データ]で変更できます。)



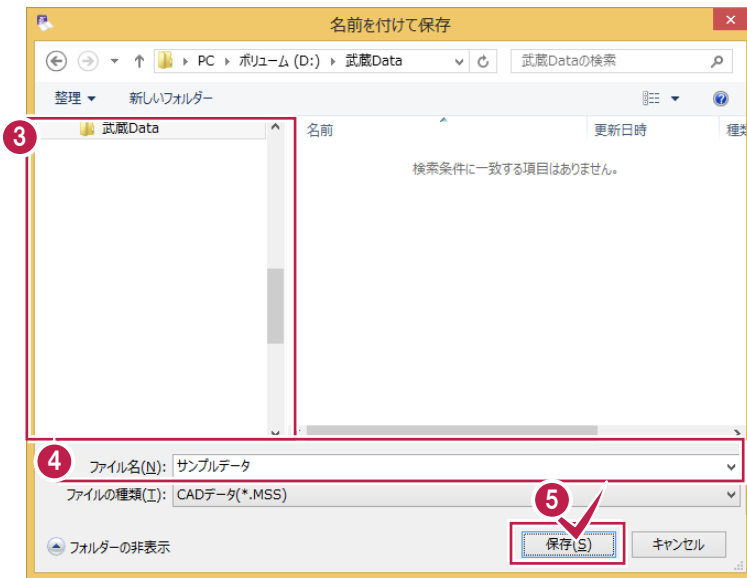
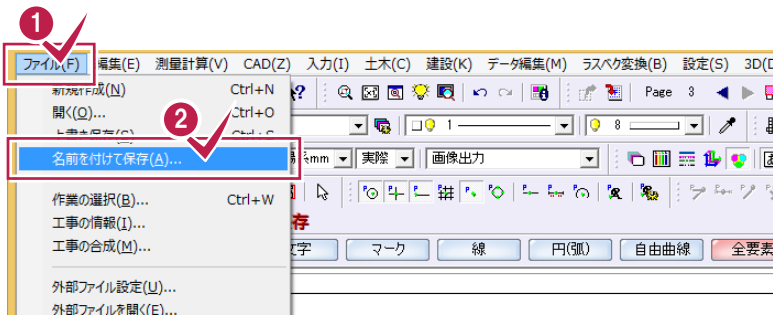
### 【単独起動した場合】

「¥FcApp¥EX-TREND武蔵¥個別データ¥建設CAD」フォルダーになります。





ファイルの保存先は、[ファイル]－[名前を付けて保存]で、任意に変更することもできます。



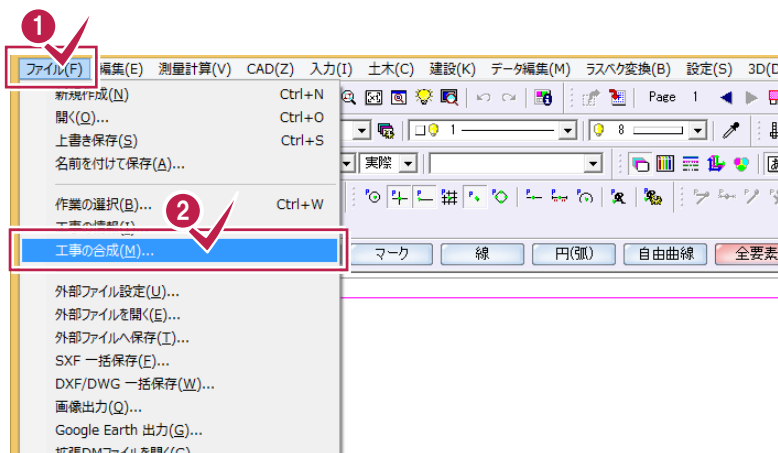
- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [名前を付けて保存]をクリックします。

- 3 ファイルの保存場所を選択します。
- 4 ファイル名を入力します。
- 5 [保存]をクリックします。



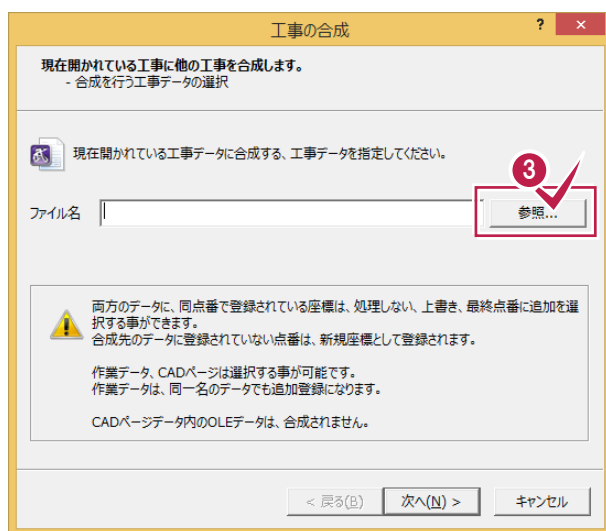
# 15 図面(別の武蔵ファイル)を合成するには?

別に保存している武蔵ファイルの図面は、[ファイル]–[工事の合成]で合成します。

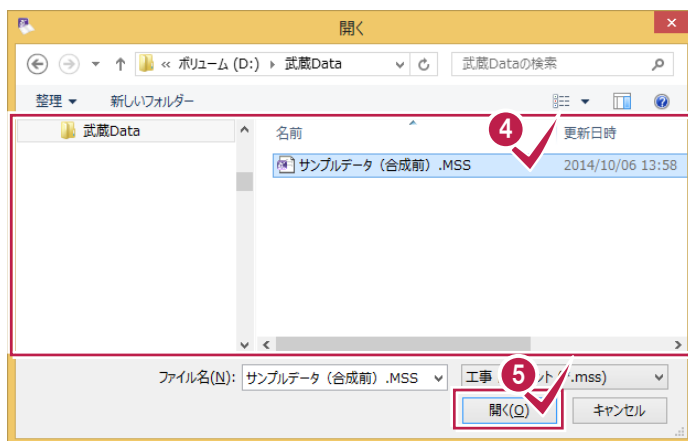


1 合成元の武蔵ファイルを開いて、[ファイル]をクリックします。

2 [工事の合成]をクリックします。



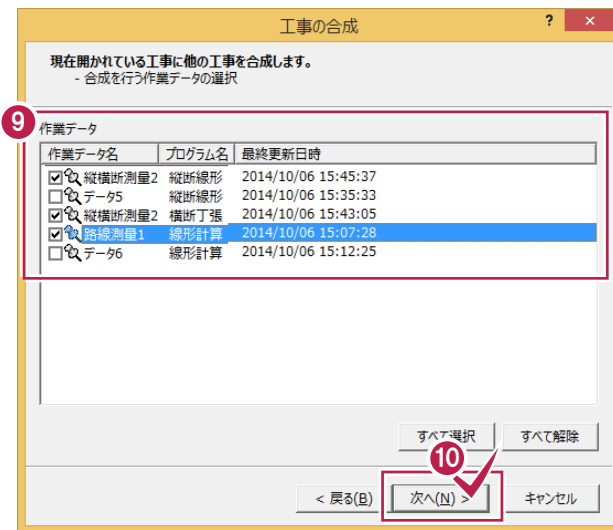
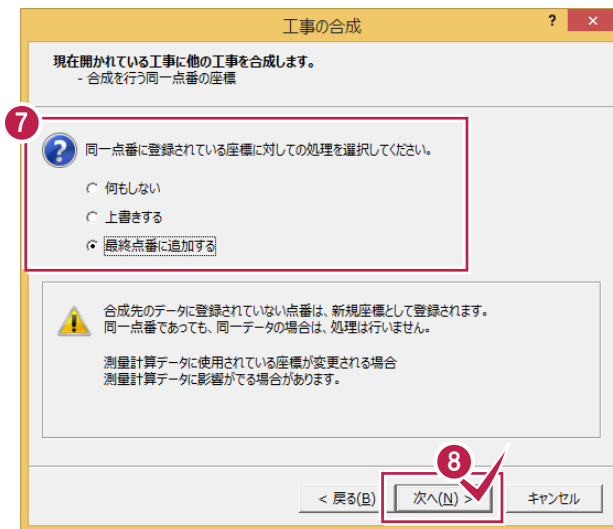
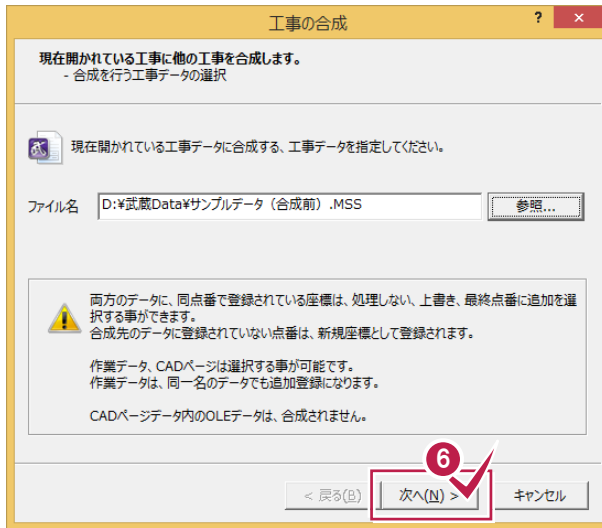
3 [参照]をクリックします。



4 合成する工事データ(MSSデータ)を選択します。

5 [開く]をクリックします。





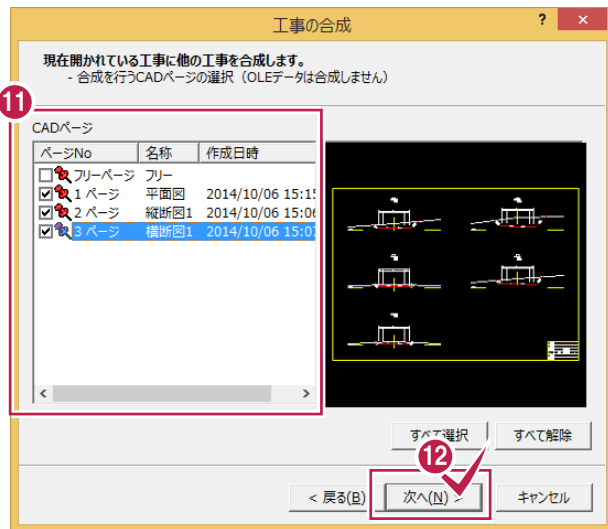
6 [次へ]をクリックします。

7 同一点番に登録されている座標に対しての処理を選択します。

8 [次へ]をクリックします。

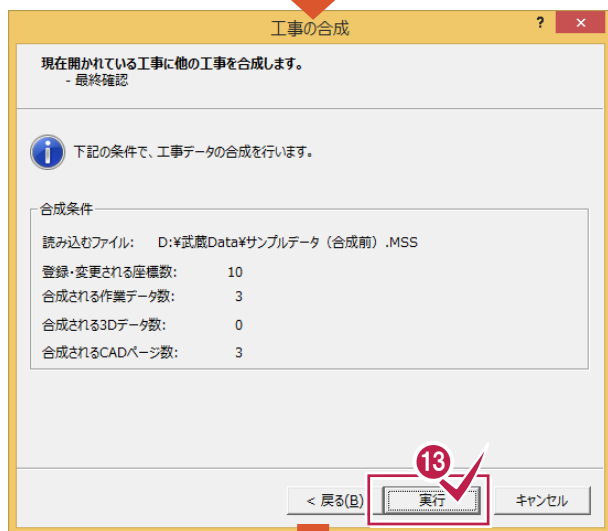
9 合成する作業データのチェックをオンにします。

10 [次へ]をクリックします。

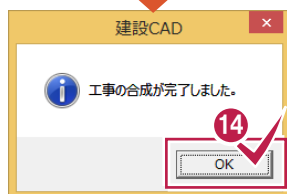


11 合成するCADページのチェックをオンにします。

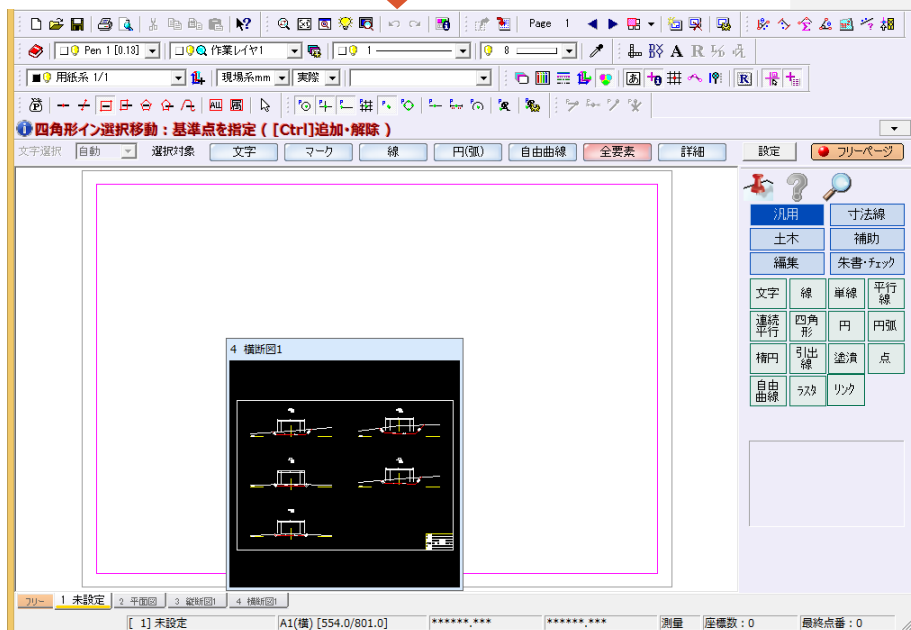
12 [次へ]をクリックします。



13 [実行]をクリックします。



14 [OK]をクリックします。





# 16 ヘルプメニューに関するQ&A

ヘルプメニューの以下のコマンドについて解説します。

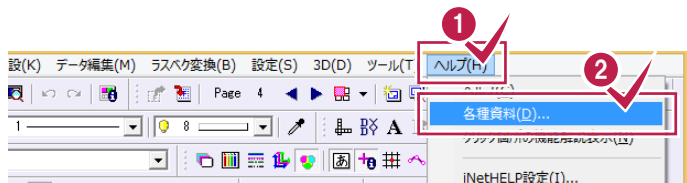
- ①各種資料(各種資料を表示する)
- ②FCコンシェルジュ(FCコンシェルジュを利用する)
- ③武蔵.TV(武蔵.TVを利用する)

## ①各種資料(各種資料を表示する)

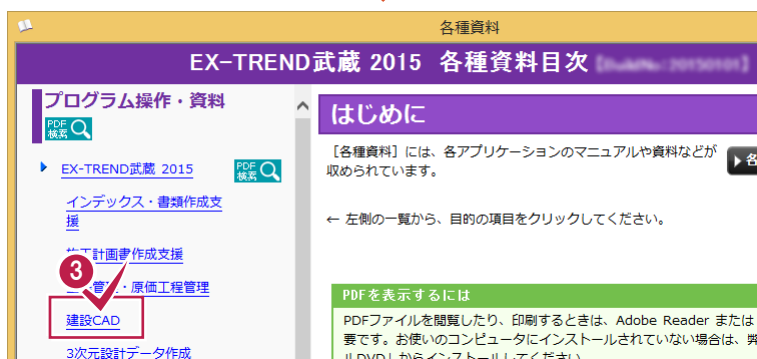
[ヘルプ]—[各種資料]で、各種資料を表示します。

「各種資料」を表示するには、INSTALL DVD-ROMから「各種資料のインストール」が必要です。

PDFの閲覧には、Acrobat、またはAcrobat Readerが必要です。



- 1 [ヘルプ]をクリックします。
- 2 [各種資料]をクリックします。



- 3 各種資料を表示したい項目をクリックします。



[PDF検索]をクリックすると、EX-TREND 武蔵のPDFを検索することができます。

CADコマンドの動画解説を表示することもできます。

左側の一覧でクリックした項目のマニュアル一覧が表示されます。マニュアル名をクリックすると、PDFが開きます。

## ②FCコンシェルジュ(FCコンシェルジュを利用する)

[ヘルプ]–[FCコンシェルジュ]で、FCコンシェルジュを利用します。

FCコンシェルジュは、製品情報や各地のイベント、セミナー情報、サポート情報やサポートコンテンツなどを、各ユーザー様専用の内容で提供する機能です。

※すべての機能を使用するには、インターネット接続環境が必要です。

**FCコンシェルジュのオンラインユーザー登録画面**が表示された場合は、必要事項を記入してユーザー登録を行ってください。登録が完了すると、「FCコンシェルジュ」が利用可能になります。

既にFCコンシェルジュでユーザー登録されている場合は、登録ユーザーの一覧が表示されます。使用するユーザーを選択すると、「FCコンシェルジュ」が起動します。

**FCコンシェルジュ**では、インターネットを利用した各種サービスが提供されます。

例えば製品情報や各地のイベント・セミナー情報、操作サポート情報をご覧になれます。またインストールされているプログラムのアップデートを行うこともできます。

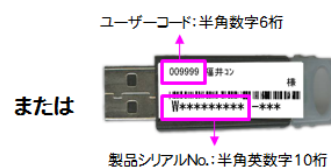
※ FCコンシェルジュの登録に必要な「お客様コード」と「製品シリアル」については、右図を参照してください。

(お客様コード = ユーザーコード)  
(製品シリアル = 製品シリアル番号)

●製品に同梱されているネット認証ライセンス証書

ユーザーコード	009999
ユーザー名	福井コ
製品シリアル番号	*****

●USBプロテクト表面のシール



## ③武蔵.TV(武蔵.TVを利用する)

[ヘルプ]–[武蔵.TV]で、武蔵.TVを利用できます。

武蔵.TVは、成果品作成に使用できる様々なデータを無料ダウンロードできる総合コンテンツ提供サイトです。

※閲覧するには、インターネット接続環境が必要です。



# 17 シンボルに関するQ&A

シンボルに関する以下の操作を解説します。

- ①登録したシンボルを配置する
- ②補正倍率、左右反転、上下反転について

## ①登録したシンボルを配置する

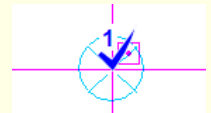
登録したシンボルは、[土木]–[シンボル]–[配置]で配置します。



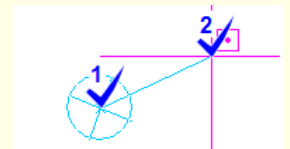
- ① [土木]をクリックします。
- ② [シンボル]をクリックします。
- ③ [配置]をクリックします。

シンボルの配置方法を選択します。

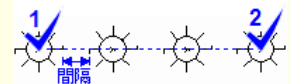
[標準配置]:シンボルで設定されている基準点の位置をクリックした位置に合わせて配置します。



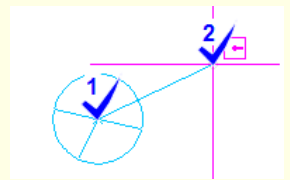
[方向指示]:1点目(基準点)を指定して、そこから2点目にクリックした位置へ方向を、シンボルの向きとして配置します。



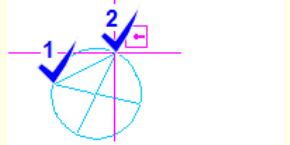
[線上連続]:2点をクリックして、指定した2点間の線上にシンボルを入力した間隔で連続配置します。



[マウス指定]:1点目(基準点)を指定して、そこから2点目にクリックした位置へ方向をシンボルの向き、1点目からクリックした位置までの距離と元サイズとの比率から倍率を計算し、シンボルを拡大・縮小して配置します。配置時の角度・倍率は、インプットバーで数値指定が可能です。

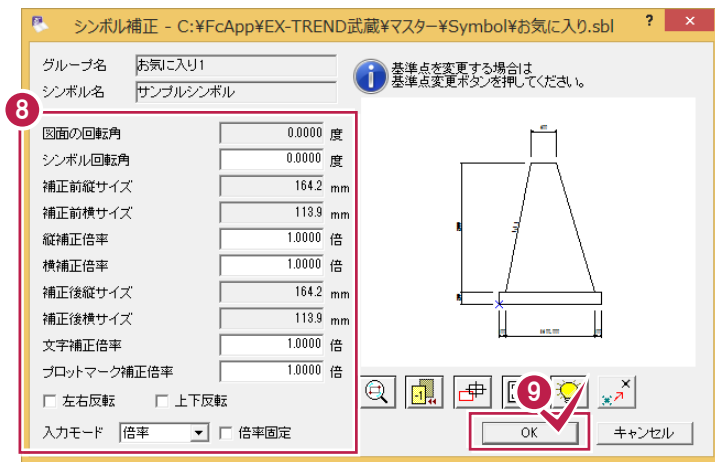


[2点指定]:[シンボル補正]ダイアログで、任意の基準点(1点目、2点目)を指定します。CADで2点指定して、1点目からクリックした位置までの距離と元サイズとの比率から倍率を計算し、シンボルを拡大・縮小・回転して配置します。



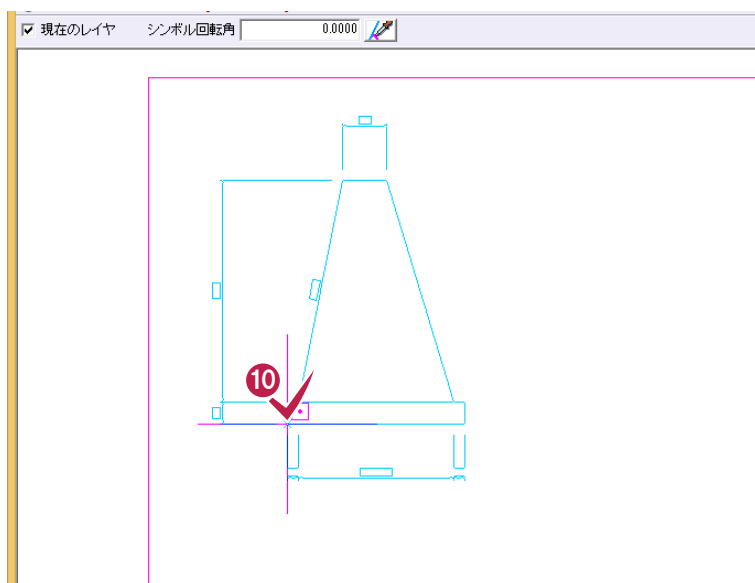
- ④ ファイルを選択します。
- ⑤ グループを選択します。
- ⑥ シンボルをクリックします。
- ⑦ [配置]をクリックします。



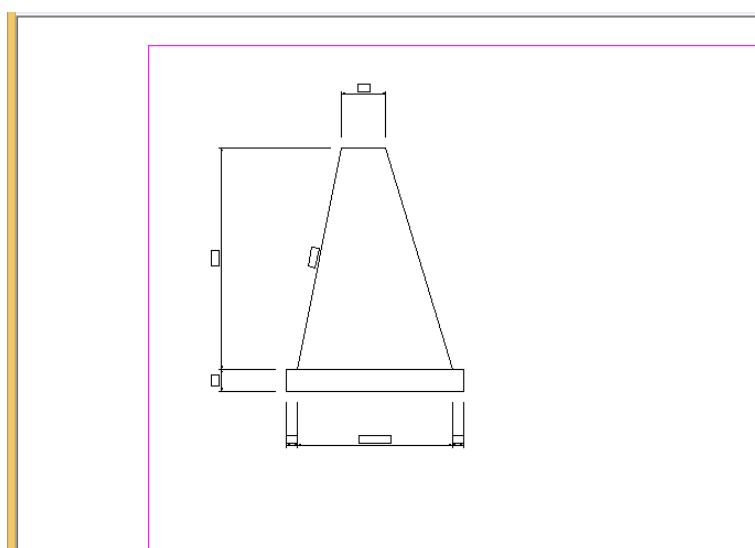


8 シンボルの補正に関する設定を行います。

9 [OK]をクリックします。



10 配置する位置をクリックします。





## ②補正倍率、左右反転、上下反転について

補正倍率、左右反転、上下反転は[シンボル補正]で設定します。

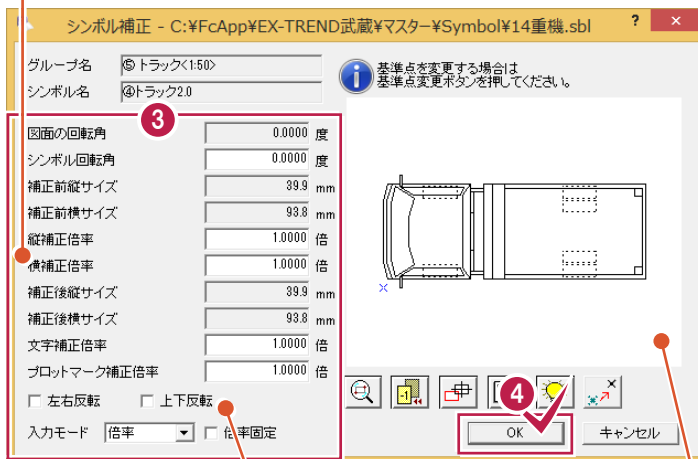
[シンボル補正]は、[シンボル入力]で[シンボル補正]のチェックをオンにしたときに表示されます。



1 [シンボル入力]の[シンボル補正]のチェックをオンにします。

2 [配置]をクリックします。

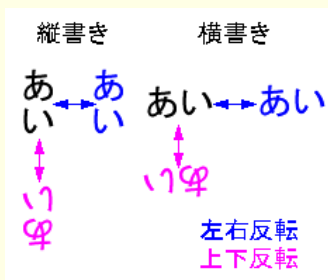
[縦補正倍率][横補正倍率]:縦、横方向に拡大、または縮小する倍率を入力します。



3 シンボルの補正に関する設定を行います。

4 [OK]をクリックします。

[左右反転][上下反転]:シンボルを左右・上下反転するときはチェックをオンにします。登録されている配置基準点も反転します。部品要素は反転できません。文字の反転は、次のようになります。



補正後のイメージを確認できます。



## 18 ラスタに関するQ&A

ラスタに関する以下の操作を解説します。

- ①画像の種類
- ②カラーラスタ・モノクロラスタの違い、ラスタデータの色について
- ③配置方法
- ④配置後の変更について

### ①画像の種類

●読み可能なラスタデータは以下の通りです。

TIFF (非圧縮・圧縮) (\*.tif、\*.tiff)、BMP (\*.bmp)、JPEG (\*.jpg、\*.jpeg) 形式  
読み込むラスタデータの量およびメモリの容量によって読み込めない場合もあります。

●書き可能なファイル形式は以下の通りです。

TIFF (非圧縮) (\*.tif、\*.tiff)、BMP (\*.bmp、\*.dib)、JPEG (\*.jpg、\*.jpeg)、PNG (\*.png) 形式

### ②カラーラスタ・モノクロラスタの違い、ラスタデータの色について

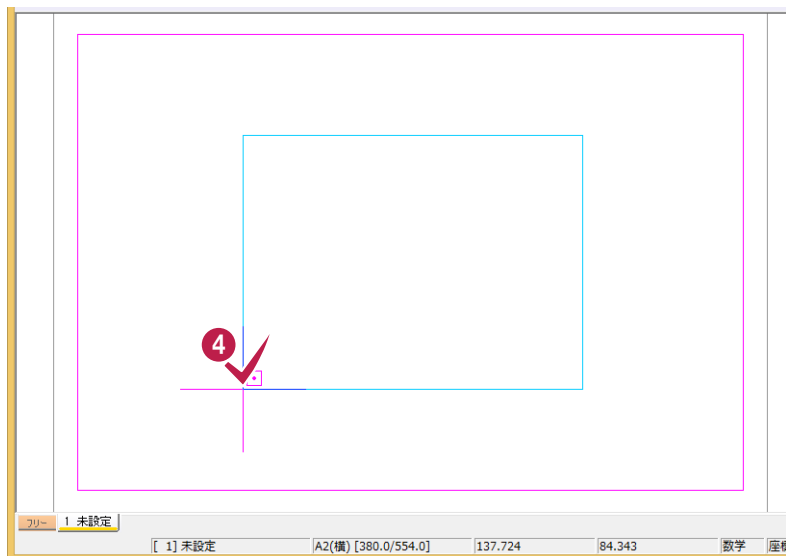
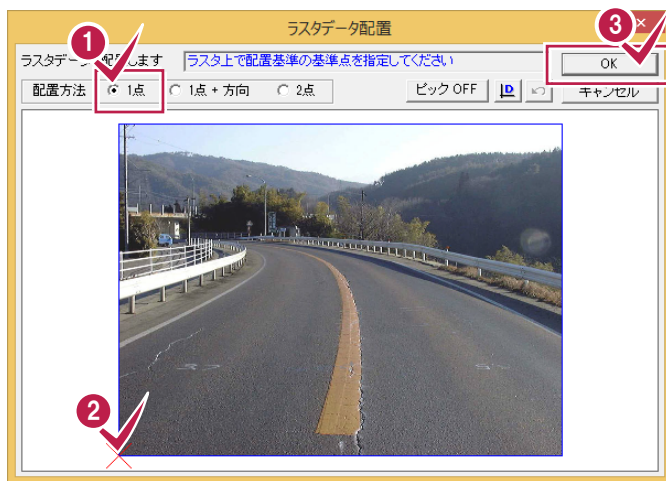
●カラー、グレースケールのラスタデータの表示色は、その色で表示します。

モノクロ(白黒の2値)のラスタデータは、[設定]ー[システムカラー設定]コマンドの[ラスタデータ]の色で表示します。

### ③配置方法

#### ●1点指定

1点指定して、これを基準に配置します。伸縮、回転配置は行いません。  
ラスターデータの実サイズで配置されます。



1 [ラスターデータ配置]の[配置方法]で  
[1点]をクリックします。

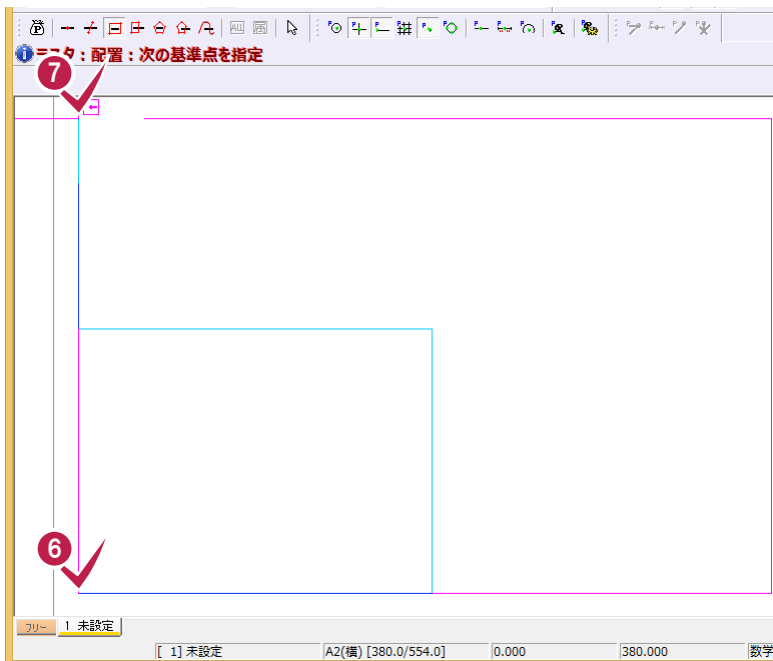
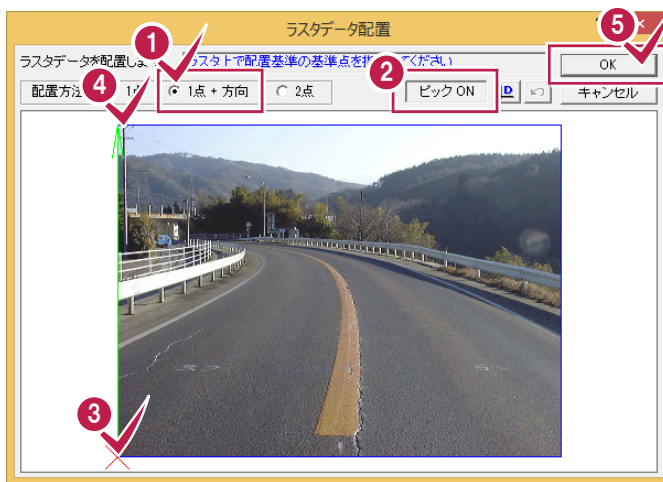
2 配置基準となる1点の位置をクリック  
します。

3 [OK]をクリックします。

4 図面上で配置する位置をクリックします。

### ● 1点方向指定

1点と方向で指定して、これを基準に配置します。サイズの伸縮は行いません。  
ラスターデータの実サイズで配置されます。

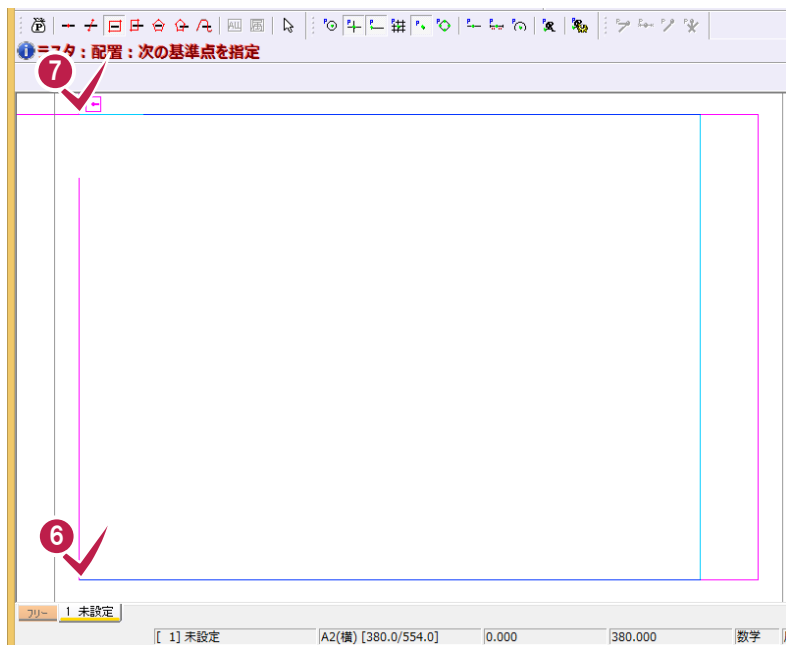
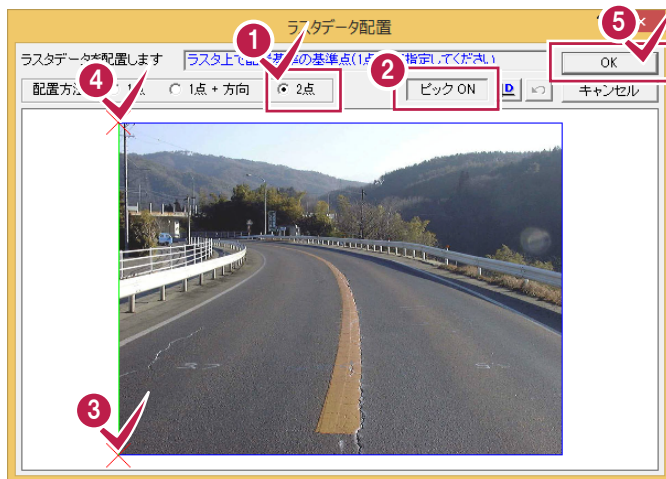


- 1 [ラスターデータ配置]の[配置方法]で[1点+方向]をクリックします。
- 2 ここでは、[ピックOFF]をクリックして、[ピックON]にします。
- 3 4 配置基準となる1点と1方向をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

- 6 7 図面上で配置する1点と1方向をクリックします。

## ●2点指定

1点を基準に、2点目で回転角と伸縮率を求め、補正をかけて配置します。



1 [ラスタデータ配置]の[配置方法]で[2点]をクリックします。

2 ここでは、[ピックOFF]をクリックして、[ピックON]にします。

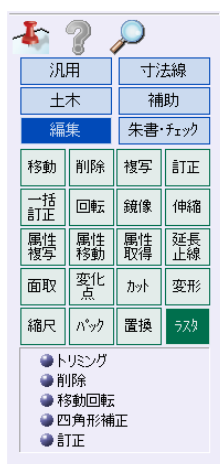
3 4  
配置基準となる2点をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

6 7  
図面上で配置する2点をクリックします。

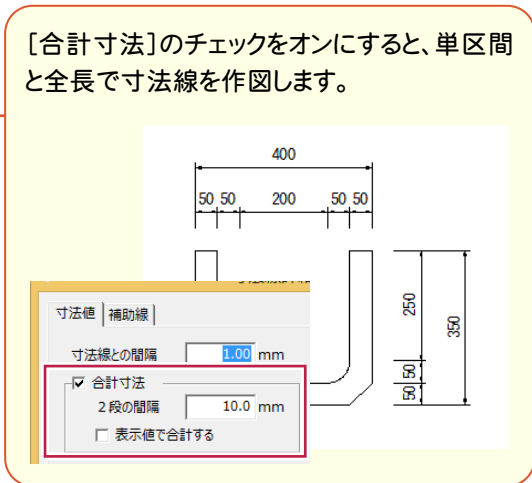
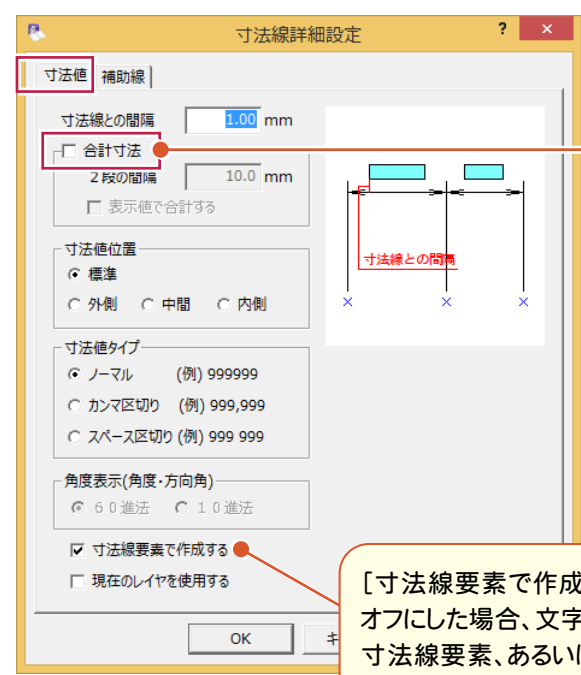
## ④配置後の変更について

配置後のラスタは、[編集]－[ラスタ]－[トリミング][削除][移動回転][四角形補正][訂正]で編集できます。

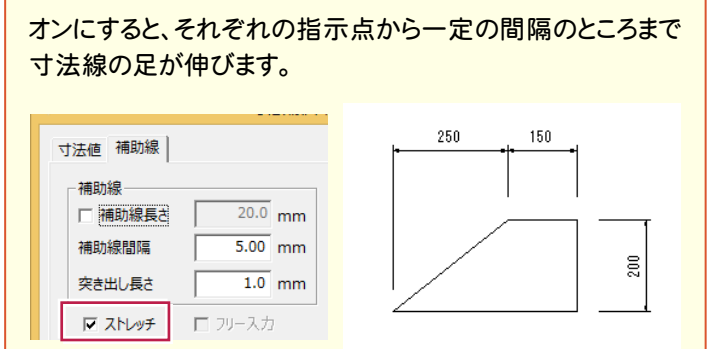
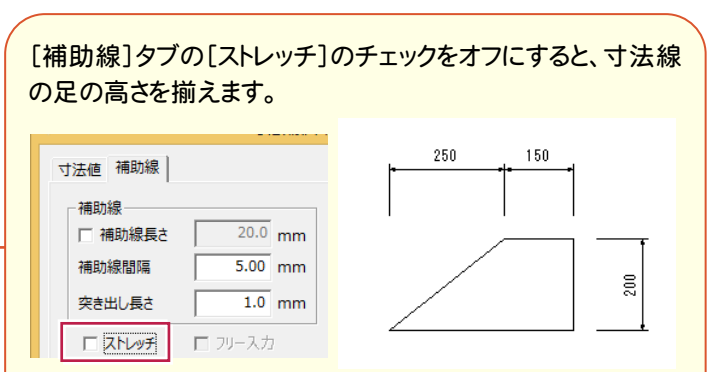
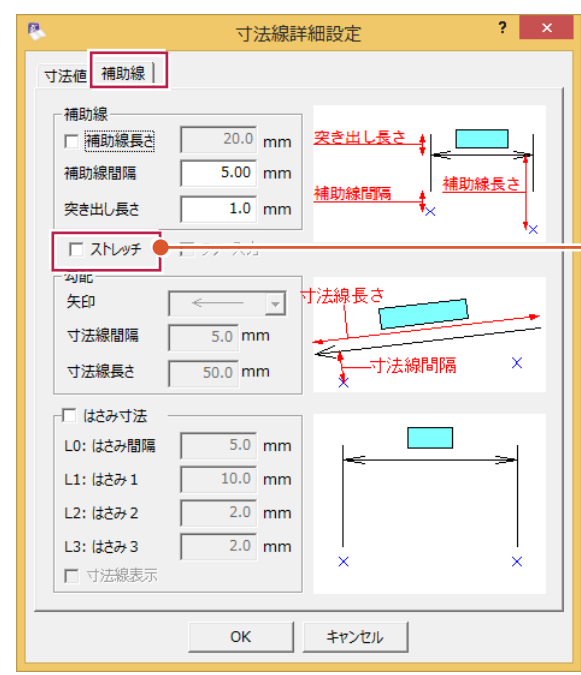


# 19 寸法線の詳細設定について

寸法線入力時のインプットバーの[詳細設定]で、寸法線の作図方法を設定できます。

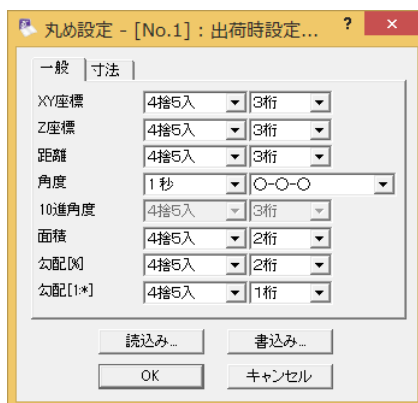


[寸法線要素で作成する]のチェックをオンにすると、寸法線を寸法線要素で作成します。オフにした場合、文字と線や円弧要素の混合で作成します。寸法線要素、あるいは、文字と線や円弧要素の混合のどちらで作成しても、寸法値と寸法線は自動的にパック化します。寸法線要素は、直線寸法・角度寸法・半径寸法・直径寸法・弧長寸法の5つに分類されます。分類の確認は[訂正]コマンドで表示されるダイアログのタイトルで確認できます。



# 20 丸めについて

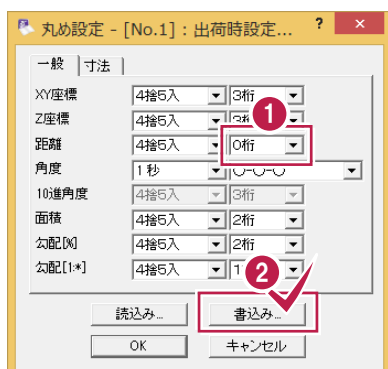
[設定]—[丸め設定]で丸めを設定できます。



設定した丸めは、[書込み]で書き込むことができます。  
また、書き込んだ丸めは、[読み込み]で読み込むことができます。

- ①設定した丸めを書き込む
- ②書き込んだ丸めを読み込む

## ①設定した丸めを書き込む



1 丸めを変更します。  
ここでは、[距離]の桁数を「0桁」に変更します。

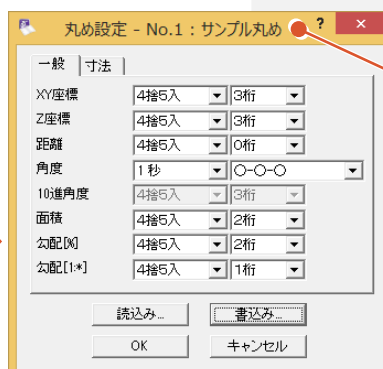
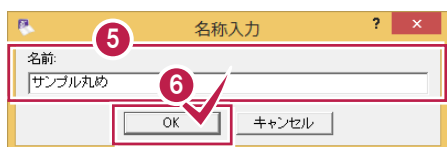
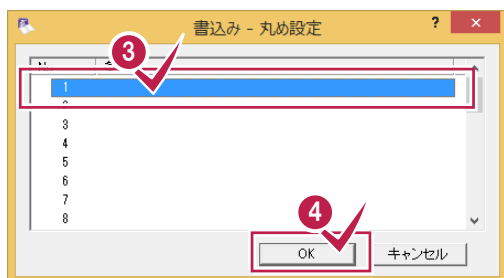
2 [書込み]をクリックします。

3 書き込む場所をクリックします。

4 [OK]をクリックします。

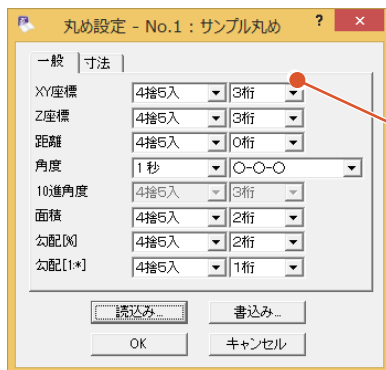
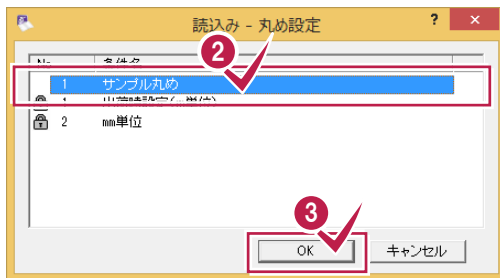
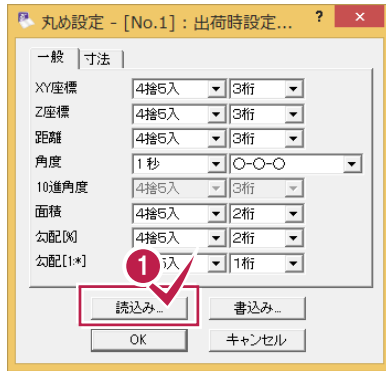
5 名称を入力します。

6 [OK]をクリックします。



丸めが書き込まれて、  
名称が表示されます。

## ②書き込んだ丸めを読み込む



丸めが読み込まれて、  
名称が表示されます。

1 [読み込み]をクリックします。

2 読み込む丸めをクリックします。

3 [OK]をクリックします。





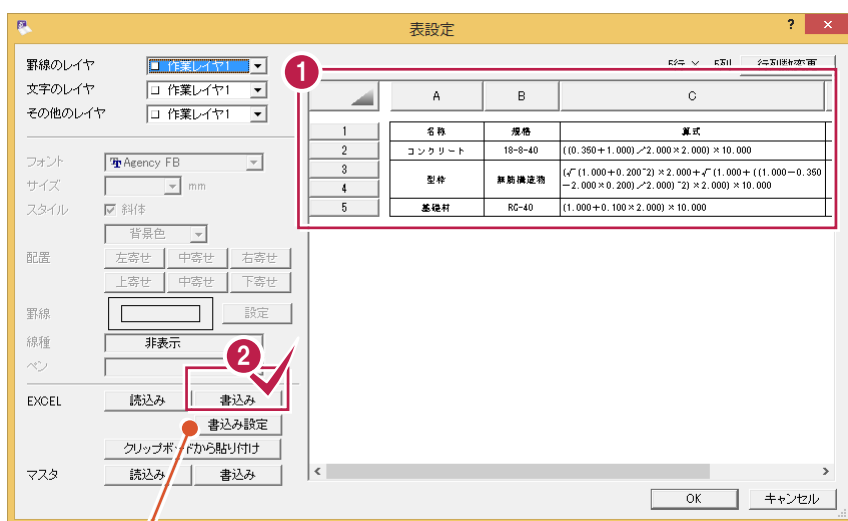
# 21 Excelデータの読み込み・書き込みについて

[表設定]の[EXCEL]の[書き込み]でExcelのデータに変換できます。

また、[読み込み]でExcelのデータを読み込みます。

- ①Excelのデータに変換する
- ②Excelのデータを読み込む

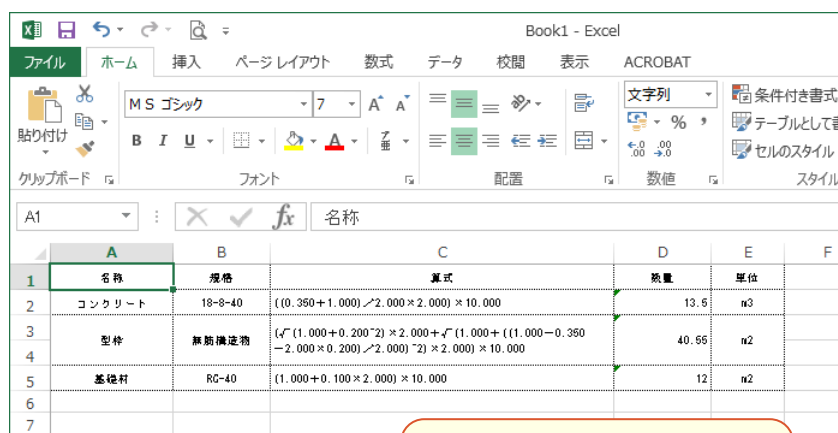
## ①Excelのデータに変換する



1 書き込む内容を確認します。

2 [EXCEL]の[書き込み]をクリックします。

EXCELへの出力の際に、  
数値を“文字”として出力  
するか、“数値”として出力  
するかを選択できます。

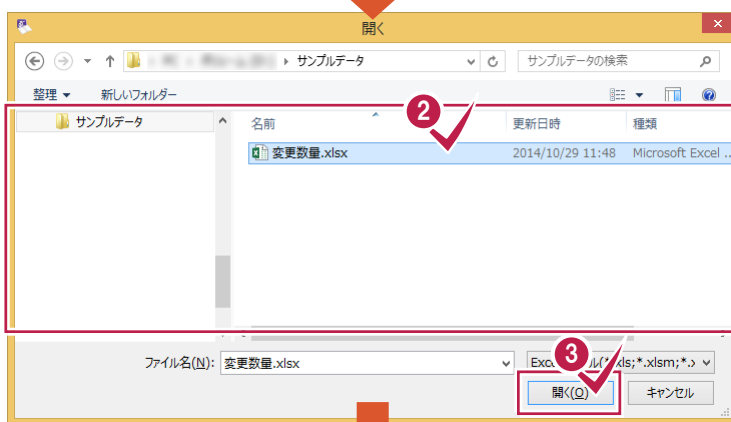


EXCELが起動して、表の内容が  
書き込まれます。

## ②Excelのデータを読み込む

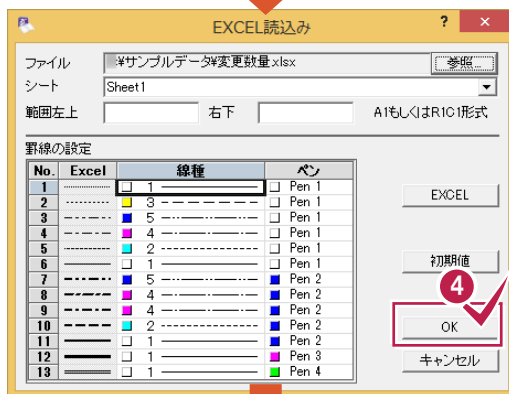


1 [EXCEL]の[読み込み]をクリックします。

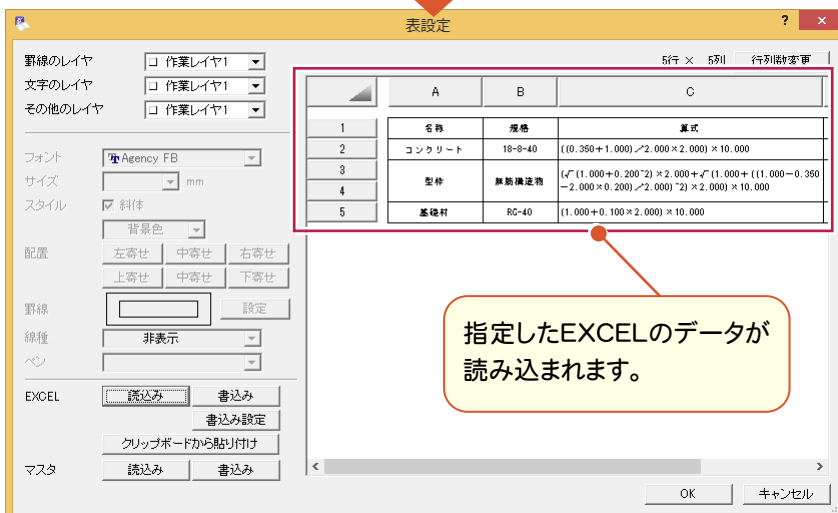


2 読み込むExcelファイルを選択します。

3 [開く]をクリックします。



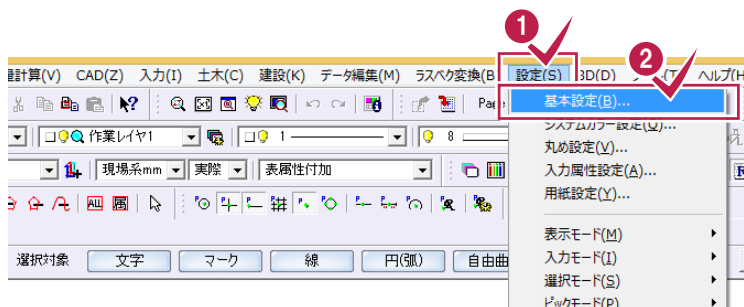
4 [OK]をクリックします。



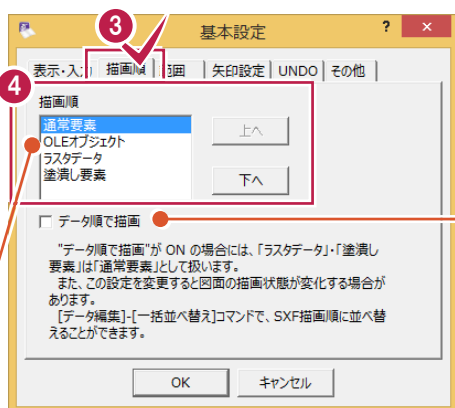


## 22 画像・色塗りデータの上下表示の変更は?

[設定] - [基本設定]の[描画順]タブで変更します。



- 1 [設定]をクリックします。
- 2 [基本設定]をクリックします。



- 3 [描画順]タブをクリックします。
- 4 描画順で、上下表示を変更します。

「OLEオブジェクト」とは、[オブジェクトの作成と貼り付け]で挿入したOLEデータのことです。

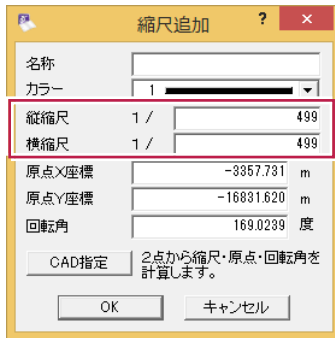
[データ順で描画]のチェックをオンにした場合は、通常要素(ラスタデータや塗潰し要素を含む)に関しては、次のような描画順で、下層から順に描画になります。

- ①要素
- ②マスク要素

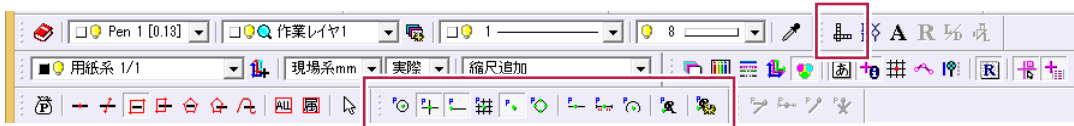
文字、マークと背面マスクの関係は変わりません。各階層での描画は、常に登録された要素順、あるいは、[データ編集]-[前面へ][背面へ]で変更になります。SXFVer3.1仕様の描画順には、[データ編集]-[一括並べ替え]で並べ替えることができます。

# 23 CAD から縮尺設定した時のQ&A

縮尺が1/499や1/501など半端な値になるときは、次の①②を確認してください。



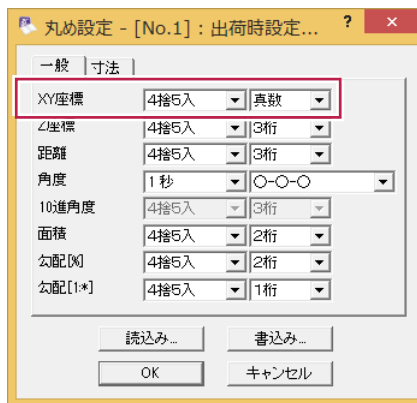
①クリックした座標の位置が違う場合があるので、ドラフタやピックモードなどを確認して指定し直す。



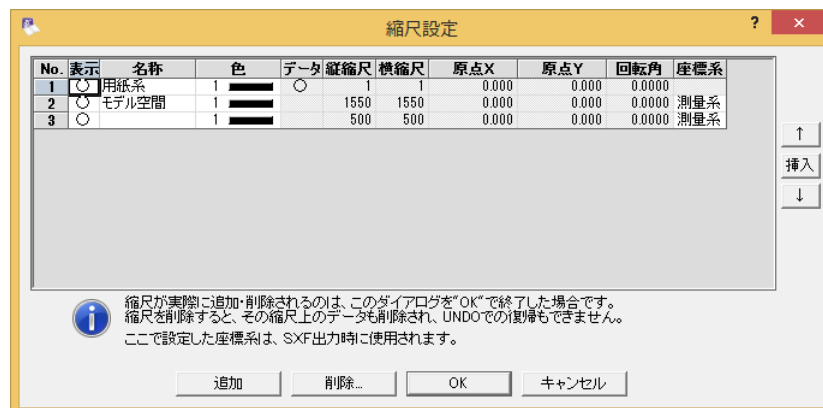
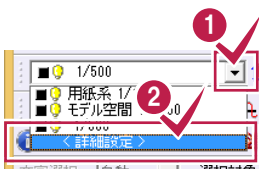
②入力した座標値が違っている場合があるので、確認して、入力し直す。

それでも改善しない場合は、③④⑤を実行してください。

- ③計測指定箇所を変えてみる。
- ④丸めを真数にする。



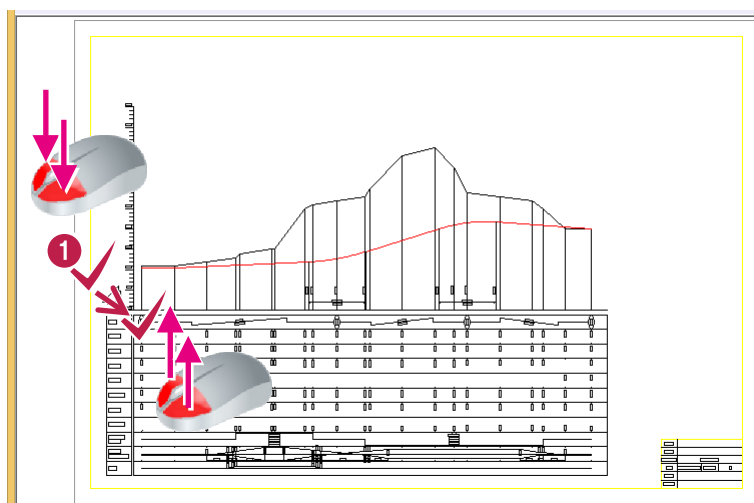
⑤縮尺を変更する。



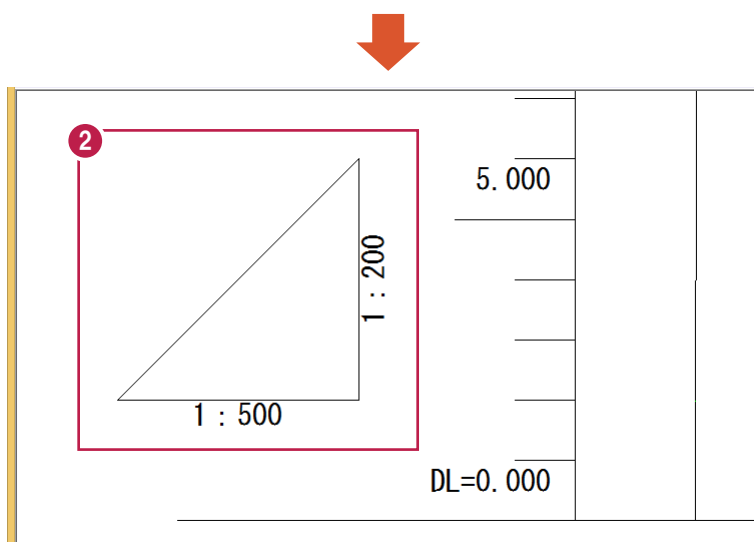


## 24 縦横異縮尺について

AutoCADでは縦横異縮尺の設定はできないので、[縮尺追加]で追加します。



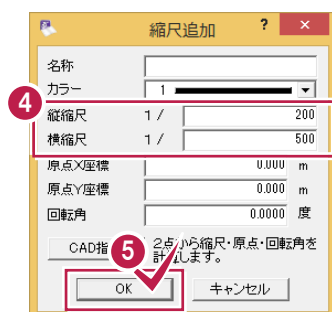
- 1 図面の縮尺表示部分を両ボタンドラッグで拡大します。



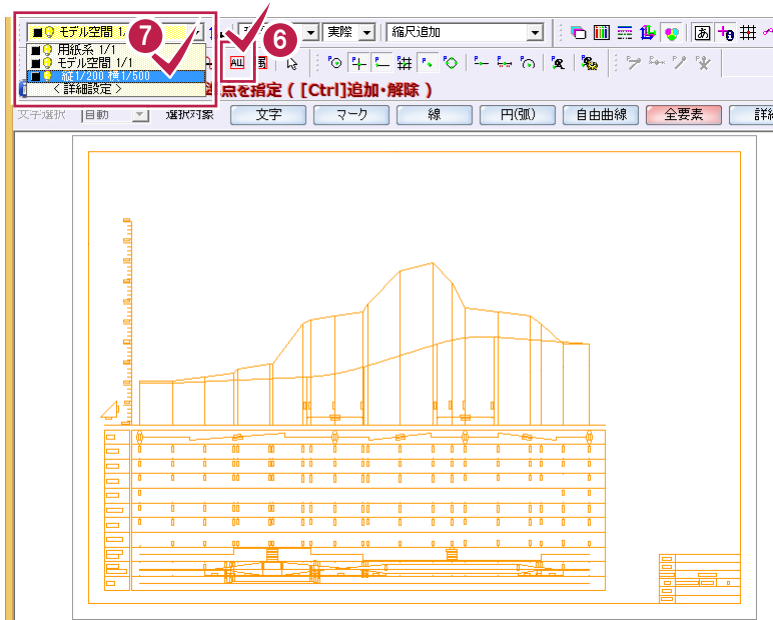
- 2 図面の縮尺を確認します。



- 3 [縮尺追加]のアイコンをクリックします。

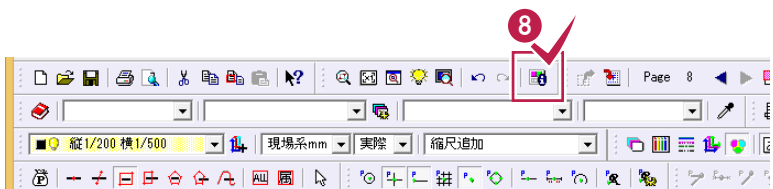


- 4 [縦縮尺]に「200」、[横縮尺]に「500」と入力します。
- 5 [OK]をクリックします。

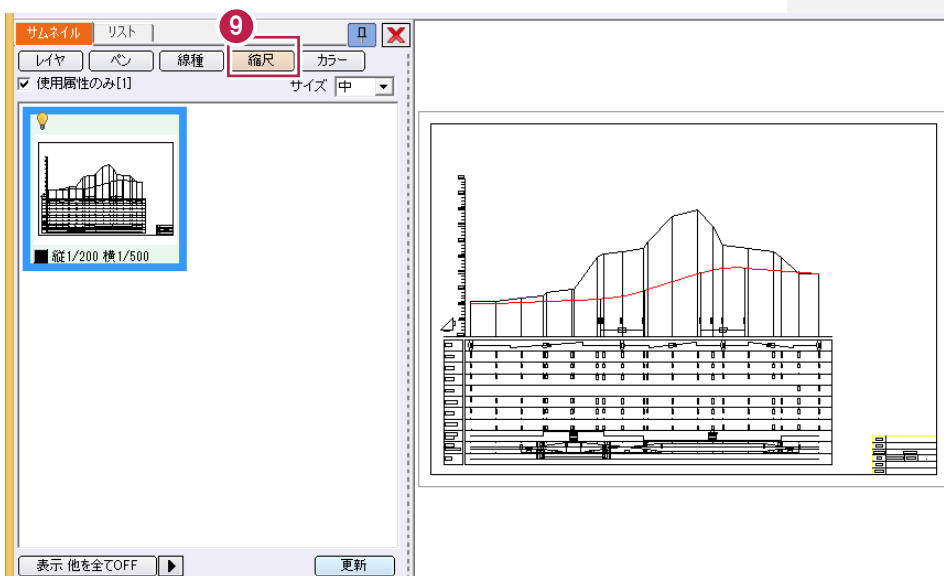


6 [全選択]のアイコンをクリックします。

7 縮尺で、追加した「縦1/200 横1/500」を選択します。



8 [形状表示]のアイコンをクリックします。



9 表示モードの「縮尺」を選択して、縮尺を確認します。

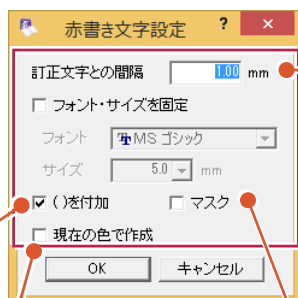
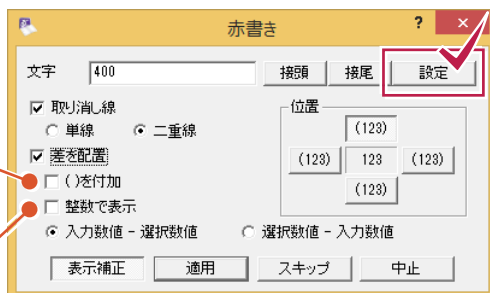


## 25 赤書きの設定について

赤書き入力時の[赤書き]の[設定]で、赤書きの文字の属性を設定できます。

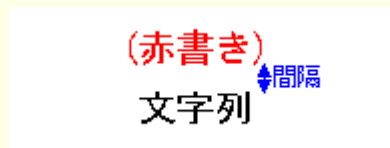
差の文字列に( )を付加する場合はチェックをオンにします。オフの場合は、付加しません。

差の文字列をmm単位(差×1000)で表示する場合は、チェックをオンにします。オフの場合は、m単位(差×1)で表示します。



赤書き文字列に( )を付加する場合は、チェックをオンにします。オフの場合は付加しません。

文字列と赤書き文字列との間隔を入力します。



[入力属性設定]コマンドで設定したレイヤ、カラーで赤書きを入力する場合は、チェックをオンにします。オフの場合は、固定レイヤ(赤書き)、レイヤの色で入力します。オン、オフ共に、ペンは[入力属性設定]コマンドの設定が有効、その他は元の文字列の属性を適用します。差の文字列、取り消し線についても同様です。

文字の背面にある線を自動的に非表示にする場合は、チェックをオンにします。

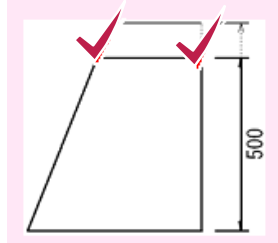
配置した文字を移動すれば線は自動的に再表示されます。



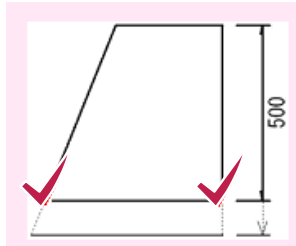
## 26 変形(寸法訂正)について

[変形(寸法訂正)]で変形する場合は、以下のように操作してください。

- 上方向の高さを変更する場合  
天端の2点をクリックします。



- 下方向の高さを変更する場合  
底面の2点をクリックします。



- 天端や底幅のみ変更する場合  
幅を変更する天端または底幅の1点をクリックします。  
天端、底面の2点をクリックすると両方の寸法が変更されます。

